

第6章 「基本オノマトペ」のリソース化

本論文の最終章である第6章では、「日本語オノマトペとその教育」の研究成果として、第5章で選定した日本語教育のための「基本オノマトペ」を、日本語学習者と教師のオノマトペ教育のためのリソースとして提示する。

始めに6.1節で、選定した「基本オノマトペ」をリソース化するための基本的な考え方とその方法、および参考とした辞書、書籍、学習教材などを挙げる。また、リソース化の4つの段階とその記述の方法について説明する。そして6.2節で、日本語教育のための「基本オノマトペ」70語について、6.1節で明らかにする方法によってリソース化し、それを本論文の研究成果として提示する。

6. 1 「基本オノマトペ」のリソース化に向けて

6. 1節では、「基本オノマトペ」をリソース化に向けて、その基本的な考え方と、具体的な方法を示す。まず、6. 1. 1項では、オノマトペをリソース化するといったとき、どのような点を考える必要があるのか、またその際に、参考にすることができる辞書や教材にどのようなものがあるのかを記す。6. 1. 2項では、リソース化の具体的な方法として4つの段階をあげ、それぞれの段階における詳しい記述方法とその前提となる考え方を示す。

6. 1. 1 リソース化の基本的な考え方

オノマトペの教育、すなわちオノマトペの学習や指導に焦点をあてようとする場合、まず取り組まなければならないことは、学習や指導の前提となる、オノマトペの意味・用法の分析とその記述であろう。ここで大切なことは、第二言語として習得するという観点からの記述である。第2章で調査・考察した通り、従来の辞書に見られる分類や記述は、おおかたの国語辞書がそうであるように日本語母語話者のためのものであり、その説明や用例はより難しい語句や文型が使用されているため、外国人学習者、特に初級の学習者には使いにくいものとなっていた。またそれらの辞書においてはいわゆる「循環定義」、すなわちある語の定義にその同義語または類義語を用いているため、説明のところにある語を引くとまた始めに引いた語に戻ってしまう、というようなことがまま見られた。このような辞書を見ている限り、学習者はその語の意味や用法をきちんと知ることができないし、同時に教師にとってもそれらは指導の際にあまり参考にならないということになる。

そこで本論文では、学習者が語の意味と用法を知るために、また教師が説明を求められた際にどのような情報が必要なのかを考えた結果、各語について以下の4つの段階をもってリソース化することとした。4つの段階とは、①統語的情報としての「用法」、②文脈を伴った「例文」、および③「例文」の詳しい「意味記述」、そして④日常的な場面における「会話例」の提示、である。それぞれの記述と提示方法については、6. 1. 2項で詳しく述べる。

ここで、意味や用法の考察と記述には、以下に挙げる辞書や書籍・教材のほかに、第3章で調査した各種言語資料、初級・中級教科書や4. 5節で考察の対象とした上級教科書・教材も参考にする。

【参考とする辞書】

- (1) 『例解新国語辞典』 林四郎・野元菊雄・南不二男編著 (1984) 三省堂
- (2) 『現代国語例解辞典 第三版』 林巨樹監修 (2001) 小学館
- (3) 『学研現代新国語辞典 改訂第三版』 金田一春彦編 (2002) 学習研究社
- (4) 『明鏡国語辞典』 北原保雄編 (2003) 大修館書店
- (5) 『基礎日本語辞典』 森田良行 (1989) 角川書店
- (6) 『理想の国語辞典』 国広哲弥 (1997) 大修館書店
- (7) 『外国人のための基本語用例辞典 第三版』 (1990) 文化庁編
- (8) 『日本語学習者のための 副詞用例辞典』 島本基編 (1992) 凡人社
- (9) 『現代擬音語・擬態語用法辞典』 飛田良文・浅田秀子 (2002) 東京堂出版
- (10) 『擬音語・擬態語辞典 角川小辞典=12』 浅野鶴子 (1978) 角川書店
- (11) 『擬音語・擬態語辞典』 天沼寧編 (1974) 東京堂出版
- (12) 『擬態語・擬音語分類用法辞典』 アンドルー・C・チャン (1990) 大修館書店
- (13) 『日英擬音・擬態語活用辞典』 尾野秀一 編著 (1984) 北星堂書店
- (14) 『擬音語・擬態語使い方辞典』 阿刀田稔子・星野和子 (1995) 創拓社
- (15) 『コウビルド英語学習辞典』 (1990) 秀文インターナショナル
- (16) *Dictionary of Iconic Expressions in Japanese* (1996) Kakehi Hisao, Lawrence Schorup and Ikuhiro Tamori Trends in Linguistics. Documentation 12, Mouton de Gruyter

【参考とする書籍・教材】

- (1) 『擬音語・擬態語の読本』 日向茂男監修 尚学図書・言語研究所編集 (1991) 小学館
- (2) 『絵でわかるぎおんご・ぎたいご：日本語の表現力が身につくハンドブック』 阿久津智 (1994) アルク
- (3) 『音とイメージでたのしくおぼえる擬声語・擬態語 (初・中級)』 山本弘子 (1993) 専門教育出版
- (4) 『ニュアンスがわかる擬声語・擬態語 (上級)』 増田アヤ子 (1993) 専門教育出版

- (5) 『外国人のための日本語 例文・問題シリーズ<14>擬音語・擬態語』日向茂男・日比谷潤子 (1989) 荒竹出版
- (6) 『(改訂版)日本語の擬音語・擬態語 Jazz Up Your Japanese with Onomatopoeia』福田浩子 (2003) 講談社インターナショナル
- (7) 『絵でわかる日本語使い分け辞典 1000』荻原稚賀子 (2006) アルク
- (8) 『「擬音語・擬態語」使い分け帳』山口仲美・佐藤有紀 (2006) 山海堂

6. 1. 2 リソース化の方法

6. 2節で、日本語教育のためのリソースとして提示する「基本オノマトペ」の意味・用法の記述は、以下の4つの段階に分けて行う。

(1) オノマトペの「用法」の提示

始めに「用法」として、各オノマトペが文中でどのように用いられるかという統語的考察を行った上で、そのオノマトペが持つすべての用法を示す。用法を示す文例は、意味がわかる範囲でなるべく簡潔なものとする。この用法提示によって、学習者は、副詞用法であれば動詞や形容詞との共起関係、また「する」動詞になるか、形容動詞的用法あるいは名詞としての用法を持つか等、当該オノマトペの文法的働きの情報を得ることができる。

また、オノマトペのアクセントは第1拍頭高型である場合が最も多いが、用法によってはアクセント型が異なる場合がある。このことも、オノマトペを使用する際には重要な情報となるので、各用法についてどのようなアクセント型で発音されるのかということを示号で表示する。以下に、「ぺらぺら」「びっくり」の例を挙げる。

1. 外国語がぺらぺらだ。(平板アクセントのため、アクセント記号は表示しない。)
2. ぺらぺらよくしゃべる。(頭高)
3. 大きな音がしてびっくりした。(中高)
4. びっくり箱をもらった。(尾高)

(2) オノマトペが用いられる「文例」の提示

次に、その語が用いられる「文脈」を示すことが重要であると考え、これまでの辞書や教材における単文レベルの例文ではなく、「文脈」を伴ったより長い例文、または複数の

例文を提示することとした。それが、**文例と意味**における「文例」である。ここで、各語が基本的なオノマトペということを考え、日本語の教科書・教材に現れた例文やオノマトペ教材等の解説に見られる用例を参考に、できる限り平易な例文を提示する。各オノマトペが複数の意味を持つ場合は、その一つ一つの意味に対応する例文を挙げる。ただし、ここでは、文学作品等におけるその作家特有の用例や、非常に臨時的に用いられていると思われる特殊な用例などは対象としない。また、用例として辞書等に記述があるものでも、日常的にあまり用いられていない用例は、学習者にとって習得の必要性が低いと考え、ここでは省くこととする。この「文例」によって、そのオノマトペが実際にどのような場面、状況のもとに用いられるかを示すことができると考える。

(3) 「文例」の〈意味〉の記述

次に、それぞれの「文例」について、その〈意味〉を詳しく記述する。意味の記述は、できる限り平易な言葉を用い、かつ具体的に行う。すなわち、従来の辞書に見られるような同義語による置き換えや類義語による言い換えで説明する循環定義を避け、その語が実際どのように使われるのか、その語を使うときの場面や状況を含めて記述する。記述方法は参考とする辞書(15)『コウビルド英語学習辞典』の方式を採用する。ここで、この辞書について簡単に説明する。

同辞書は、様々な素材に表れた現代英語のデータをコンピュータを用いて分析することにより、それぞれの語が実際どのように使われているかを明らかにした辞書である。最大の特徴は、従来の辞書で行なわれていたような、語の置き換えによる定義を避け、単語の意味を具体的な状況に即して文章をもって説明、何が主語にくるのか、どの前置詞をとるのかといった基本的な情報や、その単語の使われる場合や前後関係等を説明していることである。さらに、語の意味の配列も品詞別の枠組みをやめ、意味別の使用頻度が重視されているため、複数の意味・用法をもつ語の「よく使われる」側面が一目瞭然となるのである。以下に‘splash’（日本語で言えば「ばしゃんと水がはねる」のような意味）という語の記述例を示す。（発音記号や活用形、実例の記述は省略する。）

splash

- 1 If you **splash** around in water, you hit or disturb the water in a noisy way, causing some of it to fly up into the air.

- 2 If water **splashes** on something or splashes something, it hits it and scatters in a lot of small drops.
- 3 If you **splash** a liquid somewhere, you pour or throw it there rather carelessly.
- 4 A **splash** is the sound made when something hits water or falls into it.
- 5 A **splash** of a liquid is a small quantity of it that has been split on something.
- 6 A **splash** of colour is an area of a bright colour which contrasts strongly with the colours around it.

(4) 日常的な場面における「会話例」の提示

リソース化の最後の段階は、**会話例**である。「会話例」は、日常生活の様々な場面において交わされると考えられる短い会話例を創作し、提示する。各会話例には、〈だれが〉〈だれと〉〈いつ〉〈どこで〉〈何について〉〈どんなことを〉話しているのかという会話の背景がわかるように、場面や状況、登場人物を設定し、記述する。また、会話特有の表現や、あいづち、フィラー等もなるべく自然に近い形で提示する。

この4段階の記述と提示によって、当該オノマトペが、どんな場面で、どのような事象や状態あるいは話し手の感覚や心情について、どのように使われるのかという情報が得られるはずである。また、文法的な面からも、文中でどのような形で用いられるのか、助詞は何を伴うのか、共起する語はどんな語かということも知ることができると考える。

なお、このリソース化は、中級段階にある学習者を想定して行なっている。よって、使用した語彙や文型・表現もできるだけ中級の学習者に理解できる範囲におさえているが、用例や意味記述、会話例の中には、中級の範囲に収まっていないものがある可能性もある。また、表記については、学習者により自然な日本語をリソースとして提供したいと考え、漢字も日常的に用いているものはそのまま使用している。従って、まだ漢字力が十分でない学習者に提示する際は、振り仮名をふるなどの配慮が必要かと思われる。

6. 2 「基本オノマトペ」70語のリソース化

6. 2節では、6. 1節で示した「基本オノマトペ」のリソース化の考え方とその方法に従って、第5章で選定した日本語教育のための「基本オノマトペ」70語のリソース化を行う。始めに、6. 2. 1項で、「基本オノマトペ」70語とそのリソース化の内容について一覧で示す。そして、6. 2. 2項で、「基本オノマトペ」の各語について、その「用法」「文例と意味」「会話例」を記述し、本研究の成果として提示する。

6. 2. 1 「基本オノマトペ」70語一覧

以下に、リソース化する70語の「基本オノマトペ」について、各語の掲載ページ、および「用例」「文例と意味」「会話例」それぞれの数を一覧にして示す。

	語	頁	用例	文例・意味	会話例
1	あっさり	270	4	4	3
2	いらいら	272	3	3	2
3	うっかり	273	4	4	2
4	うろうろ	275	3	3	2
5	うんざり	277	3	3	3
6	がたがた	278	6	6	4
7	がっかり	281	3	3	2
8	がやがや	283	3	3	2
9	からから	285	6	6	3
10	がんがん	287	5	5	3
11	きちんと	289	6	6	6
12	ぎっしり	292	3	3	2
13	きらきら	294	3	3	2
14	ぎりぎり	295	6	6	3
15	ぐっすり	298	3	3	2

	語	頁	用例	文例・意味	会話例
16	ぐっと	299	6	6	3
17	くるくる	302	4	4	2
18	ぐるぐる	304	5	5	2
19	げらげら	306	3	3	2
20	こっそり	307	3	3	2
21	ごろごろ	309	10	10	6
22	ざあざあ	313	3	3	2
23	さっさと	314	2	2	3
24	さっと	316	5	5	2
25	ざっと	317	4	4	3
26	さっぱり	320	6	6	7
27	さらさら	323	7	7	7
28	しっかり	327	7	7	6
29	じっくり	330	2	2	3
30	じっと	332	3	3	2
31	じろじろ	333	2	2	2
32	すっきり	335	3	3	2
33	すっきり	336	4	4	2
34	すっと	338	4	4	3
35	すらすら	340	3	3	2
36	ずらり	341	3	3	2
37	そっくり	343	4	4	3
38	そっと	345	3	3	2
39	そろそろ	346	3	3	2
40	ぞろぞろ	348	3	3	2
41	たっぷり	349	6	6	4
42	ちゃんと	352	4	4	2
43	どきどき	354	4	3	2

	語	頁	用例	文例・意味	会話例
44	どっと	356	3	3	2
45	どンドン	357	5	5	3
46	にこにこ	360	3	3	2
47	のろのろ	361	4	4	2
48	のんびり	363	5	5	2
49	ばたばた	365	7	7	3
50	はっきり	368	5	5	3
51	ばったり	370	3	3	2
52	はっと	372	3	3	2
53	ぱっと	373	5	5	3
54	はらはら	376	4	4	2
55	ばらばら	377	5	5	3
56	びかびか	380	3	3	2
57	びっくり	381	3	3	2
58	ぴったり	382	6	6	2
59	ふと	385	3	3	2
60	ふらふら	386	6	6	4
61	ぶらぶら	389	4	4	3
62	ぶるぶる	391	3	3	2
63	ぺこぺこ	393	4	4	2
64	ぺらぺら	394	4	4	3
65	ぼうっと	396	5	5	3
66	ほっと	399	3	3	2
67	ぼんやり	400	5	5	3
68	めちゃくちゃ	402	4	4	2
69	ゆっくり	404	5	5	3
70	わくわく	407	3	3	2

6. 2. 2 「基本オノマトペ」の意味・用法の記述と会話例の提示

【1】あっさり

用例

1. 日本料理は味があっさりしている。
2. あっさりしたデザインが好きだ。
3. 兄はあっさりした性格だ。
4. チャンピオンがあっさりと負けた。

文例と意味

1. 日本料理は、洋食や中華料理に比べて、味があっさりしていると言われている。

<意味>

うどん、そば、刺身、寿司などの日本料理は、味がうすく、辛すぎたり甘すぎたり油をたくさん使ったりしていないのであっさりしています。また、りんごや梨など甘さが強すぎない果物、ほとんどの野菜、豆腐、海草などもあっさりした食品です。

2. 部屋のカーテンは、あっさりした色と柄にしたほうが、毎日見ていてあきません。

<意味>

うすいブルーや草色、クリーム色などは、色がうすくてあまり目立たないのであっさりした色です。赤や黒、緑などの濃い色は、あっさりした色とはいえません。また、うすいストライプ、小さな花の模様など、遠くから見るとほとんど柄がないように見えるシンプルなデザインのものはあっさりした柄です。

3. 兄はあっさりした性格だから、大げんかをして翌日には何もなかったように、ここにこしている。

<意味>

あっさりした性格の人は、例えばけんかをして、そのときのいやな気持ちはすぐ忘れることができます。そして、翌日には何もなかったように機嫌がよくなっているような人です。また何か失敗してもいつまでも後悔したり悩んだりしないで忘れることができます。

す。

4. きのうの試合はがんばれば勝てると思っていたのに、10対1で**あっさり**と負けてしまった。

<意味>

自分のチームのほうに相手よりちょっと強いと同じ位の実力で、がんばれば勝てるかもしれないと思っていたのに、その期待に反して簡単に負けてしまったとき、**あっさり**負けたいと言います。また、普通は言いにくいことを簡単に言ってしまったとき「**あっさり**言った」、悪いことをした後、それをすぐに認めたときも「**あっさり**認めた」と言います。

会話例

1) [病院で診察が終わったあと] A: 医者 B: 男性の患者

A: やっぱり、風邪ですね。胃腸が弱ってますから、油っこいものは避けて、**あっさり**した消化のいいものを食べるようにしてください。

B: はい。あ、先生、お酒は・・・?

A: 2、3日は、お酒もひかえたほうがいいでしょう。

B: あ、はい。わかりました。

2) [大学で] A: 女子大学生 B: クラスメートの男子

A: そうだ、この間貸した本、そろそろ返してくれない?ゼミのレポート書くのに、ちょっと見たいんだけど。

B: あ、あの本ねえ。後輩がどうしても貸してくれっていうから、貸しちゃったよ。

A: えーっ!困るなあ。で、いつ返してもらえるの?

B: いや、そいつ、大学やめて国に帰っちゃったんだ。連絡とれるかなあ・・・。

A: そんな～。**あっさり**言わないでよ。あの本、高かったんだから。

3) [会社の食堂で] A: 男性社員 B: 先輩

A: 先輩、経理課の小川さんに結婚申し込んだって聞いたんですけど、ほんとですか?うまくいきそうですか。

B: いやあ、**あっさり**断られたよ。今の仕事が面白いし、結婚すると自由がなくなるから

30歳までは結婚したくないって言われたよ。

A：そうなんですか。ほんと、このごろは女性のほうが強くなりましたね。

B：そうだな。お前も早く彼女見つけといたほうがいいぞ。

【2】いらいら

用例

1. 長い時間待たされていらいらする。
2. 隣の部屋がうるさくていらいらする。
3. ドライバーのいらいらがつのる。

文例と意味

1. レストランに入ったら、とてもこんでいた。注文して20分ぐらいたっても料理が出てこない。ウェーターは忙しそうにほかのテーブルに次々と料理を運んでいるが、30分待っても私たちのテーブルには料理がこないの、だんだんいらいらしてきた。

<意味>

何かを期待して待っているのにそのことが起こらない時、もう待つことができないとか、がまんするのがつらいと感じていらいらします。いらいらしたときは、とてもいやな気持ちになります。

2. 電車に乗ったら、となりにすわっていた3歳ぐらいの子供が騒ぎだした。でも、母親が何も注意しないので、子供の声がどンドンうるさくなってきて、私は本当にいらいらした。

<意味>

話し手にとって何かいやなこと、好きじゃない状態が起き、またそのことが続いているために、がまんすることが難しいと感じるととてもいらいらします。

3. 毎年8月のお盆休みには、車に乗っていなかに帰る人がとても多い。でも、高速道路は何十キロも渋滞しているので、運転する人のいらいらはつものる一方だ。

<意味>

道路がとてもこんでいて、なかなか車が前に進まないとき、運転している人のいらいらした気持ちがどんどん大きくなってきていらいらがつのります。

会話例

1) [会社で] A : 女子社員 B : 男子社員

A : どうしたの? なんかさっきから机の引き出しばかり開けて。

B : いや、昨日書いた今週の予定表、たしかに引き出しに入れたと思ったんだけど、それが見つからないんだよ。もうなんかいらいらしてきた。

A : そんないらいらしていると、体によくないと思うけど。

B : じゃ、いっしょに探してくれよ。

2) [学校で] A, B : 男子中学生

A : 校長先生の話って、なんでこう長いんだろう。今朝ももう 20 分以上も話してるし…。

B : それに、先週もまったく同じ話してたよなあ。

A : ほんと、何度も同じ話聞くのっていらいらするよなあ。

【3】うっかり

用例

1. 大切な約束をうっかり忘れてしまった。
2. うっかりして降りる駅を乗り過ごした。
3. うちの母親はうっかり者で困る。
4. 試験の点が悪いのは、うっかりミスが多いからだ。

文例と意味

1. 忙しかったため、大切な電話があったことを上司に伝えるのをうっかり忘れた。

<意味>

うっかり忘れたというのは、大切な約束や電話の伝言など絶対に忘れては困るようなこ

とがあるのに、ほかのことで忙しくして忘れてしまうことです。うっかり忘れたことは、自分で気がつくこともあるし、ほかの人から言われて気がつくこともあります。気がついたときにはもう遅いことが多いです。

2. 電車に乗ったら大学時代の友人に会った。久しぶりだったので、いろいろな話をしていたら、うっかりして降りる駅を乗り過ごしてしまった。

<意味>

電車に乗って、とても面白い本を読んでいたりと、だれかと夢中になって話したりしているとき、今どこの駅を通っているか全然見ないことがあります。そんなとき、自分が降りるつもりだった駅をうっかりして乗り過ごしてしまいます。

3. うちの母親はうっかり者で、よくいろいろなものを忘れてくる。この間もスーパーへ行って買い物したものは持って帰ってきたが、スーパーのかごにお財布を忘れてきた。帰ってきてすぐスーパーの店員から電話があり、あわてて財布を取りに行った。

<意味>

うっかり者というのは、よく大切な約束を忘れてたり、どこかに忘れ物をしてきたり、簡単なことをすぐ間違えたりするなど、うっかりして失敗することが多い人のことです。

4. 試験の前にいっしょうけんめい勉強しても、試験の点があまり良くないのは、うっかりミスで点を引かれているためだろう。

<意味>

試験でのうっかりミスというのは、問題をよく読まないために答えの書き方を間違えたり、問題の答えがわかっているのに答えを違うところに書いてしまったりなどの、つまらないミスのことです。うっかりミスをよくする人は、注意力が足りないことが多いです。また、一生けんめい勉強しても、うっかりミスが多い人はなかなか成績が上がりません。

会話例

1) [朝、家を出る前] A:中学生 B:母親

A: あーっ、大変。今日までに学校に出さなきゃいけないプリント、うっかり忘れてた。

B: まったく何やってるの。で、何のプリントなの？

A：修学旅行の申し込み書だよ。今日が締め切りなんだ。

B：もう、しょうがないわねえ。今すぐ書いてあげるから早く持ってきなさい。

2) [会社で] A：課長 B：女性社員

A：ちょっと、木村さん、こっち来てくれますか。

B：はい、課長、何でしょう。

A：ここ、先方の住所はいいんですけど、名前が一字違うでしょう。こういううっかりミスは困りますねえ。これからもっと注意するように。

B：はい。申し訳ありません。気をつけます。

【4】うろうろ

用例

1. 家の前をうろうろしている人がいる。
2. クマがうろうろと動き回る。
3. あっちへうろうろ、こっちへうろうろした。

文例と意味

1. 家の前を知らない男の人がうろうろしているので、なんだか気味が悪い。

<意味>

うろうろしているというのは、何か用事があるわけでもないのに、同じところを行ったり来たりしていることです。自分の家の前をうろうろしている人がいると、その人が何か悪いことをしようと考えているのではないかとか、もしかするとどろぼうかもしれないなどと考えることが多いので、不安になることが多いです。

2. 動物園のクマは、じっとしているのもいるが、たいていはうろうろと動き回っている。とても大きいクマがうろうろと動き回っているのを見ていると、やっぱり少しこわい感じがする。

<意味>

動物がうろうろと動き回るといのは、クマやライオン、ゴリラなどわりと大きな動物が、檻の中などでじっとしていないで歩き回っているようすを言います。うろうろと動いているときは、目的があるかどうかわかりませんが、見ていて落ち着かない感じがします。

3. 新しくできたショッピングセンターに家族で行ったとき、ものすごく大きな駐車場に車をとめた。帰るとき、車をどこにとめたかわからなくなってしまったので、みんなであっちへうろうろ、こっちへうろうろしてしまった。10分ぐらいうろうろして、やっととめた場所に戻ることができた。

<意味>

ショッピングセンターやテーマパークなどの駐車場がとても大きいとき、どこに車をとめたのかすっかり忘れてしまうことがあります。そうすると、同じような車が並んでいる駐車場の中を、あっちへこっちへと探して歩くことになります。そんなとき、あっちへうろうろ、こっちへうろうろすると言います。

会話例

1) [交番に近所の主婦から電話がかかってくる] A: 主婦 B: 警官

A: もしもし、駅前交番ですか。あの、2丁目の佐々木ですけど、さっきからずっと変な男が家の前をうろうろしてるんです。なんか怪しいんですけど……。

B: あー、そうですか。えっと、2丁目の何番地ですか。

A: 2丁目3の15です。あのう、すぐ見に来てもらえませんか。なんか怖くて……。

B: そうですね。今、もう一人がちょっとパトロールに出ちゃってるんですよ。それに、うろうろしてるってだけじゃあねえ。もう少し様子見といってもらえませんか。

2) [病院で赤ちゃんの誕生を待つ父親とおばあちゃん] A: 男性 B: 男性の母

A: まだかなあ、もうずいぶん時間たってると思うんだけど。

B: そうすぐには生まれないわよ。そんなうろうろ歩いてないで、少しここに座ってたらどうなの？

A: いやあ、心配でじっと座ってなんかいられないよ。

B: 大丈夫よ。

【5】 うんざり

用例

1. 宿題が多くてうんざりする。
2. 店長の小言にはもううんざりだ。
3. 乗客はうんざりした顔をしている。

文例と意味

1. 毎年夏休みになると、算数や国語のドリル、自由研究、絵日記を書くこと、何か工作を作ることなど、本当にたくさんの宿題が出る。せっかく楽しい夏休みなのに、宿題が多くてもううんざりする。

<意味>

宿題が多くてうんざりするというのは、たくさんの宿題が目前にあって、それをやらなければならないために、とってもゆううつな気持ちになることです。

2. 私がアルバイトをしているコンビニの店長は、いつもとても細かいことでうるさく注意してくる。毎日何回も同じ小言を聞かされるので、アルバイトの人たちはみんなもううんざりだと言っている。

<意味>

アルバイトの人たちが店長の小言にうんざりだというのは、店長が細かいことでいつもアルバイトの店員を注意していて、それが毎日繰り返されるので、みんなとてもいやでがまんができないという気持ちになっているということです。

3. 朝、いつもの時間に駅に着いたら、30分前に起きた事故のために電車が大変遅れているというアナウンスがあった。15分ぐらい待ってやっと来た電車に乗ったが、ものすごく混雑していて、少し走ってはすぐ止まるというのろのろ運転だったので、乗客はみなうんざりした顔をしていた。

<意味>

事故で電車が止まったり、とても遅れているときは、どの電車もとても混雑するし、前

の電車がつかえているので、電車がなかなか進みません。でも、乗客は降りることもできないし、込んだ電車の中で押されて苦しいし、時間もいつもの何倍もかかるので、もう本当にいやな気持ちになります。そんなとき、乗客はみなうんざりした顔をしていると言います。

会話例

1) [高校の教室で] A : 学生 (女性) B : 学生 (男性)

A : 来週、数学のテストがあるの、知ってる？

B : えっ、またテスト？ 今週英語のテストがあったばかりなのに・・・。

A : 本当、テストばかりでうんざりするよね。

2) [アパートで] A : アパートの住人 (男性) B : 大家さん (女性)

A : (ドンドン) 佐藤さん、佐藤さん。

B : はい、ああ、大家さん、こんばんは。

A : 佐藤さん、夜は静かにしてっていつも言ってるでしょ。

B : ああ、すみません。ちょっと友達が来てるもので・・・。

A : とにかく、うるさいのは、もううんざり。今度うるさくしたら出て行ってもらいますからね。

B : わかりました。気をつけます。

3) [待ち合わせ場所で] A : 彼 B : 彼女

A : ごめん、ごめん。待った？

B : どうしたの。こんなに遅れて。

A : ごめん。実は車両故障で電車がしばらく止まってたんだよ。

B : また～？ 最近、電車よく止まるよね。

A : うん。電車に乗ってる人もみんな「またか」って感じでうんざりした顔してたよ。

【6】がたがた

用例

1. 地震がきて、戸ががたがた揺れた。
2. 古い机なのでがたがたする。
3. 寒くてがたがた震える。
4. 客が店員にがたがた文句を言う。
5. この車はもうがたがただ。
6. 社長が急に亡くなって、会社ががたがたになった。

文例と意味

1. きこの夜の夜、地震があった。戸や窓ががたがた揺れて、本棚から本も落ちてきたので、少しこわかった。

<意味>

少し大きい地震がきたときは、戸や窓、本棚や机などもかなり揺れてがたがたと音がします。そして、本棚やたんすの上から物が落ちてくることもあります。

2. これは、私が小学校に入ったときに買ってもらった机です。もう30年使っている古い机なのでがたがたして安定しませんが、思い出があるので捨てることができません。

<意味>

机やいすなどの家具ががたがたするというのは、古くなったり、または安物だったりするために、家具が安定していないことです。がたがたするいすは、座るといすが傾いたり、体が少しゆれたりして、座っていてちょっと危ない感じがします。

3. 2月の寒い朝、バス停でバスを待っていたら雪が降ってきた。コートも着ていないし、手袋もマフラーもしていなかったなので、寒くてがたがた震えてきた。

<意味>

とても寒い日に、コートも着ないで外で長い時間立っていると、体がどんどん冷えて震えてしまいます。そんなとき、体ががたがた震えると言います。また、とても怖い経験をしたときにも、がたがた震えます。

4. レストランで、となりのテーブルに座っていた中年の男性が、注文した料理がなかな

か来ないといって、若いウェイトレスに**がたがた**文句を言っていた。

<意味>

レストランで注文した料理がなかなか出てこない、気の短いお客はとても腹を立てて、ウェイトレスに**がたがた**文句を言うことがあります。**がたがた**文句を言うというときは、何度も同じことを繰り返したり、相手がとても困っているのに文句を言うのをやめないで、しつこく言い続けるという感じがあります。

5. 今乗っている車は、結婚したときに買ったものだから、もう15年も乗っていて**がたがただ**。そろそろ新しい車を買わなければならないと思っている。

<意味>

車が**がたがただ**というのは、車が古くなってエンジンの調子が悪だけでなく、車体のあちこちに傷があったり、こわれている部分があったりすることです。**がたがた**の車は、外見もちろん良くないですが、乗った感じも良くなかったり、運転する人もちょっと不安だったりします。

6. 先週、社長が交通事故で急に亡くなった。小さい会社で、社長一人ですべて決めていたので、会社が**がたがた**になった。

<意味>

会社が**がたがた**になるというのは、今まで一人で何でも決めていた社長が急に亡くなったりして、これからどうしたらいいのか誰もわからなくて、会社が混乱した状態になることです。

会話例

1) [家で] A: 小学生の子ども B: 母親

A: ねえ、お母さん。さっきから窓が**がたがた**いってるよ。なんか怖いよ。

B: そうね、大きい台風が来てるからね。風が強くなってきたんでしょう。

A: 大きい台風が来てるって、うち、大丈夫? 倒れたりしない?

B: 大丈夫よ。台風なんかで倒れたりしないから、安心しなさい。

2) [大学の教室で] A: 女子大学生 B: 男子大学生

A：木村くん、真っ青な顔してるけど何かあったの？

B：いやあ、今朝来るときにバイクの事故見ちゃってさ…。すごい血が流れてて、たぶん死んじゃってたと思う。

A：そうなんだ。だから**がたがた**震えてるのね。大丈夫？

B：なんか震えが止まらなくて、字も書けないよ。

3) [中学校の授業で] A：教師 B, C, D：中学生

A：じゃ、今日の宿題は、このページの単語全部を20回ずつノートに書いてくること。提出は明日。わかったか？

B：えーっ！先生、それ無理ですよ。今日は数学と歴史、それに美術の宿題もあるし……。

C：そうですよ、先生。あさってじゃだめですか？

D：20回じゃなくて、10回とか…。

A：だめだめ、明日までに20回ずつだぞ。みんな、**がたがた**言わないで、ちゃんとやっ
て来いよ。

B, C, D：はい。

4) [高校の野球場で] A：野球部の部員 B：女子マネージャー

A：あーあ、もうどうするんだろう。来週、大事な試合があるっていうのに、エースの木村がけがするなんて。最悪だよ。

B：そう、困ったね。エースの木村くんが出られないと、あとは1年生ピッチャーになるよね。

A：それってほんと大変だよ。もうチームが**がたがた**だよ。

B：そんなこと言わないで、みんなで何とかがんばろう！

【7】がっかり

用例

1. 料理がまずくて**がっかり**した。
2. 不合格の知らせに**がっかり**させられた。

3. 仕事がうまくいかなくて**がっかり**だ。

文例と意味

1. 会社の近くに新しいレストランができた。外から見た店の感じがとても素敵でさっそく同僚と行って見たのだが、料理があまりおいしくなかったので、**がっかり**してしまった。

<意味>

外から見て素敵な感じのレストランに入るときは、料理もきっとおいしいだろうと期待します。でも料理を食べてみたら、あまりおいしくなかったというとき、**がっかり**したと言います。また、ほかの人からおいしい店だと聞いていたのに、自分ではあまりおいしくないと考えたときも**がっかり**します。

2. 入学試験の合格発表を見に行った息子から電話が来た。去年と同じ大学を受けたのだが、今年も不合格だったという知らせに、本当に**がっかり**とさせられた。

<意味>

入学試験の合格発表は、結果を見たり聞いたりするとき、本当にどきどきします。もし合格していたら大喜びできますが、不合格だったときは本当に残念な気持ちになり、体の力がなくなる感じがします。子供が不合格だったという知らせを聞いた親は、**がっかり**とさせられたと言います。

3. 課長が、お客と大事な仕事の話があるからと言って出かけていった。でも、その仕事の話はうまくいかなかったらしく、「もう**がっかり**だ」と言いながら帰ってきた。

<意味>

もう**がっかり**だ、というのは、何か期待していたことがうまくいかなくて、とても**がっかり**した、残念だということです。例えば、大事な仕事の話でお客に会いに行った課長が、「もう**がっかり**だ」と言ったというのは、その仕事の話が失敗に終わったので、課長はとも失望しているということです。

会話例

1) [大学の入学試験合格者発表の掲示板の前で] A: 高校生 B: Aの友達

A: あれっ！ おれの番号、ないかも。やっぱり、だめだったのかー。

B：えっ、ほんとか？よく見ろよ。お前、何番だ？

A：えっと、3125番。

B：3125か……。えっと、3122……。3129……。あ、ほんとだ、ないよ。

A：あーあ、だめだ。もうおれ、どこにも受からないよ。

B：ま、そんな**がっかり**するなよ。あとまだ2校受けるんだろ。

2) [レストランの前で食事を終えて出てきたところ] A：女子社員 B：Aの同僚

A：ねえ、なんかこの店、それほどおいしくなかったよね。どう思った？

B：うーん。木村さんが、すごくおいしいからぜひ行ってみて、って言ってたからすごく期待してたんだけど。

A：ほんと。なんか**がっかり**だね。

【8】がやがや

用例

1. 生徒たちが**がやがや**さわいでいる。
2. パーティ会場は**がやがや**していた。
3. **がやがや**した店は好きじゃない。

文例と意味

1. 小学校3年生のとき、クラスの担任は大学を出たばかりの若い先生だった。それで、生徒たちはいつも**がやがや**さわいでいて、先生もぜんぜん注意しないので、授業中もいつもとてもうるさかった。

<意味>

教室で生徒たちが**がやがや**さわいでいるというのは、先生がいて授業をしているのに先生の話をあまり聞いていないで、となりの人や近くの人と少し大きな声でおしゃべりをしていて、教室がうるさくなっているようすです。

2. コンサートが始まる10分前、ロビーにはまだたくさんの客がいて、**がやがや**してい

た。しかし、5分前にベルが鳴ると、客たちはコンサートホールに入っていく、ロビーは静かになった。

<意味>

コンサートが始まる前は、客たちはロビーでコンサートが始まるまで、一緒に来た家族や友人、またその日にそこで会った知り合いなどと、いろいろな話をしながら待っています。だから、ロビーはおおぜいの人話し声で少しうるさくなりますが、そんなとき、ロビーが**がやがや**していると言います。

3. 友達と大切な相談をするときは、**がやがや**したところではなく、静かなところで話したほうがいい。

<意味>

がやがやしたところというのは、にぎやかな通りや客がたくさん入っている店など、大勢の人がみなそれぞれいろいろな話をしているために、近くにいる人の声も少し聞こえにくいというようなところです。

会話例

1) [小学校の教室で] A : 校長先生 B : 若い先生

A : 鈴木先生、このクラス、本当にうるさいですね。

B : あ、そうですか。でも、それは子供たちが元気だってことだと思います。

A : いやあ、そうかもしれないけど、授業中もこんなに**がやがや**うるさいのはちょっとねえ……。

B : あ、はい。授業中は、もう少し静かにするように注意します。

2) [喫茶店で] A : 女性社員 B : 男性社員

A : あのう・・・この間注文した商品の件なんですけど、やっぱりもう少し……。

B : えっ？何ですか？ すみません、よく聞こえなくて。なんか、まわりがうるさいですね。こんな**がやがや**した店だと、落ち着いて話もできませんね。

A : そうですね。ほかの店にうつりましょうか。

【9】 からから

用例

1. のどがかわいて、**からから**だ。
2. 洗濯物が**からから**に乾いた。
3. **からから**天気の日が続く。
4. 財布の中はいつも**からから**だ。
5. 缶をふると、**からから**音がする。
6. **からから**と笑う声が聞こえる。

文例と意味

1. 暑い日に、外でテニスの練習をしたので、のどが**からから**だ。冷たい水かジュースを飲みたい。

<意味>

暑い日に、外でスポーツをしたり、長い時間歩いたりすると、のどがとてもかわきます。そんなとき、のどが**からから**だとか、のどが**からから**にかわいたと言います。

2. 今日はとてもいい天気なので、朝9時ごろに干した洗濯物が、お昼すぎにはもう**からから**に乾いてしまった。

<意味>

天気がいい日に干した洗濯物は、短い時間でもとてもよく乾きます。そんなとき、洗濯物が**からから**に乾いたとか**かららつ**と乾いたと言います。**からから**に乾いた洗濯物は、とても軽い感じがしますし、触るとふんわりとやわらかく、いい匂いもします。

3. 今年の夏は雨が少なく、毎日**からから**天気の日が続いている。ダムの水もどんどん減っていて、水不足が心配だ。

<意味>

からから天気というのは、毎日晴れの日が続いていて雨が全然降らないときの天気です。**からから**天気が続くと、空気も地面もとても乾燥しますし、川やダムの水も少なくなってくるので、大きな都市では水不足が心配されることもあります。

4. 学生するとき、アルバイトをして給料をもらってもすぐ使ってしまった。だから財布の中はいつも**からから**だった。

<意味>

財布の中が**からから**だというのは、財布にお金全然入っていない、つまり財布の中が**からっぽ**だということです。学生時代や若いときはお金がない人が多いので、財布にお金がたくさん入っているというより、お金がなくて**からから**だということがよくあります。

5. テーブルの上にあったきれいな缶をふったら、中で**からから**と音がした。缶を開けてみると、中にキャンディが一つだけ入っていた。

<意味>

缶をふって**からから**と音がするというのは、缶の中に何か小さくてかたいものが入っていて、それが缶に当たるときに音が聞こえるということです。缶の中で**からから**と音がするものは、かたくて小さいもの、例えばびんのふたとかキャンディ、小さな石ころなどです。

6. 授業中、先生がとてもおもしろい冗談を言ったので、男の学生たちが**からから**と笑った。

<意味>

からからと笑う声というのは、ふつう男の人が少し高い声で楽しそうに笑うときの声です。女の人が笑うときには使いません。**からから**笑うという表現は、小説などで見ることはありますが、最近の話し言葉ではあまり使われていません。

会話例

1) [スポーツ大会で] A: 若い女性 B: Aの友人 (男性)

A: 今日ほんと暑いねえ。この試合、何時までだっけ?

B: えーと、2時半までかな?でも、次の試合も見てから帰るだろう?

A: そうね。でもわたし、さっきから何も飲んでないからもうのどが**からから**なんだ。

B: じゃ、何か冷たい飲み物でも買ってこようか。

A: うん、お願い。

2) [お祭りで] A : 4歳ぐらいの男の子 B : 父親

A : ねえ、お父さん、あのからからって鳴ってるの、何？

B : あ、あれは風車って言って、風がふくとくるくる回るんだよ。

A : おもしろいね。ぼく、ほしいなあ。

B : そうか。じゃ、一つ買ってやろう。

3) [農家で] A : 農家の主人 B : 妻

A : 今日も雲ひとつないからから天気かあ。

B : ほんとに。こう毎日晴ればかり続くと、畑がからからになっちゃいますね。

A : ああ、少しは雨が降ってくれないと困るよ。

【10】がりがん

用例

1. がりがん工事をする音が聞こえる。
2. 野球のコーチががりがん怒鳴っている。
3. 二日酔いで頭ががりがんする。
4. クーラーをがりがんにきかせる。
5. レポートをがりがん書く。

文例と意味

1. 家の近くに新しい道路を作っている。毎日がりがん工事の音が聞こえてきて本当にうるさい。

<意味>

ビルの建設工事や道路工事をしているところでは、時々話し声が聞こえないほど大きな音がしていることがあります。そんな時、工事の音ががりがん聞こえると言います。

2. 高校の野球部のコーチは本当に厳しい人で、ちょっとミスをしただけでもすぐにがりがん

がん怒鳴る。

<意味>

がんがん怒鳴るといのは、とても大きくて強い声です。がんがん怒鳴る声を聞いていると、頭も痛くなるし、とても嫌な気持ちになります。

3. 昨日は久しぶりに会った友人と夜遅くまで飲んだので、今朝は頭ががんがんする。

<意味>

前の晩にお酒を飲みすぎると、次の日二日酔いになって、気分が悪かったり頭が痛くなったりします。特に頭がとても痛くて、何かでなぐられているように感じるとき、頭ががんがんすると言います。

4. ビルの中はエアコンをがんがんにきかせていて、寒いぐらいだった。

<意味>

夏の暑いときに、部屋のエアコンの温度設定をとても低くして、ちょっと寒く感じるぐらいに冷やすことを、エアコンをがんがんにきかせると言います。

5. 学期末のレポートの締め切り日が近づいてきたので、毎日朝から図書館に行って、レポートをがんがん書いている。

<意味>

レポートをがんがん書くといのは、ゆっくり書いていたら締め切りに間に合わないというような時、1日中パソコンの前に座って、いつもより速いペースで、とにかくどんどんレポートを書き続けるということです。

会話例

1) [オフィスで] A, B : 女子社員

A : ねえ、この部屋ちょっと寒くない？

B : そうね。冷房がちょっと強すぎるみたい。

A : こんなにがんがん冷房きかせたら、体が冷えておかしくなっちゃうよ。

B : ほんと。真夏なのに長袖着てまだ寒いなんて変だよ。

2) [グラウンドで野球部の練習を見ているところ] A, B : 男子高校生

A : 野球部のあの新しいコーチ、こわそうだな。

B : そう、さっきから**がんがん**怒鳴ってばかりだぜ。

A : あんなに怒鳴られたら、俺なんかすぐやめたくなっちゃうよ。

B : ま、運動部なんてみんな同じようなものさ。怒鳴らないと、練習してる感じがしないってことなのかもな。

3) [大学の教室で] A, B : 男子大学生

A : おい、山田、どうしたんだ？さっきから元気ないみたいだけど。

B : いや、きのうゼミの飲み会で先輩に思い切り飲まされちゃって。二日酔いで頭が**がんがん**するんだ。

A : そうか。そりゃつらいよな。今日はもう早退すれば？

B : うん、そうする。帰って少し寝るよ。

【11】きちんと

用例

1. 毎日朝ごはんを**きちんと**食べている。
2. 本棚に本を**きちんと**並べる。
3. 家賃を毎月**きちんと**払う。
4. 最近の子は**きちんと**あいさつができない。
5. 娘は、**きちんと**した人と結婚させたい。
6. 面接の日は**きちんと**した服を着ていく。

文例と意味

1. 朝はいつも時間がなくて、朝ごはんを**きちんと**食べられないことが多い。だから、学校へ行ってもすぐお腹がすいてしまう。

<意味>

朝ごはんをきちんと食べるというのは、パンとコーヒーだけとか、果物を食べるだけとかではなく、和食ならご飯にみそ汁、卵焼きと野菜の料理というように、栄養のバランスを考えていろいろな物を食べることです。朝ごはんをきちんと食べないと、学校や会社へ行行ってすぐお腹がすいてしまいます。

2. 教科書や本が増えて机の上や部屋の中が本でいっぱいになってしまったので、本棚を買った。本棚に本をきちんと並べて入れたら、部屋がすっきりしてとてもいい気分になった。

<意味>

本棚に本をきちんと並べて入れるというのは、いろいろな種類やサイズがある本を、なるべく同じ種類、同じサイズのものと一緒にして本棚にきれいに入れることです。本がきちんと並べてあると、見た目もとてもきれいですし、どこに何の本があるかすぐわかるので便利です。

3. アパートや家などを借りるとき、一番大切なのは毎月家賃をきちんと払うことだ。

<意味>

家賃をきちんと払うというのは、例えば毎月月末までに払うという約束をしていたら、必ずその月の30日か31日までに、決められた金額を払うという意味です。払う日が1日でも遅れたり、金額が足りなかったりしたら、きちんと払ったことにはなりません。

4. 最近の子どもはきちんとあいさつができないと言われている。家庭の中でも、両親や兄弟にきちんとあいさつをするよう教えていないのかもしれない。

<意味>

きちんとあいさつするというのは、例えば朝起きたら、家族に「おはよう」と大きな声で言ったり、また近所の人に会ったとき、相手の顔を見て「こんにちは」とはっきり言ったりすることです。

5. 娘が今年で26歳になるので、そろそろ結婚してもいい歳だが、とにかく相手はきちんとした人と結婚させたいと思う。

<意味>

きちんとした人というのは、学校を卒業したあと仕事をして、毎月決まった収入もあってまじめに生活しているという人です。きちんとした人と結婚すれば生活も安定するので、親も安心できるというわけです。

6. 今日は仕事の面接を受けに行くので、きちんとした服を着ていこうと思っている。

<意味>

きちんとした服を着るといのは、サラリーマンや OL が会社に行くときに着るような服、つまり男性ならワイシャツにネクタイをしめて濃い色のスーツ、また女性もスーツとかブラウスにスカートなどの服を着ることです。家にいるときに着るような T シャツとジーンズなどは、きちんとした服ではありません。

会話例

1) [学校の保健室で] A : 学生 (男性) B : 保健の先生

A : 最近、とても疲れやすく、授業中によく寝てしまうんですが……。

B : そうですか。朝ご飯は食べていますか。

A : いえ、ほとんど食べていません。

B : 朝、昼、晩と三食きちんと食べないと、元気が出ませんよ。

A : はい、なるべく食べるようにします。

2) [駐輪場で自転車をとめる時に] A : 駐輪場の管理人 B : 駐輪場の利用者

A : あっ、ちょっと。

B : なんですか。

A : 自転車は、きちんと奥のほうからつめてとめてもらえますか。そうしないと、たくさんの方が利用できないので……。

B : あ、わかりました。どうもすみません。

3) [図書館で本を返すときに] A : 学生 B : 図書館員

A : これ、返却します。

B : はい、少々お待ちください。ああ、返却日から三日遅れていますね。返却の期日はき

ちゃんと守るようにしてください。

A：すみません。今度から気をつけます。

4) [高校の職員室で] A：明日面接試験を受ける学生 B：教師

A：先生、明日大学の面接があるんですが、面接で一番大切なことは何でしょうか。

B：そうですね。やはり、自分がどうしてこの大学に入りたいのかということ、面接官にわかるように**きちんと**説明できることですね。

A：そうですか。やはり、面接では志望動機が一番大切なんですね。

B：じゃ、ついでですから、ちょっと練習してみましようか。

A：えっ、すみません。まだ準備がちょっとできてなくて・・・。

5) [Aの家で友人同士が話している] A：女性 B：Aの友人（女性）

A：ねえ、ねえ、陽子はどんな人と結婚したい？

B：うーん、まじめで、**きちんと**した人かな。

A：**きちんと**した人って？

B：だから、**きちんと**部屋掃除して、**きちんと**料理作って、食べた後も**きちんと**食器を洗うような、そんな人。

A：へえー、そんな人、いたらいいね。

6) [小学校の職員室で] A：教師（女性） B：教師（男性）

A：最近の子供たち、授業中**きちんと**座っていると、みんなすぐ疲れてしまうみたいなんですよ。

B：それはやっぱり**きちんと**した生活をしていないからじゃないかな。

A：ああ、夜寝るのが遅かったり、**きちんと**ごはん食べないで、お菓子ばかり食べたりとか・・・。

B：そうそう。そんな生活してたら、そりゃ、疲れやすくなりますよね。

【12】ぎっしり

用例

1. 財布にお札がぎっしりつまっている。
2. 今週は予定がぎっしりだ。
3. 小さな字でぎっしりと書いてある。

文例と意味

1. 社長の財布にはいつもお札がぎっしりとつまっている。いったいいくらぐらい入っているのだろうか。

<意味>

財布の中にお札がぎっしりとつまっているというのは、財布にもうそれ以上1枚入れることができないほど、お札がたくさん入っているということです。お札がぎっしり入っている財布には、たいてい20万円ぐらいは入っています。

2. 友人から映画に行かないかと誘われたので、手帳のスケジュールを見てみたら、週末まで予定がぎっしりだった。

<意味>

1週間の予定がぎっしりだというのは、毎日朝から夜まで、いろいろな予定が入っていて、空いている時間がもう全然ないということです。

3. 昔の人が筆で書いた日記を見たら、小さな字でぎっしりと書いてあったので、すごいと思った。

<意味>

小さな字でぎっしりと書いてあるというのは、手紙やノート、本の空いているところなどに、小さな字がほかの字との間をあけなくて、きれいにつめて書いてあるということです。

会話例

1) [社長室で] A: 社長 B: 秘書

A: そろそろ健康診断を受けに行こうと思うんだが、来週はどんな予定だったかね?

B: えーと、来週はもう予定がぎっしりですね。今、空いてるのは木曜の午後だけです

が…。

A：午後か…。午後だと病院はだめだろうな。じゃ、さ来週は？

B：さ来週なら、金曜が1日空いております。金曜に予約をとりましょうか。

A：ああ、じゃ、そうしてくれ。

2) [大学の教室で] A, B：女子大生

A：来週から試験だ。どうしよう。休んだところのノート、見せてもらえない？

B：えー、わたしの？ わたし、全然ちゃんと書いてないよ…。よし子に頼んだら？ 彼女、いつもノートにきれいな字でぎっしり書きこんでるよ。

A：そうか。彼女、本当によく勉強してるものね。じゃ、よし子に頼んでみよう。

【13】きらきら

用例

1. 空の星がきらきら光る。
2. 子供は目がきらきらしている。
3. パーティにきらきらの服を着ていく。

文例と意味

1. 東京のような都会では夜あまり星が見えませんが、田舎に行くと、空いっぱいの星がきらきらと光っていて本当にきれいです。

<意味>

夜、星がきらきら光るといのは、星がとても明るく光っていて、その光が少し動いているように見えることです。きらきら光るものは、星のほかにダイヤモンドのような宝石、よく晴れた日の海の波などです。きらきら光るものを長い時間見ていると、目が少し疲れます。

2. 世界中の子供たちだけを撮った写真展が開かれたので、行ってみた。どの写真に写っている子供たちも、本当に目がきれいできらきらしていてかわいかった。

<意味>

子供の目がきらきらしているというとき、子供はまだ本当にいやなもの、良くないものを見ていないとか、大人のように悪い考えを持っていないというような意味で、目がきれいで光っていると言うことがあります。もちろん、大人になっても目がきれいできらきらしている人はいます。でも子供に比べると、大人の目はきらきら光っていることが少ないようです。

3.大学の卒業パーティに着るために、黒い生地に銀色のスパンコールがたくさんついた、きらきらのロングドレスを買った。

<意味>

きらきらの服というのは、ビーズやスパンコールなどがついていて、それがとても光って見える服です。きらきらの服は派手ですから、パーティや結婚式に着ていくのはいいですが、仕事や学校に行くときに着ていく人はほとんどいません。

会話例

1) [夏のキャンプ場で] A:小学生 B:先生

A:ねえ先生、あの星、見て。すっごくきらきら光ってる。

B:あー、あれね。ほんとだ、きれいだねえ。あれは一等星だから、特別光るのよ。

A:そうかあ。なんか宝石みたい、きらきらしてて。

2) [世界の子ども写真展の会場で] A:若い女性 B:Aのボーイフレンド

A:ねえ、この写真の子どもたち、みんな本当にかわいいね。

B:そうだね。目がきらきらと光ってて、みんないい顔してるね。

A:でも大人になると、こんなきらきらした目じゃなくなるんだよね。どうしてだろう。

B:さあねえ。

【14】ぎりぎり

用例

1. 走っていったらぎりぎり間に合った。
2. 合格点ぎりぎりでパスした。
3. ぎりぎりのお金しか持っていかない。
4. 締め切りぎりぎりにならないと書き始めない。
5. ロープでぎりぎりとしばった。
6. ぎりぎりと歯ぎしりする音が聞こえる。

文例と意味

1. 朝ねぼうしたので駅まで走っていったら、電車が出る時間ぎりぎりに間に合った。

<意味>

電車の時間ぎりぎりに間に合ったというのは、電車のドアが閉まる直前に電車に乗ることができたということです。つまり、もし駅に着くのがあと1秒遅かったら、電車に乗ることができなかったというぐらい、時間がなかったということです。

2. 数学のテストで、59点以下の人はもう一度テストを受けなければならないと言われたが、私は60点とれたので合格点ぎりぎりだった。

<意味>

テストで合格点ぎりぎりだったというのは、合格点とちょうど同じか、それより1点か2点しか高い点しかとれなかったということです。この場合、もし59点だったら再テストになるわけですが、60点だったのでパスしたということです。

3. 弟は海外旅行に行くとき、いつもぎりぎりのお金しか持っていかないで、心配だ。

<意味>

旅行にぎりぎりのお金しか持っていかないというのは、例えばその旅行に必要なお金が10万円だとしたら、ちょうど10万円だけを持っていくということです。だからぎりぎりのお金しか持っていないとき、もし途中で予定よりたくさんお金を使ってしまったら、そのあとお金が足りなくなってしまうので、とても困ることになります。

4. 学生のときいつも、レポートの締め切りの日が近づいてきても、ぎりぎりになるまで書き始めなかった。だから、締め切りの前の日は、たいてい夜寝ないで書かなければなら

なかった。

<意味>

レポートの締め切りの日がだんだん近づいてきているのに、なかなか書き始めることができないというとき、締め切り**ぎりぎり**にならないと書き始められないと言います。もちろん人によっては、締め切りの日よりずっと前に書き終わってしまう人もいますが、たいいてい人は**ぎりぎり**になってしまうことが多いようです。

5. 銀行強盗は、行員たちが動けないように、行員たちの体をロープで**ぎりぎり**としばってから、金庫のお金をとっていった。

<意味>

人の体をロープで**ぎりぎり**としばるというのは、手や足にロープを巻いて、とても強くしばることです。**ぎりぎり**としばられると、まったく動けないだけでなく、ロープが体に強く巻きついて、とても痛くなります。

6. 社員旅行に行って、旅館の大きな部屋に6人で泊まった。夜中に、**ぎりぎり**と歯ぎしりをする音が聞こえて目がさめてしまい、朝までよく眠れなかった。

<意味>

ぎりぎりと歯ぎしりをする音というのは、寝ている間に上下の歯を強くかむことで出る、何かを強くこすっているようないやな音のことです。寝ている間に歯ぎしりしていることは、自分ではまったく気づきませんが、かなりうるさくていやな音なので、まわりの人にはとても迷惑です。また、寝ている間だけでなく、とてもくやしきときなどにも、**ぎりぎり**歯ぎしりをしてくやしがる、ということがあります。

会話例

1) [子供の部屋で] A: 母親 B: 中学生の息子

A: 太郎、早く起きなさい! もう7時半よ。

B: うーん、わかったよ、もう少しだけ…。

A: そうやっていつも**ぎりぎり**まで寝てるから、遅刻するのよ。また、朝ごはん食べる時間なくなっちゃうわよ。

B: わかってる。今日は朝ごはん、いいや。

2) [高校の教室で] A : 教師 B : 女子生徒

A : じゃ、今、返したテストだが、今回 30 点未満だった者は来週もう一度試験をするからな。わかったか。

B : えーっ！ 30 点未満って、30 点は入らないですよね？

A : そう。29 点だったらもう一度テストだが、30 点はまあぎりぎり大丈夫ってことだ。

B : わー、あぶなかった。私、ちょうど 30 点だからぎりぎりセーフですね。

3) [会社で] A : 男子社員 B : A の同僚 (女性)

A : 先週の社員旅行、もう最悪だったよ。

B : どうして？ けっこう楽しかったじゃない。

A : いや、おれのとなりのやつ、夜中にずっとぎりぎり歯ぎしりしててさあ。うるさくて全然寝られなかったんだよ。

B : そうか。それ、最悪だね。

【15】ぐっすり

用例

1. きこの夜の夜は、ぐっすり眠れた。
2. 子供がぐっすり寝ている。
3. 最近どうもぐっすり寝られない。

文例と意味

1. 家族で山の中の温泉旅館に行った。おいしい食事を食べ、広い温泉風呂に入ったら本当に気持ち良かった。山の中は本当に静かで、久しぶりにぐっすり眠れた。

<意味>

ぐっすり眠れたというのは、ふとんまたはベッドがとても快適で、夜寝てから朝起きるまで途中で目がさめたりすることもなく、気持ちよく眠ることができたということです。

2. 1日中遊んで疲れたのか、子供たちはぐっすりと寝ている。

<意味>

昼間元気に遊んだ子供は、夜になってふとんに入るとすぐ、ぐっすりと寝ます。ぐっすり寝ている子供は、テレビの音や両親の話し声などで、まわりが少しうるさくても全然起きません。

3. このごろ、夜ふとんに入ってもなかなか眠れない。そして朝、目がさめたとき、ちっともぐっすり寝たという感じがしないので、いつも疲れている感じだ。

<意味>

朝、目がさめたとき、ぐっすり寝た感じがしないというのは、暑すぎる、寒すぎる、またはふとんが快適でないなど、寝るときの環境が良くなかったり、心配ごとやストレスなどがあるなどの理由で、夜、寝ている間も深く眠ることができなかつたということです。そういうときは、夜中に何回か目がさめてしまったり、悪い夢ばかり見たりして、寝ても体の疲れがとれないことになります。

会話例

1) [観光地の温泉旅館で] A: 旅館の女主人 B: 泊まり客 (女性)

A: お客さま、ゆうべはよくおやすみになれましたか。

B: ええ、温泉にも入ったし、もう気持ちよくてぐっすり眠れました。

A: それは、ようございました。

2) [病院で] A: 患者 (40代の男性) B: 医者

A: 先生、このごろどうもよく眠れないんです。なんだか、毎晩ぐっすり寝たって感じがしないんですよ。すぐ、目がさめちゃって…。

B: そうですか。お仕事のほうはどうですか。最近急に忙しくなったとか…。

A: いやあ、実は、最近仕事でいろいろトラブルがありまして…。

B: じゃあ、ぐっすり眠れないというのもそのストレスが原因でしょう。

【16】ぐっと

用例

1. 重いドアをぐっと押す。
2. 泣きたくてもぐっとがまんする。
3. 冷たいビールをぐっと飲む。
4. 木の枝が1本だけぐっと出ている。
5. やさしい言葉にぐっときた。
6. 成績がぐっと上がった。

文例と意味

1. 研究所の入り口のドアはとても重いので、開けるときはぐっと押さないと開かない。

<意味>

厚い鉄などでできているドアはとても重いので、軽く押しただけでは絶対に開きません。そんなとき、自分の体重をかけるような気持ちで、ぐっと強く押して開けます。

2. 子供のとき、うそをついて父に叱られた。泣きたかったけれど、いつも男の子は泣いてはいけないと言われていたので、ぐっとがまんした。

<意味>

本当は泣きたいけれど泣いてはいけないと思うとき、下を向いてくちびるをかんだり、手を強くにぎりしめたりして、涙や声が出ないように体に力を入れます。そんなとき、ぐっとがまんすると言います。

3. とても暑い日に1日中外で働いたときは、家に帰ってシャワーを浴びてから、冷たいビールをぐっと飲むのが楽しみだ。

<意味>

何かをぐっと飲むというのは、コップに入ったビールやジュースなどを少しずつ飲むのではなく、一度にたくさん口に入れて、短い時間で飲むようすです。

4. 庭に植えた木の枝が、1本だけぐっと出てとなりの家のほうに伸びている。となりの家にめいわくになるので、切ることにした。

<意味>

木の枝が 1 本だけぐっと出ているというのは、ほかの枝に比べてその枝だけとても伸びていて、まわりの枝から飛び出して見えるということです。

5. 24 歳の娘が結婚する日の朝、娘に「おとうさん、今まで本当にありがとう」と言われたら、思わずぐっときてしまった。

<意味>

ぐっとくるというのは、例えば父親が、結婚式の朝家を出ていく娘を見送るときなどに、急に胸がいっぱいになって、涙が出そうになるような気持ちです。つらい時にだれかに急にやさしい言葉をかけられたり、感動的な映画を見たりしたときなどにも、ぐっとくることがあります。

6. 中学 3 年のとき、成績が悪いのでクラブ活動をやめることにした。そして、夏休みに 3 週間塾に通って一生けんめい勉強したら、2 学期になって成績がぐっと上がった。

<意味>

成績がぐっとあがったというのは、例えば今まで 40 人生徒がいるクラスの中で、上から 25 番目ぐらいの成績だった子供が、がんばって勉強して、クラスで 5 番目ぐらいの成績になったときのように、今まであまりいい成績でなかったのに、急にとてもいい成績になることです。

会話例

1) [スポーツジムで] A : インストラクター B : 男性

A : はい、じゃ、次はこれを持ち上げて。

B : いや、これ、重いですね。持ち上がりそうもないなあ。

A : 大丈夫。腕だけじゃなくて、お腹にぐっと力を入れてみて。

B : あ、はい。うーん…持ち上がった…。でも、きついなあ。

2) [映画館の外で] A : 若い女性 B : 女性の友達 (男性)

A : いい映画だって聞いてたけど、ほんと良かったね。

B : うん、もう途中から涙、止まらなくなっちゃった。

A：ああ、俺も、最後のあのセリフになんかぐっときて、涙、出そうになったよ。

B：へえ、めずらしいじゃない。

3) [小学校で] A：教師 B, C：生徒

A：じゃ、みんな、1学期と同じように、背の順に前から並んで。

B：先生、ぼく、うしろの和夫くんより大きくなったよ。ほら。

A：あ、ほんとだ。ひろしくん、夏休みの間にぐっと背が伸びたのね。じゃ、和夫くんとひろしくん、順番入れ替わってみて。はい、いいわね。

C：先生、あたしも。よしこちゃんより大きいよ。見て。

A：はいはい。みんな、前の人と後ろの人とどっちが高いかよく比べてみようね。

【17】くるくる

1. コマがくるくる回る。
2. カレンダーをくるくる丸めた。
3. くるくるに巻いた髪がかわいい。
4. 天気がくるくる変わる。

文例と意味

1. 父親が、小さなコマを持ってくるっと回すと、コマは台の上でずっとくるくと回り続けた。

<意味>

コマをくるっと回す、というのはコマを1回だけ強く回すことです。コマがくるくる回るといのは、コマを上手に回したとき、コマが倒れないでずっとくるくと回り続ける様子です。反対に、下手な人がコマを回すと、少し回っただけでふらふらしてすぐ倒れてしまいます。

2. お正月になって、今年の新しいカレンダーを壁にかけた。去年のカレンダーを捨てようかと思ったが、絵がきれいなのでくるくる丸めて、とっておくことにした。

<意味>

くるくる丸めるといのは、大きな紙などを端のほうからどんどん巻いていって丸い棒のようにすることです。カレンダーやポスターなどは、折りたたむと折り目がつくので、ふつうは折りたたまないでくるくる丸めておきます。

3. 子供のころ、マンガの中に出てきた女の子のくるくるに巻いた髪の毛にあこがれた。

<意味>

髪の毛を小さな丸いもので巻いておくと、カールしてくるくるになります。くるくるに巻いた髪の毛はとてもかわいいので、特に小さな女の子に人気があります。

4. 昨日は、夏のように暑かったと思ったら、今日からまた急に寒くなった。春先の天気はくるくる変わるので、気をつけないと風邪を引いてしまいそうだ。

<意味>

冬から春になったばかりのとき、つまり3月のはじめから半ばごろは、暖かかったり寒かったり、天気がとても変わりやすいです。半袖を着ていても大丈夫くらい暖かい日があると思うと、また次の日には冬に戻ったように寒くなったりして、天気がくるくる変わるので、この時期は風邪を引く人が多いです。

会話例 <会話を読んでみよう>

1) [おもちゃ売り場で] A: 2歳ぐらいの子供 B: 父親

A: パパ、これ、何? どうやって遊ぶの?

B: あ、これはね、コマっていうんだよ。こうやって手で持って、くるくるっと回すんだよ。ほら…。

A: あー、ほんとだ、すごい。くるくる回ってる。面白いね。

2) [会社で] A: 男性社員 B: 女性社員

A: 加藤さんの送別会の会場、結局どこに決まった?

B: いや、それがまだなの。なんか、課長の言うことがくるくる変わるから決められないのよ。はじめは、イタリア料理がいいかって言ってたのに、やっぱり中華料理もいいかなあってなって、昨日なんか、たまにはあっさりした和食にしようか、だって…。

A：送別会、もう来週だろう？早く予約したほうがいいのに、それじゃ困るよな。

B：ほんと。もう私が決めて予約しちゃおうかな。

A：そのほうがいいよ。

【18】ぐるぐる

用例

1. 道に迷ってぐるぐる歩き回った。
2. 乗り物がぐるぐる回転する。
3. 酔っ払って目がぐるぐる回る。
4. ロープでぐるぐる巻きにする。
5. お腹がぐるぐる鳴る。

文例と意味

1. 旅行のガイドブックにのっている店に行こうと思い、地図を見ながら探し歩いた。街の中で1時間ぐらい、同じところを何度もぐるぐる歩き回ったが、とうとう見つからなかった。

<意味>

店などの場所を地図を見ながら探そうと思っても、なかなかその店が見つからなくて同じところを何度も通ることがあります。そんなとき、店を探してぐるぐる歩き回ったといえます。

2. 遊園地の乗り物がすごいスピードでぐるぐる回ったので、気分が悪くなってしまった。

<意味>

乗り物がぐるぐる回るというのは、遊園地のコーヒーカップのように小さな乗り物が、同じ場所で何度も回るようすです。ぐるぐる回るというときは、スピードもかなり速いので、乗っている人は気分が悪くなる可能性があります。

3. 新入社員歓迎会で、すすめられたお酒をどんどん飲んで酔っ払ってしまった。帰ると

きになっていすから立とうとしたら、目がぐるぐる回って倒れそうになった。

<意味>

目がぐるぐる回るといのは、お酒を飲みすぎたり、ひどく揺れる船や乗り物などに乗ったりした後、体がゆれる感じでまっすぐ立ってられないようすです。

4. 自転車の荷台に載せた大きな箱が落ちないように、ロープでぐるぐる巻きにした。

<意味>

自転車の後ろに大きな荷物を載せて運ぶとき、荷物が落ちないようにロープを何回も巻いて荷台にしっかり止めます。そんなとき、荷物をロープでぐるぐる巻きにするとはいます。

5. 試験で教室がとても静かなときに、お腹がぐるぐる鳴ってはずかしかった。

<意味>

お腹がぐるぐる鳴るといのは、お腹がすいているときや、何となくお腹の調子が悪いときなどに、お腹の中で何かぐるぐる回って動いているような感じがして音も聞こえることです。

会話例

1) [遊園地で] A, B : 女子高校生

A : ねえ、次はコーヒーカップに乗らない？

B : わたし、あのぐるぐる回るのだめなんだ。気持ち悪くなっちゃうのよ。

A : そうなんだ。ジェットコースターは大丈夫なの？

B : うん、それは平気。

2) [宅急便のドライバーが荷物の配達に来たところ] A : 配達の人 B : 主婦

A : 鈴木さん、宅急便です。

B : あ、どうもご苦労さま。

A : いやあ、この地域、今日が初めてなもんですから、迷ってぐるぐる回っちゃいました。

B : そう、大変だったわねえ。この辺は細い道がたくさんあるから、車で来るとわかりにくいのよ。

【19】げらげら

用例

1. 漫画を読んでげらげら笑っている。
2. げらげら笑いすぎてお腹が痛くなった。
3. 人の失敗をげらげらと笑うのは失礼だ。

文例と意味

1. 小学生の息子は漫画が大好きだ。いつも学校から帰ってくるとすぐ漫画を読み始めて、大きな声でげらげらと笑っている。本当は、漫画でなく本を読んでほしいのだが……。

<意味>

漫画を読んでげらげらと笑うのは、漫画が本当に面白くて、思わず大きな声で笑ってしまうことです。げらげら笑うと、気持ちも楽しくなりますし、ストレスも解消できることが多いです。

2. きょうテレビでとても面白い番組をやっていた。おかしくてお腹をかかえてげらげら笑ったら、本当にお腹が痛くなってしまった。

<意味>

おもしろいテレビ番組などを見てそれが本当におかしいとき、お腹に手をあててげらげら笑ってしまいます。長い時間げらげら笑うと、お腹の筋肉を使いすぎるのか、お腹が本当に痛くなることがあります。

3. 小学校のとき、先生が教室の入り口ですべってころんだことがあった。先生がころんだ格好がとてもおかしかったので、みんなげらげら笑ってしまった。

<意味>

先生がころんでしまったときに生徒たちが笑うというのは、本当は失礼でいけないことです。でも、本当におかしいときは、笑ってはいけないと思っても、ついげらげら笑ってしまいます。

会話例

1) [家で夫がテレビを見ている] A : 妻 B : 夫

A : ちょっと、さっきから何をそんなにげらげら笑ってるの。

B : いやあ、おかしいんだって、この番組。お前も見てみろよ。

A : どうせがばかばかしい内容なんですよ。

B : くだらないけど、ほんと面白いよ。久しぶりに大笑いしたら、なんだかすっきりした。

2) [スキー場で] A : 小学生 B : 母親

A : あ、お母さん、見て。あの人、転んじゃったよ。なんか、おかしい。

B : スキー、初めてなんでしょう。そんなげらげら笑ったら失礼よ。やめなさい。

A : だって、ほんとにおかしいんだもん。わー、また転んだよ。

【20】こっそり

用例

1. テーブルの上の料理をこっそり食べた。
2. 夜遅くこっそりと家を出た。
3. 姉の携帯メールをこっそり読んでしまった。

文例と意味

1. お客さんが来るという日、台所のテーブルには母が作ったおいしそうな料理がたくさん並んでいた。私は学校から帰ってきてとてもお腹がすいていたので、母が見ていない間に少しずつこっそり食べてしまった。

<意味>

こっそり食べるというのは、ほかの人に気づかれないように食べることです。例えば、お客さんが来る日に台所のテーブルに並んでいる料理は、これから来るお客さんのために作ったものです。だから、本当は食べてはいけないのですが、ときどき子供は、母親が見ていない間にその料理を少しだけこっそり食べてしまいます。

2. 夜遅く友達から、今から家に遊びに来ないかという電話がかかってきたので、両親に気がつかれないようこっそりと家を出た。

<意味>

夜遅くこっそりと家を出るといのは、本当はもう誰も出かけないような遅い時間に、家族のだれにも気づかれないよう、静かに家を出ることです。こっそり出かけるときは、足音が聞こえないように静かに歩きますし、ドアを開けたり閉めたりするときも、絶対に音を立てないようにして家族に気づかれないようにします。

3. 姉はよく友達と携帯メールのやりとりをしている。ある日、姉が携帯電話を忘れて出かけたので、姉の携帯メールをこっそり読んでしまった。

<意味>

ある人のメールをこっそり読むというのは、その人には何も言わないで、その人が書いたりもらったりしたメールを読んでもしまうことです。人のメールや手紙をこっそり読むことは、本当はとても悪いことです。

会話例

1) [バレンタイン・デーの前の日。小学校で] A, B : 女子生徒

A : ねえ、明日、どうする？ 学校にチョコレート持ってきたらいけないんだよね。

B : うん。でも、明日どうしても学校で彼に渡さないと、ほかのところで渡せないし……。

A : そうだよ。どうする？

B : 私、やっぱり明日、先生に見つからないようにこっそり持ってきて渡すことにする。

A : えーっ！大丈夫？見つかったら、チョコレート、取りあげられちゃうよ。

2) [電話で] A, B : 男子中学生

A : もしもし、鈴木か？ 今からちょっと出てこれないか？

B : 今から？もう夜11時だぞ。今から出かけるなんて親に言ったら、絶対だめって言われるよ。

A : だからさ、親には言わないで、こっそり出てくればいいんだよ。

B : だって、二人ともまだ起きてるし、見つかったらちゃうよ。

【21】 ごろごろ

用例

1. 雷がごろごろなる。
2. 猫がごろごろとのどを鳴らす。
3. お腹がごろごろする。
4. 荷物がごろごろ転がる。
5. 岩がごろごろとした道を歩いた。
6. 背中の荷物がごろごろあたる。
7. 目の中がごろごろする。
8. 休みの日に家でごろごろする。
9. 仕事がなく毎日ごろごろしている。
10. 英語ができる人なんてごろごろいる。

文例と意味

1. 空が急に暗くなり、黒い雲が出てきた。遠くのほうで雷もごろごろ鳴っている。もうすぐ雨が降ってきそうだ。

<意味>

ごろごろというのは、雷が鳴るときの大きな音です。雷は始め遠くのほうでごろごろ鳴っているのが聞こえて、だんだん近づいてくると、音もどんどん大きくなってきます。雷が落ちるときは、ドドーンというさらに大きな音がします。

2. うちの猫は、私が帰るとすぐそばに来る。私がやさしくなでてやると、猫はのどをごろごろ鳴らして気持ちよさそうに横になっている。

<意味>

猫をなでると、猫はよろこんでのどを鳴らします。そのときの猫ののどの音をごろごろと言います。

3. 朝起きてすぐ、冷たい牛乳を飲んだら、急におなかごろごろして痛くなってきた。

<意味>

冷たいものを飲んだときなどに、おなかが急に痛くなり、おなかの中で何かが動く感じがしたり、おなかの中で音が聞こえたりするとき、おなかが**ごろごろ**すると言います。

4.トラックが交差点をまがるとき、荷物が落ちて**ごろごろ**ところがあった。それで、近くにいた人たちはあわてて逃げた。

<意味>

山の上から大きな岩や丸太が落ちてくるとき、ボーリングのボールのように重いものが勢いころがるとき、**ごろごろ**と大きな音がします。同じように、走っているトラックの荷台から重い荷物が落ちてくると、道路を**ごろごろ**と音を立ててころがるので、歩いている人はちょっと危ないです。

5. 山の上のほうまで行くと、岩が**ごろごろ**しているので、気をつけて歩かないところびそうになる。

<意味>

山道などに大きな石がたくさんころがっているとき、石が**ごろごろ**した道だと言います。石が**ごろごろ**した道は、とても歩きにくいです。

6. 図書館で借りた本を背中のバッグに入れ、自転車に乗った。走り出したら、背中のバッグの中の本が背中に**ごろごろ**と当たり、痛かった。

<意味>

荷物などの中に何か少しかたくて重いものが入っていて、それが背中などにあたって少し痛いと感じるとき、荷物の中身が背中に**ごろごろ**当たると言います。

7. 目の中に砂が入ったらしい。目薬をさしてもまだ目の中が**ごろごろ**して痛い。

<意味>

目の中にごみが入ると、まるで目に石でも入っているような感じがします。それを目の中が**ごろごろ**して痛いと言います。

8. 日曜日は、たいていどこにも出かけないで、家でテレビを見たり本を読んだりしなが

らごろごろしています。

<意味>

休みの日などに、特に何もしないで家でゆっくりすごすことを、家で**ごろごろ**すると言います。**ごろごろ**するときは、だいたいソファの上とか床にねころがっていることが多いです。その様子が、丸太などが**ごろごろ**道にころがっているようすと似ているので、**ごろごろ**すると言うわけです。

9. となりの家の息子さんは、先月仕事をやめてから新しい仕事が見つからず、家で**ごろごろ**しているようだ。

<意味>

高校生か大学生以上の年齢で、学校にも行かず、仕事もなく何もしないで家にいる人のことを、家で**ごろごろ**している人と言います。本当は学校に行ったり、仕事をしているはずなのに、何もしていないという意味ですから、**ごろごろ**している人というときは、ちょっとマイナスのイメージになります。

10. 最近、英語が話せる人なんて**ごろごろ**いるから、英語だけできてもいい仕事は見つからない。何かほかに専門的な勉強をしておいたほうがいい。

<意味>

何かがたくさんあるけれど、それがあまりいいものではないとか、たくさんありすぎると思うとき、**ごろごろ**あると言います。人の場合には、**ごろごろ**いると言います。だから、**ごろごろ**ある、**ごろごろ**いる、というときは、少しマイナスのイメージになります。

会話例

1) [会社で] A: 課長 B: 社員

A: 田中君、日曜にハイキングに行くって言ってたけど、そういえば日曜は雨が降ったんじゃない?

B: そうなんです。もう大変でした。朝はいい天気だったんですけど、山の上でお昼を食べてたら急に黒い雲が出てきて…。雷も**ごろごろ**って鳴ったから、もうあわてて山を下りてきたんですよ。

A: そう。大変だったね。雷はこわいからね。

2) [学校で] A : 女子学生 B : 男子学生

A : あれ、どうしたの？ どこか痛いの？

B : うん、さっきのどがすごくかわいたから、冷たいジュースを2本飲んだんだ。そうしたら、急におなかが**ごろごろ**してきてね。ちょっとトイレに行ってくる。

A : そう。だいじょうぶ？ 2本もいっきに飲むからよ。

3) [道を歩きながら] A, B : 若い女性二人

A : あれ？めずらしいね、サングラスかけてるなんて。

B : あ、これ、目にごみが入らないようにするためなんだ。今日、風が強いでしょう。私、コンタクト・レンズだから、目にごみが入ると**ごろごろ**して痛くなって大変なのよ。

4) [山道を走るタクシーの中で] A : 客 B : 運転手

A : この辺は、道が悪いんですか。ずいぶんゆれますね。

B : そうですね。石が**ごろごろ**してますからね。すみません。もう少し行くと、いい道になりますから。

A : あ、だいじょうぶですけど。運転手さんもこんな石が**ごろごろ**した道を走るのは大変ですね。

5) [夏休みに家で] A : 母 B : 子供

A : かずお！毎日朝からテレビばかり見て**ごろごろ**してるけど、早く夏休みの宿題をしたらどう？

B : わかってるよ。明日からやるよ。

A : きのも明日から、って同じこと言ってたわね。そうやって明日、明日って言っていると、明日が9月1日になっちゃうわよ。

6) [大学で] A : 留学生 B : 日本人の大学生

A : 日本のマンガっておもしろいですね。いろいろ読んでみたいんですけど、図書館でも借りられますか。

B : マンガなら、ぼくが小学校のときいっぱい集めてたから、うち**ごろごろ**あるよ。も

う読まないから捨てようと思ったんだけど……。今度貸してあげようか。

A：ほんとうですか？　じゃ、お願いします。

【22】ざあざあ

用例

1. 雨がざあざあ降っている。
2. 外はざあざあ降りの大雨だ。
3. ホースで水をざあざあ流した。

文例と意味

1. 台風が近づいているため、朝から雨がざあざあ降っている。

<意味>

雨がざあざあ降るというのは、家の中にいても外の雨の音がはっきり聞こえるほど、雨が強く降っていることです。台風の雨や、夏の夕方に急に降ってくる夕立などが、ざあざあ降る雨です。

2. 今日は朝からざあざあ降りので大雨だから、運動会は中止になるでしょう。

<意味>

ざあざあ降りので大雨だというときは、雨の降り方がとても強く、なかなかやみそうもないときです。ざあざあ降りので大雨の場合、運動会やスポーツの試合は中止になりますし、お祭りなど、外で何かのイベントを行うこともまず無理です。

3. 夏になると、小学校ではプールで水泳の授業を始める。去年の夏からそのままになっていたプールの水を全部流し、ホースで水をざあざあ流して、みんなでそうじをする。

<意味>

水をざあざあ流すというのは、そうじをするときや何かを洗ったりするときなどに、ホースなどから水を出してどんどん流すことです。

会話例

1) [運動会の日朝。小学校の校長室で] A：男性教師 B：校長

A：校長先生、どうでしょう。この降り方だと、午後までやみそうもないですね。

B：そうですね。ざあざあ降りですからね。しかたないですね。運動会は明日に延期しましょう。

A：はい。じゃ、これからすぐ各クラスに連絡を回すよう、担任教師に電話します。

2) [家の玄関の中で] A：父親 B：母親

A：うわっ、ここ、どうしたんだ。泥がすごいじゃないか。誰だ？こんな泥をつけたまま玄関に入ったのは？

B：あ、ほんとだ。今日、たけしの友達がいっぱい来たからねえ。みんな靴が泥だらけだったんでしょ。

A：しょうがないなあ。これじゃあ、水をざあざあ流して洗うしかないな。

【23】 さっさと

用例

1. 一人でさっさと帰ってしまった。
2. 宿題をさっさと片付ける。

文例と意味

1. パーティの後、みんなでテーブルを片付けたり、部屋のそうじをしたりした。でも、Yんは何も手伝わないで一人でさっさと帰ってしまったので、ひどいと思った。

<意味>

パーティの後、一人でさっさと帰るといのは、みんなが片付けているのに、そのことは考えないで何もしないで一人ですぐに帰ってしまうことです。そういう人は、みんなにも、自分のことしか考えない勝手な人だと思われま。

2. 小学生のとき、夏休みにたくさんの宿題が出た。毎年、夏休みが始まると、宿題をさ

っさと片付けて、あとはのんびり遊ぼうと思っていた。でも、いつも8月の終わりになって、たくさん残っている宿題をあわててやっていた。

<意味>

小学生は、毎年夏休みに宿題がたくさん出るので大変です。それで夏休みが始まってすぐ宿題をさっさと片付ければ、あとはのんびり遊ぶことができます。でも、だいたいみんな、夏休みの終わりごろにあわてて残った宿題をやることになります。

会話例

1) [引っ越しする日の朝] A：引っ越しをする男性 B：Aを手伝いに来た友人（女性）

A：これ捨てようかなあ。でもやっぱりもったいないかなあ。あ、でも捨てないと、荷物が多くなるし……。

B：いらぬものはさっさと捨てないと、引っ越し、今日中に終わらないわよ。

A：うん、わかってるんだけど、迷うなあ……。どうしよう……。

B：もう、さっさと決めてよ。

2) [家で] A：夫（会社員） B：妻

A：ただいま。

B：あら、早かったのね。今日は忘年会で遅くなるとか言ってたのに。

A：いや、会社の忘年会って毎年同じでつまらないからな。一次会終わったから、もうさっさと帰ってきちゃったよ。

3) [入学試験前日の夜AがBに電話で] A：学生（女性） B：学生（女性）

A：明日の試験、ちゃんとできるかどうか心配で、心配で……。

B：でも、やれることは全部やったんでしょ。

A：うん、やったと思う。

B：じゃ、余計な心配しないで、さっさと寝たほうがいいよ。寝不足だと、実力も出せないでしょ。

A：そうだね。ありがとう。おやすみ。

【24】 さっと

用例

1. 5時になったらさ^っと帰る。
2. テーブルの上をさ^っと片付ける。
3. 雨がさ^っと降ってすぐやんだ。
4. 新聞の1面だけさ^っと読む。
5. 野菜を水でさ^っと洗う。

文例と意味

1. 私の国では、事務所で働いている人たちはみな、5時になったらさ^っと帰ります。

<意味>

5時になったらさ^っと帰るというのは、5時になったらもう何もしないで、とにかくすぐに事務所を出るということです。みんなが5時にさ^っと帰れば、5時5分にはもう事務所に誰もいないということになります。

2. 急にお客さんが来たので、あわててテーブルの上をさ^っと片付けた。

<意味>

テーブルの上をさ^っと片付けるというのは、テーブルの上に、例えばコーヒーカップや新聞やそのほかいろいろな物が置いてあるのを、とても早く全部片付けてテーブルの上をきれいにするということです。

3. 急に雨がさ^っと降ってきたが、すぐやんでまた日が照ってきた。

<意味>

お天気がいいときでも、急に雲が出てきて雨がとても短い時間だけ降り、またすぐやむことがあります。そんなとき、雨がさ^っと降ったと言います。

4. 朝は忙しいので、出かける前に新聞の1面だけをさ^っと読むことにしている。

<意味>

新聞の1面には、たいていその日の一番大切なニュースが出ています。だから、ゆっく

り新聞を読む時間がないときには、1面だけをととても速く読むことがあります。そんなとき、新聞をさっと読むと言います。

5. スーパーで買ってきた野菜はきれいなので、料理する前に水でさっと洗うだけでいい。

<意味>

さっと洗うというのは、水を少しだけ使って、とても簡単に洗うことです。スーパーで売っている野菜はきれいに洗ってあるものもありますが、料理する前にはやはり簡単でもいいから、さっと洗うことが多いです。

会話例

1) [会社で] A, B: 女子社員

A: 木村さん、最近5時になるとさっと帰るけど、どうして?

B: あ、あの、ちょっと習い事始めたんだ。

A: へえ、そうなんだ。何を習ってるの?

B: 韓国語だよ。旅行に行ったとき、少しでも話せるといいかなと思って。

2) [料理教室] A: 講師 B: 生徒

A: じゃ、次に材料ですが、肉は適当な大きさに切って皿に入れます。

B: 先生、野菜はどうしますか。

A: 野菜はさっと水で洗って、3センチ位の長さに切っておいてください。

【25】ざっと

用例

1. 資料にざっと目を通す。
2. バケツの水をざっとかける。
3. 袋に入った米がざっとこぼれた。
4. ざっと計算して100万円はかかる。

文例と意味

1. 会議の前に、30 ページほどある資料を渡された。でも、会議が始まるまでに全部読む時間がないので、大事そうなところだけ**ざっと**目を通した。

<意味>

会議の前に、資料を読んでおくことはとても大切です。でも、全部読む時間がないときは、始めのほうから順番に読んでいっては間に合いません。そうではなく、全部のページをまず**ざっと**めくって行って、全体の中で大事そうなところを見つけてそこだけ速く読むようにします。そういうとき、資料に**ざっと**目を通すと言います。

2. 秋になって庭にたくさん枯れ葉が落ちたので、集めてたき火をした。たき火が終わったあと、火がちゃんと消えていないとあぶないと思って、バケツの水を**ざっと**かけてから家に入った。

<意味>

たき火をしたとき、集めた落ち葉の下のほうで、いつまでも小さな火が燃え続けていることがあります。たいていはそのままにしておいても大丈夫ですが、心配なときはバケツに水をくんで、それをたき火の上から一度に**ざっと**かけます。そうすれば火は必ず消えるので安心です。

3. スーパーで買ってきた袋入りの米を袋から出そうとして、袋の上をはさみで切ったとたん、袋が倒れて米が床に**ざっと**こぼれてしまった。

<意味>

袋に入った米が**ざっと**こぼれる、というのは、袋の口が開いていて、そこから米が一度にたくさんこぼれる様子を言います。米が床に**ざっと**こぼれてしまうと、拾い集めてかたづけるのも大変ですから、米はふつう、簡単にやぶれないような丈夫な袋に入っています。

4. 今年で会社に勤めて30年になり、2週間の休みをもらえることになったので、妻と二人でハワイに行くことにした。二人で2週間旅行する費用を**ざっと**計算してみたら、だいたい50万円かかることがわかった。

<意味>

旅行に全部でいくらお金がかかるかというのは、実際に行ってみないとわかりません。

ホテル代や食事代が含まれているパック旅行でも、お土産やいろいろな所で観光するために払うお金がいくらかかるか、行ってみないと正確にはわからないからです。それでも、出かける前に、全体でだいたいどのぐらい必要か考えてざっと計算します。ざっと計算すれば、旅行会社に払う代金のほかに、だいたいいくらぐらい必要かわかるので、それをドルやチェックに換えて持っていけばいいです。

会話例

1) [研修会のオリエンテーションで] A : 受講生 B : 講師

A : 研修の前にどんな準備をしておいたらいいですか。

B : そうですね。準備は特に必要ありませんが、事前に資料を送りますので、それにざっと目を通しておいてください。それで、今回のテーマについて、ご自分の考えをまとめておいてください。

A : わかりました。ありがとうございました。

2) [温泉旅館で温泉に入る際の説明を受けている] A : 旅館の従業員 B : 宿泊客

A : 湯船に入る前には、ざっとお湯をかぶってから入ってください。そうしないと、お湯がよごれますので。

B : あ、はい、わかりました。

A : あっ、それから、温泉は夜は11時まで、朝は6時からです。入れる時間が決まっているので、注意してください。

B : 11時までですね。わかりました。

A : それではごゆっくりどうぞ。

3) [大学のラウンジで] A : 学生 (男性) B : Aの友人 (女性)

A : 木村さんって、去年の夏休み、カナダに留学してたよね。

B : うん。

A : 僕も今年の夏休み留学しようと思ってるんだけどさ。いくらぐらいかかったか覚えている？

B : うーん、一か月でざっと30万ぐらいだったかな。

A : えーっ、そんなにかかるんだ。

【26】 さっぱり

用例

1. シャワーをあびてさっぱりした。
2. 長い髪をさっぱりと短くした。
3. デザートはさっぱりとした果物が食べたい。
4. 難しくてさっぱりわからない。
5. 昔のことはきれいさっぱりと水に流す。
6. 不景気で新車の売上げがさっぱりだ。

文例と意味

1. 暑い日にサッカーの練習をして汗びっしょりになった。練習の後、シャワーをあびたらさっぱりしてとても気持ちよかった。

<意味>

汗をたくさんかくと体が汗でべとべとして気持ち悪くなりますが、シャワーをあびて汗が流れると、べとべとした感じがなくなってとてもさっぱりします。

2. 大学に入ってからずっと髪を伸ばしていたが、就職試験で面接を受けることになったので、長い髪をさっぱりと短くした。

<意味>

長い髪をさっぱりと短くしたというのは、長かった髪を切って短くしたことで、見た目も気分も軽くさわやかな感じになったということです。

3. 友達とイタリア料理のレストランに行った。ピザ、スパゲティ、肉料理とオリーブオイルを使った料理をお腹いっぱい食べたら、デザートにはさっぱりとした果物が食べたくなった。

<意味>

さっぱりとした果物というのは、果物の中でも味がとてもうすいものです。例えば、

すいか、いちご、梨など水分が多く、甘すぎないものが**さっぱり**とした果物だと言えます。

4. 高校1年生のとき、ためしに大学の入学試験問題をやってみたら、難しくて**さっぱり**わからなかった。

<意味>

試験問題が難しくて**さっぱり**わからないというのは、問題のレベルが高すぎて自分の学力と全然違うため、まったく答えることができないということです。

5. お互い昔のことはきれい**さっぱり**水に流して、二人でもう一度やり直そう。

<意味>

昔のことをきれい**さっぱり**水に流すというのは、昔何か悪いことが起きたり、お互いの関係が悪かったりしたことを、今はもう忘れるようにするということです。

6. 駅前に大きなスーパーができたせいで、店に来るお客が急に減って、今月は売上げが**さっぱり**だ。

<意味>

昔からある小さな店は、近くに大きなスーパーができたりすると、買いに来るお客が減って、前の月に比べて売上げがとても少なくなることがあります。そんなとき、今月は店の売上げが**さっぱり**だといいます。

会話例

1) [薬局で] A: お客 (女性) B: 店員 (女性)

A: この洗顔フォームを使って顔を洗うと、肌がつっぱるんです。何かいい洗顔フォームはありませんか。

B: 最近発売されたこちらの洗顔フォームはいかがですか。これなら、つっぱらないし、しかも**さっぱり**しますよ。

A: そうですか。じゃ、それ使ってみます。

2) [大学のラウンジで] A: 学生 (男性) B: 学生 (男性)

A：おっ、田中、しばらく見ないうちに、さっぱりと短くしたんだな。

B：うん、そろそろ就職活動始めなきゃいけないだろ。だから、先週切っちゃったんだよ。

A：そっか、もうそんな時期なんだなあ。

3) [家で] A：母 B：息子

A：今日、なにか食べたいものある？

B：うーん、なにかさっぱりしたものが食べたいなあ。

A：さっぱりしたものって。

B：サラダとか、酢の物とか。

A：でも、それじゃおかずにならないじゃない。

4) [高校の教室で] A：学生（男性） B：学生（男性）

A：今日の数学のテスト、どうだった。

B：うん、一番、二番は、まあわかったけど、そのほかの問題はさっぱりわからなかった。

そっちは？

A：いや、僕はどの問題もさっぱりわからなかったよ。

5) [喫茶店で恋人同士が別れ話をしている] A：女性 B：男性

A：私、やっぱりもうあなたと別れるわ。

B：ごめん。今回の浮気のことはいささぱり水に流して、もう一度やり直してくれないか。

A：それ聞くの、もう三回目よ。何回も裏切られて、もう信じられるはずないでしょ。

B：そこをなんとか・・・もう二度とほかの女の子とつき合わないって約束するからさ。

6) [理髪店で] A：いつも来ているお客 B：店主

A：どう、最近、お店の景気のほうは。

B：もうさっぱりですよ。最近の若い人は男性でもみんな美容院に行くでしょ。だから、うちに来てくれるのは、昔からの年配のお客さんだけです。

A：そういえば、この近所も美容院が増えましたねえ。

B：うちの息子も美容師になりたいって言ってるんですよ。床屋は私の代で終わりですか

ね。

7) [中学校の教室でBがAの相談に乗っている] A：生徒（女性） B：生徒（女性）

A：先週林さんとけんかしてから話しづらくなって全然話してないんだ。

B：でも、本当は話したいんでしょ。

A：うん。

B：林さんはさっぱりしてるから、けんかしたことなんかたぶんもう忘れてるよ。

気にしないで話しかけてみれば。

A：うーん、じゃ、そうしてみる。ありがとう。

【27】さらさら

用例

1. 髪がさらさらできれいだ。
2. さらさらの粉雪が降りつもっている。
3. さらさらとサインする。
4. 砂がさらさらとこぼれる。
5. 小川がさらさらと流れる。
6. お茶漬けをさらさらと食べる。
7. 大学に行くつもりはさらさらない。

文例と意味

1. シャンプーのCMに出てくる女の人の長い髪は、さらさらで本当にきれいだと思う。

<意味>

長い髪がさらさらだというのは、髪の毛を手で持ち上げると、手からさらさらと流れるように落ちるほど、髪がきれいによくとかしてあるということです。髪の毛がさらさらになるには、良いシャンプーを使って髪を洗ったり、ドライヤーでていねいにとかしながらかわかししたり、という毎日の手入れが必要です。

2. 北海道にスキーに行った。スキー場にはさらさらの粉雪が降りつもっていて、スキーが上手になった感じがした。

<意味>

さらさらの粉雪というのは、雪の粒がとても細かくて水分も少ないため、積もっても固まらないし、手にとるとさらさらと手からこぼれてしまうような雪です。さらさらの粉雪がつもったゲレンデでスキーをすると、スキーが自分の思う通りに回るので、スキーが上手になったような気がします。

3. 人気歌手のコンサートに行った。コンサートのあとサイン会が開かれて、サインをもらいたい人が長い列を作っていたが、歌手はさらさらとサインをしていった。

<意味>

さらさらとサインをするというのは、いつも同じサインを何回も書いているので、紙の上のペンをすべるようにとても速く動かして、サインをすることができるということです。

4. 沖縄の海に行った。海岸で真っ白い砂を手ですくったら、指の間から砂がさらさら(と)こぼれた。

<意味>

指の間から砂がさらさらとこぼれるというのは、砂の粒がとても細かく、また乾燥しているので、手の平にすくった砂が、まるで水がこぼれるように指の間から落ちていくというようすです。

5. 山道を歩いていたら、小川があって、きれいな水がさらさらと流れていた。

<意味>

山の上のほうに行くと、きれいな水が速く流れている小さな川にであうことがあります。そんな小川の水が、小さな岩の間を流れながら音を立てているようすを、小川の水がさらさら流れていると言います。

6. お酒を飲んだ後、寝る前に少しお腹がすいたので、残りご飯でお茶漬けを作ってさらさらと食べた。

<意味>

お茶漬けというのは、鮭や梅干しなどのおかずが少しのっけている白いご飯に、熱いお茶やだし汁などをかけて食べるものです。お茶漬けを食べるときは、お茶とご飯を同時に口に流し込むようにして食べるので、ちょうど水が流れるような音がします。それで、お茶漬けをさらさらと食べると言います。

7. 息子は勉強が大きらいなので、高校を卒業したらすぐ働きたいと言っている。親は大学に行ってほしいと思うのだが、息子は大学に行く気などさらさらないらしい。

<意味>

大学に行く気がさらさらない、というのは、大学に行きたいという気持ちがまったくないし、またそんなことを考えたこともない、ということです。

会話例

1) [温泉旅館で] A : 夫 B : 妻

A : この旅館は川沿いにあるから、風が入って来て涼しいね。

B : そうそう。エアコンも必要ないくらいよね。

A : それに川がさらさら流れる音が聞こえて来て、いい雰囲気だね。

2) [会社の食堂で] A : 会社員 B : 食堂の調理師

A : 最近、毎日とても暑いでしょう。食欲が全然ないんですよ。

B : そういうときは、ごはんに冷たい味噌汁をかけてさらさらと食べてみてください。

けっこう食べられると思いますよ。

A : そうですか。じゃ、今晚はそれにしようかな。

3) [大学のラウンジでBがAの相談に乗っている] A, B : 学生 (女性)

A : 髪がばさばさで寝癖がつきやすいんだけど、どうすればいいと思う。

B : リンスを髪全体につけて、1分待ってから水で流すとさらさらになると思うよ。

A : へえー、そうなんだ。早速今晚やってみるわ。

4) [会社の昼休みに食堂で] A : 社員 (男性) B : 社員 (女性)

A : 夏は日焼けするから嫌なんだよねえ。

B：日焼け止め、ぬればいいじゃない。

A：でも、日焼け止めってぬるとべたべたするだろ。あれが嫌。

B：最近の日焼け止めは、よくできてるから、たっぷりぬっても肌はさらさらで、べたべたしないよ。

A：えっ、そうなんだ。じゃ、ちょっとためしてみよう。

5) [新潟で] A：旅行者 B：地元の人

A：ここらへんは冬、雪が多くて大変でしょう。

B：ええ、ここらへんの雪は水分を多く含んでいるから、重くて雪かきが大変ですよ。
北海道あたりのさらさらの雪だと、雪かきもしやすいんですが。

A：へえ、同じ雪でもいろいろ違うんですね。

6) [結婚式の受付で] A：受付係の人（男性） B：受付係の人（男性）

A：こちらにご記帳願います。（出席者が記帳する）

B：さっきの人、立ったままなのに、筆ペンでさらさらと名前を書いていたな。
字もすごく上手だし。

A：どれどれ、あ、本当だ。いいなあ。あんなふうさらさらときれいな字で自分の名前
が書けるようになりたいなあ。

B：うーん、でも、たぶん無理でしょ。普段パソコンばかり使ってるんだから。

7) [ふとん屋で] A：お客（女性） B：店員（男性）

A：最近あまり眠れないんです。よく眠れるようになるふとんはありますか。

B：眠れるようになるふとんはありませんが・・・、こちらのふとんなんかいかがですか、
さらさらとした肌ざわりで、気持ちよく眠りにつけると思いますが。

A：それいただきます。とにかく何でもいいから眠りたいんです。

8) [大学のラウンジで] AB：大学4年生（男性）

A：就職活動やってる。

B：いや、全然やってない。就職するつもりなんてさらさらないから。

A：じゃ、卒業したらどうするんだよ。

B：とりあえずバイトして、金貯めて、1年ぐらいアジアを旅行しようと思ってる。

A：ふーん、気楽でいいなあ。

【28】 しっかり

用例

1. 窓を**しっかり**閉める。
2. 家の土台が**しっかり**している。
3. 子どもが母親に**しっかり**つかまっている。
4. 若いときから**しっかり**貯金している。
5. **しっかり**した計画を立てる。
6. けが人に「**しっかり**しろ！」と声をかけた。
7. **しっかり**者のいいお嫁さんをもらった。

文例と意味

1. 今晚から明日にかけて大型台風が近づいてくると言っていたので、窓を**しっかり**閉めた。

<意味>

大きな台風が来ているとか風がとても強いというときは、窓を**しっかり**閉めないと、風で窓が開きそうになるので心配です。窓を**しっかり**閉めておけば、少しぐらい強い風が吹いたり雨が強く降ったりしても、大丈夫です。

2. この家は、土台が**しっかり**しているので、大きな地震が来ても大丈夫だ。

<意味>

家を建てるときは、土台、つまり建物の上の部分のがのっている一番下の部分がとても大切です。土台が良い材料で**しっかり**作られていれば、台風や地震が来て建物がはげしくゆれても倒れたりしません。

3. 電車がカーブでひどく揺れるので、子どもが母親に**しっかり**つかまっている。

<意味>

電車はまっすぐな線路を走っているときは、左右にゆれることはほとんどありません。けれども、カーブのところになると、スピードが出ているときは特にかなりゆれます。ですから小さな子どもは、ふらふらして倒れそうになるので、母親の体や洋服に**しっかり**つかまって、倒れないようにしています。

4. 田中さんは、学生のときから**しっかり**貯金していたので、結婚してすぐに家を買うことができたそうだ。

<意味>

学生のときは、アルバイトをしてもらったお金をすぐに使ってしまう人が多いかもしれません。でも、もらったお金を全部とか半分以上貯金している人もいます。そんなとき、アルバイト代を**しっかり**貯金していると言います。学生時代から**しっかり**貯金すれば、卒業して就職してもっと貯金ができますから、若くても家を買うだけのお金がたまるのです。

5. 留学したいと思っているなら、**しっかり**した計画を立ててから行かないと失敗するよ。

<意味>

外国語を覚えたい、外国で勉強してみたいと思って、すぐに留学しようと思っている人がいるかもしれません。でも、例えば1年間留学をしようと思ったら、かなり前からいろいろな事をよく調べて、**しっかり**した計画を立ててから行くべきです。

6. オートバイが交通事故を起こして、若い男の人が道に倒れていた。まわりに集まった人が、けがをしたその男の人に「**しっかり**しろ！」と声をかけていた。

<意味>

交通事故でけがをしたときは、パニックになったり、今自分がどこにいるのか、何をしたらいいのか分からなくなってしまったりします。そんなとき、まわりにいる人は「**しっかり**しろ！」「**しっかり**して！」と声をかけて、けがをした人をはげましてあげます。

7. 息子が 24 歳で結婚するとき、まだ若いからちゃんとやっていけるか心配だったが、**しっかり**者のいいお嫁さんをもらったので安心した。

<意味>

しっかり者のお嫁さんをもたらったというのは、そうじや洗濯、料理などの家事はもちろん、子育てもしっかりできる女性と結婚したという意味です。また、しっかり者のお嫁さんなら、むだな物を買ってお金を使いすぎたりすることもないので、家計をまかせても安心です。

会話例 <会話を読んでみよう>

1) [家の洗面所で] A: 母親 B: ひろし (息子)

A: (水道の蛇口を見て) あら、また水が出てる・・・ひろし！ちょっと、ひろし！

B: なあに、お母さん？

A: ちょっと、これ見なさい。水が出てるでしょう。いつも言ってるけど、手を洗ったら水道の蛇口を**しっかり**閉めなきゃだめでしょ！

B: えっ？ ぼく、使ったとき、**しっかり**閉めたよ・・・お姉ちゃんじゃない？ さっき洗面所で顔、洗ってたよ。

2) [家具売り場で] A: 妻 B: 夫

A: ねえ、この丸テーブルはどう？ 色もいいし、素敵だと思わない？

B: でも、脚が真ん中に1本しかないし、ちょっとぐらぐらして (い) るよ・・・

A: そうねえ・・・じゃあ、こっちのは？ これは、脚も4本だし、**しっかり**してるんじゃない？

B: どれどれ・・・ああ、そうだね。このテーブル、ほんと**しっかり**してるね。これにしよう。

3) [道で] A: 大学生の女の子 B: 大学生の男の子

A: 今度買ったのって、このバイク？ 大きいねえ！

B: だろう！ スピードもすごく出るんだぜ。今日はこれからどこ、行きたい？

A: 海がいいなあ。

B: わかった！ じゃあ、**しっかり**つかまってるよ！

A: OK! **しっかり**つかまってるから、スピード出していいよ。

4) [ラグビー運動場で試合中に] A: コーチ B: キャプテン C: 1年生

(Bのキャプテンがタックルされて倒れてしまう)

A：おい、大丈夫か？**しっかり**しろ！1年、水もってこい！

C：はい、コーチ。

(持ってきた水をBにかけて)

A：おい、キャプテン、**しっかり**しろ！まだ、試合中だぞ・・・

B：ああ、コーチ・・・すみません・・・大丈夫です・・・

A：よし、立てるな。おまえが**しっかり**しないと、このチームは勝てないからな！頼むぞ！

5) [デパートの迷子預かり所] A：係りの女性 B：4歳の女の子

A：お母さん、どこへ行っちゃったのかしらね・・・でも、すぐに見つかるからだいじょうぶよ。ところで、お名前は？

B：中村まりです。お母さんの名前は中村けいこです。

A：まりちゃんはいくつ？

B：4歳です。若草幼稚園の年中組で、先生のお名前は小川先生。おうちの住所は、東京都新宿区西町1-2-33です。

A：すごい！まりちゃん、小さいのに**しっかり**してるのね！

6) [住宅街の家の前で] A：近所の主婦 B：五郎のお母さん

A：五郎さん、いいお嫁さんもらってよかったわねえ。

B：はい、おかげ様でありありがとうございます。

A：いつも笑顔できちんとあいさつするし、言葉づかいもハキハキしていて、**しっかり**した本当にいいお嫁さんですね。

B：ええ。五郎がいつまでたっても**しっかり**しないから、本当にいい人と結婚してくれてよかったって思ってるんですよ。

【29】じっくり

用例

1. 将来のことを**じっくり**考えて決める。

2. じっくり煮込んでシチューを作る。

文例と意味

1. 高校3年になったとき、大学に進学していろいろな勉強をしたほうがいいか、技術を身につけるために専門学校に行ったほうがいいかとも迷った。先生に相談したら、じっくり考えて決めたほうがいいよ、と言っていろいろな資料を渡してくれた。

<意味>

今は、中学を卒業したらほとんどの人が高校に行きますが、高校を卒業したときは、その先どうするか本当にいろいろな選択があります。ですから、高校を卒業した後のことを決めるときは、先生や両親、友達に相談したり、いろいろな資料を見たりしながら、じっくり考えて決めることが大切です。

2. 今日は寒いから、じっくり煮込んだおいしいビーフシチューを作って食べようと思う。

<意味>

シチューを作るときは、遅くても昼ごろから準備を始めて、じっくり5時間ぐらい時間をかけて煮込むとおいしいシチューができます。シチューだけでなく、何でも料理をするときは、じっくり煮たり焼いたりするとおいしいものができます。

会話例

1) [会社で] A: 部長 B: 社員 田中

A: 田中君、この資料、ちょっとわかりにくいなあ。もっとデータを整理しないと・・・。

B: あ、そうですか。グラフも入れてみたんですけど・・・。

A: まあ、会議は来週だから、もうちょっと、じっくり考えてみてよ。

B: はい。

2) [テレビの料理番組] A: 料理の先生 B: アシスタント

A: スープといっしょに、にんじん、じゃがいも、たまねぎ、豚肉を、なべに入れます。

B: はい。先生、この後は煮るんですね。時間は、どのぐらいですか。

A: 弱火で2時間ぐらい煮てください。じっくり煮ると、豚肉が柔らかくなって、おいしくできますよ。

3) [旅行の相談] A：みか B：ゆきこ

A：今度の連休は、京都と大阪に行こうよ。

B：そうね。大阪で遊びたいから、大阪に2泊で、京都は1泊ね。

A：うーん。京都のお寺は、じっくりと時間をかけて見たいな。京都を2泊にしようよ。

B：そうか。京都は見るところが、たくさんあるもんね。じゃ、そうしよう。

【30】じっと

用例

1. 相手の顔をじっと見る。
2. 痛くてもじっとがまんする。
3. 心配でじっとしてられない。

文例と意味

1. 夕方家に帰る途中、暗い道を歩いていたら、道ばたに立っていた知らない男の人がこちらをじっと見ていたので怖くなった。

<意味>

じっと見るというのは、例えばだれかの顔を見るとき、ほかのところに目を向けずにその相手の顔だけをずっと見続けることです。じっと見るのは、相手のようすや気持ちを知りたいとか、何か言いたいことがあるときなどです。じっと見られたほうの人は、もし相手のことを知らなかったら、ちょっと変な気持ちになります。だから、電車の中などで、知らない人をじっと見るのはちょっと失礼です。

2. 夕食を食べていたら、歯が痛くなった。痛み止めの薬を飲んだが、夜になってどんどん痛くなってきた。でも、朝になるまでどうすることもできないので、じっとがまんしていた。痛くてほとんど寝られなかった。

<意味>

痛いときにじっとがまんする、というのは、痛みをとるために何もいい方法がなく、と

にかくがまんするしかないということです。夜中に歯がとても痛くなったときなども、すぐ歯医者に行くことができないので、朝までじっと痛いのがまんします。

3. 近くのコンビニでアルバイトをしている大学生の娘が、夜になっていつも家に帰る時間を30分もすぎているのに帰ってこない。携帯電話をしてもつながらないので、どうして帰ってこないのかわからず、心配でじっとしてられない気持ちだった。

<意味>

心配でじっとしてられない気持ちというのは、例えば子供が夜遅く連絡もなく帰ってこないというようなとき、両親はすごく心配になってきて、いすにすわって何かをしていることなどとてもできないという気持ちのことです。

会話例

1) [就職試験の採用結果を知らせる電話を待っている] A: 男子大学生 B: Aの友人
A: あーあ、早く電話、来ないかなあ。

B:ほんとに今日、結果を知らせるって言われたのか?

A: あー、たしかに今日だよ。でも電話来るまでどこにも出かけられないし、なんか気になってほかのことが何もできないよ。こうやってじっと待ってるのってつらいよ。

B: そうだよなあ。

2) [病院の診察室で] A: 医者 B: 子供 C: 子供の母親

A: じゃ、注射しますよ。すぐ終わるから、じっとしててね。

B: 注射、いやだ。痛いもん。

C: だめだめ。動いたらもっと痛いわよ。じっとしてなさい。

【31】じろじろ

用例

1. 人をじろじろ見るのは失礼だ。
2. 店員にじろじろ見られた。

文例と意味

1. 夜遅く電車に乗ったら、前の席に座った人がこっちのことをじろじろ見てきたので、本当に失礼だと思った。

<意味>

だれかをじろじろ見るというのは、その人の頭から足の先まで、ゆっくりといつまでも見ていることです。ですから、電車の中でほかの人のことをじろじろ見る人がいますが、それはとても失礼なことです。

2. 急に大雨が降ってきて、かさを持っていなかったので全身びしょびしょにぬれてしまった。しかたなくコンビニにかさを買いに入ったら、店員にじろじろ見られて恥ずかしかった。

<意味>

大雨の中、かさをささないで歩いたら、頭から足まで全部ひどくぬれてしまいます。そのまま店に入ったら、店員やほかのお客はちょっとびっくりしてじろじろ見るかもしれません。そんなとき、じろじろ見られるとちょっと恥ずかしくなります。

会話例

1) [ファミリーレストランで] A: 息子 B: 母親

A: ねえ、お母さん。

B: 何?

A: あの人、何か変だと思わない?

B: え? どの人?

A: 一番奥のテーブルに座ってる、茶色い服着た人。さっきから一人でしゃべってるよ。

B: だめよ。そんなに人のことじろじろ見ないの! 失礼でしょ!

2) [電車の中で] A: 山田ひろこ B: Aの友達 C: 鈴木一郎

A: ねえねえ、さっきからドアの近くにいる男の人がじろじろこっち見てて、気持ち悪いんだけど・・・

B: えっ? ホントだ・・・何だろうね? あっ、こっちに来るよ。

C：(近寄ってくる) す、すみません。あのう、山田ひろこさんじゃないですか？

A：え？ はい、山田ひろこですけど……。もしかして……。鈴木君？！

C：そうだよ！6年生のとき一緒だった鈴木一郎……。やっぱりね！さっきから似てるなあとって見てたんだよ……。

【32】 すっかり

用例

1. 薬を飲んで**すっかり**良くなった。
2. 宿題のことを**すっかり**忘れていた。
3. もう**すっかり**一人前の大人だ。

文例と意味

1. 風邪を引いて熱が出た。病院で薬をもらってすぐ飲み、1日家で寝ていたら、次の日の朝には**すっかり**良くなっていた。

<意味>

風邪を引いたけれど薬を飲んで**すっかり**良くなったというのは、前の日は風邪で熱があったり、頭も痛かったりしてとても具合が悪かったのに、次の日にはとても元気で気分が良くなったということです。

2. 1時間目の授業が始まってすぐ、先生が宿題を出しなさいと言った。そのとき初めて、宿題のことを**すっかり**忘れていたことに気がついた。

<意味>

宿題のことを**すっかり**忘れていたというのは、家に帰って友達と遊んだり、テレビを見たりして、全然勉強しなかったので、宿題のことが頭から完全に消えてしまっていたということです。大人でもとても忙しいときには、大切な約束などを**すっかり**忘れてしまうということがあります。

3. 25歳の息子は就職して今年で3年になるが、今一人で地方で生活している。大学生

のころは、まだまだ子供だと思っていたけれど、もう**すっかり**一人前の大人になったように頼もしい。

<意味>

すっかり一人前の大人になったというのは、学校を卒業して就職し、社会人として一人で立派に生活できるようになったということです。

会話例

1) [飲み屋で] A : 27歳のサラリーマン B : Aの同僚

A : この間5年ぶりに実家に帰ったんだよ。

B : へえー。

A : そしたらさ、町が**すっかり**変わっててさ。もうびっくりしちゃったよ。

B : そりゃ5年も経ってたら、変わるよな。

A : まあね。でも、ちょっと寂しかったなあ。

2) [夜遅く酔って帰ってきた夫を玄関先で出迎えて] A : 夫 B : 妻

A : ただいま～。

B : 遅いわね、どこ行ってたのよ。

A : え？ 部下の鈴木と、ちょっと一杯飲んでたんだ・・・。

B : あのねえ、今日、何の日かわかる？ 結婚記念日なんだけど。

A : ええっ！・・・。ご、ごめんなさい。**すっかり**忘れてました。

【33】 すっきり

用例

1. 部屋を片付けて**すっきり**した。
2. 今朝は、**すっきり**起きられた。
3. **すっきり**したデザインの洋服。
4. 梅雨の間は、**すっきり**しない天気が続く。

文例と意味

1. 思い切っていないものを全部捨てたら、部屋が**すっきり**して前より広かった。

<意味>

部屋の中にいろいろなものがたくさん置いてあると、部屋がとても狭くなり、見た感じもよくありません。それで、部屋の中のいらぬものを捨てると、部屋がきれいで広くなった感じがします。そのとき、部屋が**すっきり**したと言います。

2. きのう頭が痛かったので、薬を飲んで早く寝たら、今朝は気分もよく**すっきり**起きられた。

<意味>

すっきり起きられたというのは、前の日にぐっすり眠ることができて、目がさめたときとても気分が良かったということです。前の日に遅い時間に寝て、起きたときまだ眠いか気分が悪いというときは、**すっきり**起きられません。

3. (美容院で) 夏の間は暑いので、いつもより髪を短く切って、**すっきり**したヘアスタイルにしてください。

<意味>

すっきりしたヘアスタイルというのは、髪がまとまっていて、見た感じがさわやかで涼しそうなヘアスタイルです。男性でも女性でも、とても短い髪だったら**すっきり**した感じに見えますが、女性の長い髪でも、後ろで一つに結んでいたり、着物を着るときのようにまとめて上にあげていたりすれば、**すっきり**したヘアスタイルになります。

4. 6月の2週目から梅雨に入り、**すっきり**しない天気が続いている。洗濯をしてもよく乾かないし、なんだか気分も**すっきり**しない。

<意味>

すっきりしない天気というのは、雨が降って、やんだ後もまだ曇っていて、またすぐ雨が降りそうな天気です。雨がやんだ後、青空になって**すっきり**と晴れることがないので、気分も重く**すっきり**しない感じになるのです。

会話例

1) [学校の帰り道] A, B : 女子高校生

A : 雨、なかなかやまないね。

B : しょうがないよ。梅雨なんだから。

A : でもさ。こう雨ばかり続くと、いやになる。

B : そうだね。天気が**すっきり**しないと気持ちも晴れないよね。

2) [会社の廊下で] A : 新入社員 B : 会社の先輩

A : 先輩、どうしたんですか。なんか気分、良さそうですね。

B : ああ、もう**すっきり**したよ。この間から、となりの田中さんに言おうと思ってたこと、
今日全部言っちゃったんだ。

A : えーっ？そうなんですか。で、田中さんは、何て？

B : うん。ちょっとびっくりしたみたいだけど、何も言わなかったよ。

【34】すつと

用例

1. **すつ**と立ち上がって席をゆずった。
2. 冷たいものを飲むと**すつ**とする。
3. 音もなく**すつ**と部屋に入ってきた。
4. 悪者がつかまって、胸が**すつ**とした。

文例と意味

1. 電車にお年寄りが乗ってきたとき、前に座っていた若い女性が**すつ**と立ち上がって席をゆずった。

<意味>

すつと立ち上がるというのは、ゆっくり立ち上がるのではなく、素早く立ち上がるようすで、見ていてスマートな感じがする立ち方です。

2. 暑い日に、冷蔵庫からよく冷えたコーラを出して飲んだら**すつ**とした。

<意味>

暑いときに冷たいものを飲んで**すつと**するというのは、飲んだ物の冷たさで体が冷えて体が涼しくなる感じのことです。

3. 夜部屋でテレビを見ていたら、突然友達が**すつと**部屋に入ってきたので、本当にびっくりした。

<意味>

すつと部屋に入ってくるというのは、部屋のドアをノックするとか、声をかけるとかしないで、音も立てずに素早く部屋に入ってくるようすです。だれかが**すつと**部屋に入ってきたら、部屋の中にいた人はふつうちょっとびっくりします。

4. 映画で、最後にやっと犯人がつかまったのを見て胸が**すつと**した。

<意味>

胸が**すつと**するというのは、例えば映画などで最後にやっと犯人がつかまったときなどに、見ているお客の気分がとてもよくなることです。

会話例

1) [小さい我が子の寝顔を見ながら] A : 母親 B : 父親

A : 見てみて。この寝顔。

B : あはは。口開けて寝てるよ。

A : ね。お布団入ったと思ったら、**すつと**寝ちゃったの。

B : よっぽど遊び疲れたんだな。

A : でも、ほんと寝顔ってかわいいよね。

2) [家で] A : 母 B : 娘

A : この俳優さん、本当に素敵よね。

B : え～?? どころが??

A : あら。鼻筋が**すつと**通ってて、整った顔立ちじゃない?

B : お母さん、そういう顔が好きなの? お父さんと全然違うじゃない。

A : まあね。

3) [喫茶店を出たところで] A: 会社員 (男性) B: Aの同僚 (女性)

A: あー、冷たいもの飲んで、体がすっとした。

B: そうだね。こんな暑い日は、ソーダみたいにすっとした飲み物が一番だよな。

A: そうそう。あったかいコーヒーとかは、やっぱり冬しか飲めないな。

【35】 すらすら

用例

1. 日本語がすらすら話せる。
2. このペンはすらすら書ける。
3. 難しい問題をすらすら解いた。

文例と意味

1. 日本語を1年勉強したけれど、まだすらすら話せません。早く日本人のように日本語がすらすら話せるようになりたいです。

<意味>

日本人のように日本語がすらすら話せるというのは、文法のことを心配しながらゆっくり話すのではなく、なめらかに速く話せるということです。外国語を勉強するとき、始めはなかなかすらすら話せませんが、上手になるとすらすら話せるようになって、それがとてもうれしいものです。

2. おじが入学祝いに買ってくれたペンはすらすら書いてとてもいいので、いつもこればかり使っている。

<意味>

すらすら書けるペンで書くと、インクがにじんだりかすれたりしないできれいに書けるので、とても書きやすいです。すらすら書けるペンを使うと、手も疲れません。

3. 太郎くんは小学3年生なのに、大学の入試問題に出るような難しい数学の問題を**すら**解いてしまうので、先生もびっくりしている。

<意味>

ある子供が難しい問題を**すら**解くというのは、ほかの子供がその問題を解くのに10分ぐらいかかるとか、または長い時間考えても全然解けないとき、その子供だけは2分ぐらいで解くことができるということです。ふつう小学3年生の子供は、大学の入試問題など解けません。でも太郎くんはそういう難しい問題を**すら**解いてしまうので、本当に頭がいい子供だということです。

会話例

1) [日本語学校で] A: 留学生 (女性) B: 留学生 (男性)

A: タンさんは読むのがすごく上手だね。どうしてそんなに**すら**読めるの?

B: うん、毎日教科書のテープを何回も聞いているんだよ。それでテープと一緒に読むんだ。

そうすると、自然と**すら**読めるようになるみたいだよ。

A: そうか。やっぱり毎日練習するといいなだね。

2) [塾の教室で] A: 算数を教えている先生 B: 小学生

A: じゃ、12 ページの問題が全部できた人はノートを出して。

B: 先生、できました。

A: あきおくん、もう全部できたの? 早いねえ。難しい問題も**すら**解けるんだ。

B: うん、この問題、そんなに難しくなかったよ。

【36】 ずらり

用例

1. 駐車場に観光バスが**ずらり**と並んでいる。
2. 世界各国のワインを**ずらり**とそろえている。
3. ステージの上にスターが**ずらり**と並んだ。

文例と意味

1. バス旅行で箱根に行った。途中で休憩するために、サービスエリアに入ったら、駐車場に同じような観光バスが**ずらり**と並んで止まっていた。

<意味>

駐車場に観光バスが**ずらり**と並んでいるというのは、止まっているバスが2台とか3台ではなく、10台以上、ときには20台ぐらい並んでいるということです。

2. デパートのワイン売り場に行ったら、小さな部屋のようなところに、世界各国のワインを**ずらり**とそろえて売っていたので、どれを買ったらいいか迷ってしまった。

<意味>

ワイン売り場に世界各国のワインを**ずらり**とそろえているというのは、フランスやイタリア、ドイツなどヨーロッパのワインから、アメリカ、南アメリカ、オーストラリアやアフリカのワインまで、世界中のいろいろな国のいろいろな種類のワインがたくさん集められて売られているということです。

3. アカデミー賞の授賞式をテレビで見ていると、有名な映画スターがステージの上**ずらり**と並んでいて、とても素敵だった。

<意味>

有名な映画スターが**ずらり**と並んでいるというのは、ふだんは一つの映画に一人か二人しか出てこないような有名なスターが、アカデミー賞という特別なときなので、ステージの上に一度に10人以上も一緒に出てきて並んでいるということです。

会話例

1) [ハワイのお土産物屋で] A, B : 新婚のカップル

A : このTシャツ、かわいいね。15ドルだし、旅の記念に色違いで買わない？

B : いいね。どれにしようかな。ピンクもいいけど、オレンジも夏っぽくていいし…。

A : そうだね。全部で7色もあるよ。こんなにたくさんの色の**ずらり**と並んでると、なかなか決められなくて、かえって困るね。

2) [電気店で] A : レポーター B : スタジオのキャスター

A：まだ夜10時なんですけど、明日発売のゲームソフトを少しでも早く手に入れようというお客さんで、もうずらりと長い列ができています。

B：あー、ほんとにすごい人ですね。先頭の方はいつから並んでいるんでしょうか。

A：さきほどお話を伺ったんですが、3日前からこちらに並んでいらっしゃるそうです。

【37】そっくり

用例

1. 親子で声がそっくりだ。
2. これとそっくりのかばんを持っている。
3. 本物とそっくりに作ってある。
4. どろぼうが金庫の中身をそっくり盗んだ。

文例と意味

1. 鈴木さんの息子さんは、お父さんと声がそっくりだ。鈴木さんの家に電話をかけるとお父さんが出たのか息子さんが出たのかわからなくて困る。

<意味>

声がそっくりだというのは、声がとてもよく似ているということです。親子で声がそっくりだという場合は、電話に出たとき、父親と息子の声が本当に同じように聞こえるので、どちらと話しているのかわからなくなることがあります。

2. 友達は、私がヨーロッパに行ったときに買ってきたブランドのかばんとそっくりのかばんを持っている。

<意味>

そっくりのかばんというのは、2つのかばんが本当は違うものなのに、見たところ形や大きさ、色などのデザインなどがまったく同じで、違うところが見つからないということです。海外などでは、ヨーロッパの高価なブランド商品とそっくりの品物を作って、とても安く売っている所もあります。

3. 誕生日に子供にミニチュア・カーを買ってやった。とても小さなものだけれど、本物の車とそっくりに作ってあって、すごく高かった。

<意味>

おもちゃのミニチュア・カーが本物の車とそっくりに作ってあるというのは、おもちゃなので大きさはもちろんとても小さいけれど、細かいところまで本物とまったく同じように作ってあるということです。

4. どろぼうは、金庫に入っていた現金や宝石、高価な時計などをそっくり盗んだ。

<意味>

どろぼうが金庫に入っていたものをそっくり盗んだというのは、金庫の中にいろいろなものが入っていたけれど、どろぼうがそれらのものを一つ残らず全部取っていったという意味です。

会話例

1) [会社で、課長と社員が写真を見ている] A : 女子社員 B : 課長

A : これ、課長の息子さんですか。

B : ああ、そうだよ。今年、小学校に入ったんだ。

A : わー、息子さん、ほんと課長にそっくりですね。

B : ははは、そうか。みんなにそう言われるんだよ。親子にまちがいないってね。

2) [電車の中で] A, B : 女子大生

A : あれ？みちこのバッグ、ちょっと見せて。私、これとそっくりの持ってるんだけど。

B : あ、そうなんだ。どこで買ったの？

A : バンコクだよ。去年旅行に行ったとき、バーゲンしててすごく安くなってたから買ったんだ。

B : ふーん、そうか。でもさ、海外ですごく安く売ってるものって、本物そっくりのニセモノってことがあるから、気をつけたほうがいいよ。

3) [警察で] A : 警官 B : 中年の男性

A : で、金庫にはいくら入ってたんですか。

B：現金が500万円と、あと貴金属とか書類とかいろいろです。

A：じゃ、犯人は金庫の中身を**そっくり**とっていったってわけですね。

B：そうです。あのう…、犯人、見つかるでしょうか。

【38】 そっと

用例

1. ワイングラスを**そっと**持つ。
2. うしろの出口から**そっと**帰る。
3. この問題には触れずに**そっと**しておこう。

文例と意味

1. ワイングラスを買いに行った。棚に並んでいるワイングラスは脚の部分がとても細くて、手に持っただけでこわれそうだったので、注意深く**そっと**手にとって見た。

<意味>

そっと持つ、**そっと**手にとる、というのは、ガラスなどでできていて、持つだけでもこわれそうな物を、ものすごく注意して、静かに力を入れないように持つことです。

2. 有名な大学教授の講演会に行った。会場は満員でみなとても熱心に話を聞いていたが、途中で気分が悪くなったので、後ろの出口から**そっと**出た。

<意味>

講演会などで後ろの出口から**そっと**出るというのは、会場が静かでだれも立ち上がったりしていないし、みなとても熱心に聞いているというとき、自分だけが出ていくことがちょっと恥ずかしいとか、ほかの人に気づかれないということです。

3. 木村さんは、先月交通事故で奥さんをなくした。しばらくはそのことに触れないで、**そっと**しておいてあげるのが一番だと思う。

<意味>

例えば家族など身近な人が亡くなったという人は、ほかの人の前ではふだんと同じよう

に明るくしていても、本当はとても辛く悲しい気持ちでいるものです。ですから、まわり
の人が、そのことについては絶対話したりしないよう気をつけることを、そっとしておく、
と言います。

会話例

1) [引越しの日、荷物を開ける作業をしている] A：引越しセンターの人 B：主婦
A：あのう、このガラスの置物はどこに置きますか。
B：えーと、そこの棚の上をお願いします。あ、それ、ほんとにこわれやすいのでそうっ
と持ってくださいね。
A：はい、わかりました。

2) [高校で昼休みに] A, B：女子高生（二人ともまりこの友達）
A：ねえ、まりこがさ、なんか彼にふられちゃったみたい。さっき泣いてたよ。
B：えー、そうなんだ。じゃさ、明日、遊びに行こうって誘ってあげようか。
A：いや、こういうときは、そっとしておいたほうがいいんじゃない？
B：そうだね。

【39】そろそろ

用例

1. もう遅いからそろそろ帰ろう。
2. 息子もそろそろ結婚を考える歳になった。
3. 足が痛いのでそろそろと歩いている。

文例と意味

1. 7時半に仕事を終えたあと、大学時代の友人と待ち合わせてレストランで食事した。
食事をしながらいろいろな話をして、ふと時計を見るともう10時になっていた。明日も朝
早くから仕事もあるし、もう遅いからそろそろ帰ろうとって10時半に店を出た。

<意味>

もう遅いから**そろそろ**帰ろうというのは、今すぐ帰るということではなく、あと 10 分とか 15 分ぐらいで帰るようにしようということです。ですから実際には、**そろそろ**帰ろうと言ってから、30 分ぐらい話し続けてしまうこともあります。

2. 息子が今年 30 歳になる。大学を卒業してから今の会社に入り、毎日遅くまで仕事ばかりしていたが、もう**そろそろ**結婚を考えてもいい年齢になったと思う。

<意味>

そろそろ結婚を考える年齢になったというのは、今すぐに結婚したいとかなければならないということではないけれど、あと 1 年か 2 年ぐらいの間に結婚してもいいかなと思える年齢になったということです。最近では、男女とも結婚する年齢が高くなってきていますが、だいたい男性なら 30 歳、女性なら 26 歳ぐらいで結婚について考え始める人が多いようです。

3. 昨日、階段を下りるときにつまずいて、足首を痛めてしまった。歩くとまだ痛いので、**そろそろ**と歩いている。

<意味>

そろそろと歩くというのは、足が痛いなどの理由で、足をあげて元気よく歩くことができず、足をひきずるようにして静かにゆっくり歩くことです。また、足が痛くなくても、足音を聞かれないよう静かに歩くときも**そろそろ**歩くと言います。

会話例

1) [ホテルで] A: 夫 B: 妻

A: あ、もう 9 時 40 分だ。

B: 本当だ。もうこんな時間なのね。チェックアウトは 10 時よ。

A: じゃ、**そろそろ**下に降りなきゃね。

2) [病院のリハビリセンターで] A: 看護師 B: 患者

A: いよいよ今日からリハビリがスタートですね。

B: ええ。でも、事故の前のように、歩けるようになるか、ちょっと不安で…

A: 誰でもそうですよ。まずはここからあそこまで、壁伝いに**そろそろ**でもいいから歩く

ことを目標に頑張りましょう、ね！

【40】 ぞろぞろ

用例

1. 観光客がぞろぞろ降りてきた。
2. いらぬ物がぞろぞろと出てくる。
3. 着物をぞろぞろひきずって歩く。

文例と意味

1. 観光地の駐車場に大型バスが何台も着いた。中から観光客がぞろぞろ降りてきて、駐車場は人でいっぱいになった。

<意味>

観光地に着く大きなバスは、1台に乗客が40人以上乗っています。そういうバスが何台も着いて、中から人が次々とたくさん降りてくるようすを、お客がぞろぞろ降りてくると言います。

2. 引越しをすることになったので、部屋の押入れに入っていたものを全部出してみた。そうしたら、中からもう全然使っていない物や、古くて着られなくなった洋服など、いらぬ物がぞろぞろと出てきてびっくりした。

<意味>

ぞろぞろ出るというのは、続けてたくさん物が出てくるという意味です。例えば、押入れの中に、古い物やいらぬ物がたくさん入っていることがあります。そういう物をたまに出してみると、本当にたくさん物がぞろぞろと出てきてびっくりします。

3. 着物の帯のしめ方がうまくできなくて、歩いているうちに、着物のすそをぞろぞろとひきずってしまった。

<意味>

着物は、洋服とちがってそのまま着ると長くて床についてしまいます。それで、着物を

着るときは、ちょうどいい長さになるように腰のあたりで着物を折って帯の中に 30 センチ位入れます。ですから、帯を上手にしめないと、着物のすそが床についてしまい、**ぞろぞろ**とひきずって歩くことになります。

会話例

1) [職員室で] A : 英語の教師 B : 数学の教師

A : 今回のテスト、全体的にみんな悪いですね。英語は平均点 50 点以下ですよ。

B : 数学はもっとひどいですよ。30 点ぐらいのが**ぞろぞろ**います。

A : 先生のところは、何点以下で再試験ですか。

B : 私は、一応 20 点とれなかった場合は、再試験ってことにしてますよ。

2) [家の台所で] A : 夫 B : 妻

A : ゴキブリがたくさんいたっていうのはどこなの？

B : そこよ。冷蔵庫の裏を掃除してたら、すきまから、ゴキブリが**ぞろぞろ**出てきたのよ。

あー、気持ち悪い。

A : いやだなあ。ちょっと冷蔵庫、前に動かして見てみるけど、また**ぞろぞろ**出てきたらおれだって気持ち悪いよ。

【41】たっぷり

用例

1. なべにお湯をたっぷり入れる。
2. 時間がたっぷりある。
3. たっぷりした服を着る。
4. 栄養たっぷりのメニューだ。
5. 昼食にたっぷり 2 時間かける。
6. 自信たっぷりに話す。

文例と意味

1. スパゲティやそば、うどんなどの麺類をゆでるときは、なべにお湯を**たっぷり**入れてゆでたほうがいい。お湯が少ないと、なべの中でスパゲティがくっついてしまうからだ。

<意味>

なべにお湯を**たっぷり**入れるというのは、なべのふちぎりぎりまで、つまりもう少しであふれそうになるというところまで、たくさんのお湯を入れることです。このほかにも、トンカツにソースを**たっぷり**かける、野菜を**たっぷり**使った料理、など調味料や材料をたくさん使う場合にも**たっぷり**と言います。

2. 今度の試験はかなり難しいと思うけど、時間は**たっぷり**あるから、あわてないでゆっくり考えたほうがいいですよ。

<意味>

時間が**たっぷり**あるというのは、何かをするために必要な時間が十分あることです。例えば2時間の試験で、全部の問題を解くのに1時間しかかからなかったとき、あと1時間は、問題の答えを見直したりもう一度考えたりできるので、時間が**たっぷり**あると言います。

3. 妊娠したときは、お腹をしめつけないように**たっぷり**した服を着るほうがいいでしょう。

<意味>

たっぷりした服というのは、体のサイズよりずっと大きく作られていて、着たときに体の形がほとんどわからないような服です。妊娠しているとき、つまりお腹に赤ちゃんがいるときは、**たっぷり**した服を着ます。お腹のところをしめつけるような服は着ている人も苦しいし、お腹の赤ちゃんにも悪い影響があるのでよくないからです。

4. 寒い日は、肉や野菜がたくさん入った栄養**たっぷり**の温かいシチューを食べると、体が温まります。

<意味>

栄養**たっぷり**というのは、例えばシチューなら肉、にんじん、じゃがいも、たまねぎ、ブロッコリーなどの野菜類、そして牛乳も入っているので、いろいろな栄養が十分にとれるということです。

5. とても大きな病院へ行くと、受付をしてから診察室に呼ばれ、そして診察が終わって会計が済むまで**たっぷり**2時間以上かかります。

<意味>

たっぷり2時間以上待つというのは、どんなに早くても2時間、実際には2時間半ぐらいは待つということです。例えば、大きな病院は、患者さんがとてもたくさん来ますから、診察を受けようと思うと本当に長い時間待たされます。受付をして待合室で待つ時間が1時間~1時間半、そして診察は5分ぐらいで終わるのですが、その後また会計で名前を呼ばれるまでに30分、それから薬局で薬をもらうまでにさらに30分、というように**たっぷり**2時間以上はかかることになります。

6. 社長は、今度のプロジェクトは必ず成功させると自信**たっぷり**に話していたが、本当にうまくいくのだろうか。

<意味>

自信**たっぷり**に話すというのは、話している内容や声の大きさ、調子、また顔つきなどから、その人が本当に自信を持って話していることがわかるという意味です。ある人が、自信**たっぷり**に話しているのを聞くと、ほかの人は、その話は本当だろうかと思ったり、反対にちょっと心配になったりすることも多いようです。

会話例

1) [料理教室で] A: 料理の先生 B: 生徒

A: では、次にスパゲッティをゆでましょう。お湯は**たっぷり**入れてわかしてください。

お湯が少ないのはだめですよ。

B: あの、先生、塩はいつ入れますか。

A: あ、はい、塩はお湯が煮立ってから入れましょう。

2) [ディズニーランドで] A, B: 女子高校生

A: 今、何時?

B: えーっと、5時だけど。

A: そうかあ。パレードは7時からだから、まだ時間は**たっぷり**あるね。

B：うん、じゃ、おみやげとか先に買っておこうか。

A：そうだね。

3) [外国人の日本語クラスで] A：日本語の教師 B：外国人学生

A：フェルッチョさんは、お国では、昼食は何時ごろ食べていましたか。

B：だいたい12時から2時ぐらいですね。

A：えっ？ お昼ごはんを食べるのに2時間もかかるんですか。

B：そうですね。私の国では、昼食が一番大切なんです。だから**たっぷり**2時間はかけますね。家に帰って、家族とゆっくり話しながら食べるっていう人も多いです。

A：そうなんですか。

4) [中学校の教室で] A, B：男子中学生

A：あしたから、期末テストだよなあ。勉強したか？

B：ああ、この間のテスト悪かったから、今度はがんばったんだ。だから**ばっちり**だよ。

A：へえ、自信**たっぷり**じゃないか。いいなあ。

B：うん、まあな。

【42】ちゃんと

用例

1. 食事の前に**ちゃんと**手を洗う。
2. 小さな子供たちが**ちゃんと**並んでいる。
3. **ちゃん**とした会社に勤めたい。
4. お客さんが来るから、**ちゃん**としなさい。

文例と意味

1. 子供のとき、いつも母に「食事の前に、**ちゃんと**手を洗いなさい。手を洗わなかったら食べてはいけませんよ。」と言われた。

<意味>

手はいろいろなものをさわっています。ですから汚れていないように見えても、本当はいろいろなばい菌がついていて汚いのです。それで、その手で食べ物をさわって食べると、お腹をこわしたりすることがあります。だから、食事の前には必ず石けんを使ってちゃんと手を洗うことが大切です。

2. 幼稚園の卒園式に行った。卒園する6歳の子供たちはもちろん、3歳・4歳の小さな子供たちもちゃんと並んで先生の話聞いていたので、驚いた。

<意味>

小さな子供たちがちゃんと並んでいるというのは、さわいだり、動き回ったりしないで、前の人と列をそろえて、きれいに並んでいるようすです。ふつう小さな子供は動き回ってしまい、同じ場所にじっとしてられないので、ちゃんと並ぶことはなかなか難しいです。

3. 高校を卒業してしばらくフリーターとしてコンビニでアルバイトをしたり、スーパーでパートとして働いたりしていた。でも最近は、将来のことを考えて、やっぱりちゃんとした仕事につきたいと思うようになった。

<意味>

ちゃんとした仕事につくというのは、アルバイトやパートタイムで働くのではなく、会社などで正社員として働くということです。

4. 今日は、夫の会社の上司が家に食事に来ることになっている。二人の息子はまだ小学生で、いつもうちの中でとてもうるさく走り回っているので、「今日はお客さんが来るからちゃんとしなさい」とよく言い聞かせた。

<意味>

子供に、お客が来るからちゃんとしなさいと言うのは、例えばお客さんが来たらちゃんとあいさつをすとか、家の中をうるさく走り回ったりしないようにとか注意することです。つまり、子供がちゃんとしていれば、教育もちゃんとできているということで、親も恥ずかしくないわけです。

会話例

1) [プールで] A: 小学校の生徒 B: 水泳のインストラクター

A：先生、早く泳ぎたいよ。

B：はいはい。でも、プールに入る前にちゃんと準備体操をしなきゃね。

A：えー、体操？ 早く泳ぎたいよ。

B：だめだめ。じゃ、まず屈伸からいくよ。1、2、3、4、はい、ちゃんと足を伸ばしてね。

2) [空港のカウンターで] A：夫 B：妻

A：あれ、ちょっと待って。飛行機のチケットが無い。

B：まさか家に忘れたんじゃないでしょうね。

A：そんなはずないよ。今朝ちゃんとジャケットのポケットに入れたんだから。

B：ほんとに？ じゃ、ポケットの中、ちゃんと見たの？

【43】どきどき

用例

1. スピーチをするとき、どきどきした。
2. 走ったあとは、心臓がどきどきする。
3. テストの点を見るときはいつもどきどきだ。
4. きのう見た映画は、はらはらどきどきの連続だった。

文例と意味

1. 大学のスピーチコンテストに出た。前の日までに、何回も練習したけれど、名前を呼ばれてステージにあがったら、緊張してすごくどきどきしてしまった。

<意味>

スピーチをする時どきどきしたというのは、スピーチがうまくできるだろうか、途中で言うことを忘れてしまわないだろうか、いろいろ考えてとても心配になることです。どきどきすると、心臓がとても速く動くのがわかるし、顔が少し熱くなったり、手や足がふるえたりすることもあります。

2. 子供の学校の運動会に行って、親子で手をつないで走るというレースに参加した。最近、走ったことがあまりなかったので、久しぶりに思い切り走ったら、心臓がどきどきして苦しくなってしまった。

<意味>

走って心臓がどきどきしたというのは、走ったために、心臓がふだんよりとても速く動いていることです。速く走ったり、サッカーなどの激しいスポーツをしたり、山登りをしたりすると、どきどきします。心臓がどきどきすると、少し苦しく感じることもあります。

3. 入学試験の発表の日、一人で見に行くのはなんだかこわくて、友達といっしょに行った。大学の門を入れてからずっと、自分の番号を見つけるまでは、本当にどきどきだった。

<意味>

入学試験の結果を見るときどきどきだったというのは、もしかしたら合格しているかもしれないと期待する気持ちと、もし合格していなかったらどうしようという不安な気持ちの両方があって、心臓がどきどきと速く動いたり、少し胸が苦しいような感じになったということです。

会話例

1) [学校で、前の日のテレビドラマの話をしている] A, B : 女子高校生

A : ねえ、見た〜? きのうのあのドラマ。

B : もちろん見たよ。もうラストのシーンでどうなるかと思ってどきどきしちゃった。

A : そう、私も。でも、よかったよね、最後に二人が会えたから。

B : ほんと、ほんと。

2) [面接試験の会場。Bが先に終わり、順番を待っているAと話している] A, B : 男子大学生

A : 面接、どうだった? どんなこと聞かれた?

B : いやあ、大学でどんなこと勉強したかとか、サークルは何だったとか、まあ、普通の質問だったよ。

A : そうか。順番待ってるうちになんか緊張してきた。もうどきどきだよ。

B : えー? 別にだいじょうぶだよ。おまえ、緊張するような性格じゃないだろ。

【44】どっと

用例

1. 1日中歩き回ってどっと疲れた。
2. 電車から人がどっと降りてくる。
3. 映画を見ていた客がどっと笑った。

文例と意味

1. 日曜日に子供たちを連れて動物園に行った。広い園内を子供と一緒に1日中歩き回ったらどっと疲れて、家に帰ったらすぐばたんと寝てしまった。

<意味>

どっと疲れるというのは、例えば動物園に行っている間はずっと楽しくて、あまり疲れた感じがしないのですが、家に帰って急にものすごく疲れたと感ずることです。どっと疲れたときは、たいてい家に帰ってすぐ寝てしまうことが多いです。

2. 朝のラッシュアワーは、どの電車も人でいっぱいです。ホームに着いた電車からは、ドアが開くとすぐ人がどっと降りてきます。

<意味>

電車から人がどっと降りてくるというのは、ラッシュアワーの電車には人が本当にたくさん乗っているの、ドアが開いてすぐ人が順番に降りてくるというより、大勢の人が一度にまとまって降りてくるということです。ダムの水門が開いて水がどっと流れると言うように、たくさんものが急にでてきたり流れたりするとき、どっと流れるとかどっと出ると言います。

3. 先週見た映画は本当におもしろいコメディ映画で、俳優がおかしなことを言うたびに、観客がどっと笑っていた。私も笑いすぎてお腹が痛くなってしまった。

<意味>

映画館でお客がどっと笑ったというのは、映画を見ていた人たちのほとんどみんなが、

急に大きな声で笑ったので、映画館の中でとても大きな音が響いたような感じがすることです。

会話例

1) [両親が田舎から訪問してきた後で] A：姉 B：弟

A：やっとお父さんたち、九州に帰ったね。長い一週間だった。

B：あー、あちこち一緒に行って、何だか疲れたよ。僕、もう寝ようかな。

A：そうしなさい。私もなんか疲れがどっと出てきたみたい。

2) [中学校で] A：先生（女性） B：女子生徒

A：山田さん、今日はどうして遅刻したんですか。

B：電車でつい寝てしまったんです。降りる駅だと気づいて、すぐに降りようとしたんですけど…。人がどっと乗ってきて、降りられなくて…。

A：そういうときは、「すみませーん！」って大きな声を出さなきゃ。明日から電車で寝ないよう気をつけなさい。

B：はい、すみませんでした。

【45】 どんどん

用例

1. ドアを^どん^どんとたたく音がする。
2. 祭りの太鼓を^どん^どんたたく。
3. 日本語が^どん^どん上手になる。
4. 駅前にマンションが^どん^どん建つ。
5. ジャングルの中を^どん^どん進む。

文例と意味

1. 夜中に、玄関の戸を^どん^どんとたたく音が聞こえて、目が覚めた。

<意味>

ドアを**どんどん**とたたく音というのは、夜中で家の人が寝ているときや、チャイムを鳴らしても家の人気づかないときなどに、家の人に気づいてもらうためにドアを強くたたくときの音です。部屋のドアをノックするときは、**どんどん**とたたくとちょっと失礼な感じがするので、とんとんとノックします。

2. もうすぐ秋祭りが始まるので、村の人たちは、毎日太鼓を**どんどん**たたいて練習している。

<意味>

太鼓を強くたたくと、**どんどん**と大きくて低い音が出ます。オーケストラの打楽器の一つである大太鼓も、**どんどん**という音がします。小さな太鼓の場合は、高くて軽い音が出ますから、それは**どんどん**ではなく、ぼんぼんと言います。

3. 日本語の勉強を始めてすぐ、日本人の友達ができただけで話していたら、日本語が**どんどん**上手になってきた。

<意味>

どんどん上手になるというのは、自分やまわりの人もちょっとびっくりするぐらい、速く上手になることです。外国語をおぼえるのに、ふつうその言葉が話されている国に住めばだれでもいつか話せるようになります。でも、毎日その言葉を使って話している人は、学校だけでその言葉を話している人に比べて、上手になるスピードがもっと速いです。そんなとき、**どんどん**上手になる、と言います。

4. 駅前の空き地は長い間何もなかったけれど、今年になって急に新しいマンションが**どんどん**建ち始めた。

<意味>

どんどん建つというのは、建物が次から次と続けて建っていくようすを表します。例えば、今まで高いビルが何もなかったようなところに、急に新しいマンションが建ち始めて、1年の間に2つも3つも新しいマンションができたようなとき、新しいマンションが**どんどん**建った、と言います。

5. その若い冒険家は、危険なジャングルの中を**どんどん**奥へ進んでいった。そして、今

までだれも発見することのできなかつた古い遺跡を、ついに発見した。

<意味>

ジャングルを**どンドン**進むというのは、ジャングルの中には危険なことがたくさんあるので、先に進むことが難しいと感じることもあるけれど、がんばって**どンドン**ジャングルの奥のほうに入っていくという意味です。

会話例

1) [子供たちの寝室で。夜中の1時ごろ] A: 弟 B: 兄

A: ねえ、お兄ちゃん。なんか下で**どンドン**って音がするよ。何の音?

B: えー?・・・あ、ほんとだ。玄関のドアをたたいてる音だよ。だれだろう?今ごろ。

A: こわいよー。どろぼうが来たのかなあ。

B: ばかっ! どろぼうがドアを**どンドン**たたくわけないだろ! お父さん、起こしてくれるから、お前、ここで待ってろ。

2) [日本語学校の教室で] A: 教師 B: 学生

A: リーさんは、このごろ日本語がずいぶん話せるようになりましたね。何か特別に練習してるんですか。

B: あ、いえ、日本人の友達がいる、毎日その人と話してるんです。

A: そうですか。それはいいことです。そうやって、日本人とたくさん話していれば、**どンドン**上手になりますね。みなさんも、学校の外で日本人と**どンドン**話すようにしましょうね。

3) [駅前のコーヒーショップで] A: お客 (サラリーマン) B: 店長

A: すごいですね。あそこにまた、新しいマンション建ててますね。

B: そうなんです。今年になって、これで3つ目ですよ。不景気だつていうのに、マンションこんなに**どンドン**建てて売れるんですかねえ。

A: まあ、ここは都心にも近いし、おしゃれな街だつていうことで、若い夫婦にはすごい人気があるらしいですよ。

【46】 にこにこ

1. 赤ちゃんがにこにこ笑っている。
2. ちえ子さんはいつもにこにこしている。
3. ボーナスをもらってにこにこ顔だ。

文例と意味

1. お母さんがやさしい声で話しかけたので、赤ちゃんはにこにこ笑って、お母さんの顔をずっと見ていた。

<意味>

赤ちゃんは、お母さんが抱いているときややさしい声で話しかけているとき、また、おっぱいをたくさん飲んだときなどには、とてもうれしそうににこにこ笑います。赤ちゃんがにこにこ笑っているのを見ると、見ている人も幸せな気持ちになります。

2. ちえ子さんは、親切でとてもやさしい気持ちを持った人だ。ほかの人に大変な仕事を頼まれたときも、にこにこしていっしょうけんめいやってくれるので、みんなからとても好かれている。

<意味>

とても大変な仕事を頼まれたとき、普通の人にはちょっと困ったような顔をしたり、いやな顔をしたりします。でも、そんなときでもにこにこしてられる人は、性格がとてもいい人です。そういう人は、まわりの人からも尊敬されたり好かれたりします。

3. 今年の4月に売り出した新製品が予想以上に売れて、会社はかなりの利益をあげることができた。それで、社員たちは、去年の倍のボーナスをもらって、みんなにこにこ顔だった。

<意味>

にこにこ顔というのは、何かとてもいいことがあったので、うれしそうににこにこ笑っている顔のことです。だれかがにこにこ顔をしているときは、ほかの人が見てすぐ、その人に何かいいことがあったな、とわかります。

会話例

1) [写真スタジオで] A : 写真屋さん B : 5歳の男の子 C : 子供の母親

A : じゃ、とりますよ。ぼく、もう少しにこにこって笑えないかな？

C : ほら、一郎、カメラのほう見て。にこにこしなさい。

B : いやだあ、つまんない。

A : あのね、ぼく、すぐ終わるから。ちょっとだけ^{にこにこ}ってしてみてくださいないかなあ。・・・あ、そうそう、いいよ。はい、じゃ、とりまーす。

2) [昼休みに会社の食堂で] A, B : ゆみこと同じ会社の同僚

A : ゆみこ、先週婚約したんだってね。大っきなダイヤの指輪、見せてくれて。すごうれしそうだったよ。

B : そうそう、私もゆみこから話、聞いたけど、もうにこにこ顔だったよ。

A : 相手は、ABCホテルの社長の息子なんだって？

B : そうらしいね。ゆみこのお父さんの知り合いが紹介してくださったんだって。

【47】 のろのろ

用例

1. 牛が^{のろのろ}と歩いている。
2. 行列が^{のろのろ}と進んだ。
3. ^{のろのろ}していると遅れるよ。
4. 連休で高速道路はどこも^{のろのろ}運転だ。

文例と意味

1. いなかの道を車で走っていたら、牛が^{のろのろ}と道を歩いているのが見えたので、びっくりして車を止めた。

<意味>

牛が^{のろのろ}歩いているというのは、牛は歩くのが遅い動物なので、その歩き方がとてもゆっくりに見えるということです。人の場合は、速く歩くこともできるので、人が^{のろ}

のろ歩いているというときは、年取っているとか疲れているとか、または歩きたくないなどの理由で、ゆっくり歩いているということになります。

2. ディズニーランドに行ったら、人気のある乗り物の前に長い行列ができていた。列の一番後ろに並んだら、しばらくして列がのろのろと進んだが、少し進むとまた止まった。

<意味>

行列がのろのろと進むというのは、行列がとてもゆっくり進むということです。そんなときはたいてい列が少し進んでは止まり、また少したつとのろのろ動き出すということが多いです。だから、乗り物に乗れるまでにはとても時間がかかります。

3. 小学1年生の息子は、朝なかなか起きられない。そして起きてからも、着替えるのも顔を洗うのもろろろしているのです、いつも学校に遅れそうになる。

<意味>

ろろろしているというのは、何かをする動作が遅く、とても時間がかかるという意味です。だから動作がろろろしている人は、朝出かけるまでに時間がかかるので、学校や会社に遅れることがよくありますし、まわりで見ている人は少しいらする感じです。

4. 毎年8月のお盆休みになると、地方に向かう高速道路はどこもすごく込み、何十キロも車がつながってのろのろ運転になる。そしてふだんなら3時間で行けるところが、10時間ぐらいかかることもめずらしくない。

<意味>

のろのろ運転というのは、電車や車が普通のスピードよりずっと遅いスピードで走ることです。例えばふだんはとても速く走ることのできる高速道路も、渋滞したときには本当にゆっくりしか走れなくなります。のろのろ運転をしているときの車の速度は、だいたい時速10キロ以下になります。

会話例

1) [小学校の遠足で山登りをしている] A:生徒 B:先生

A:先生、もう疲れたー。

B:そうか。もう少しだから、がんばれ。ほら、そういうふう到的のろのろ歩いてるともっ

と疲れるぞ。

A：だって、足が痛いんだもん。あと、どのぐらい？

B：あと、20分も歩けば頂上に着くぞ。さあ、がんばれ。

2) [高速道路を走る車の中] A：夫 B：妻

A：あー、それにしてもひどい渋滞だなあ。

B：ほんと、さっきから全然進まないじゃない。

A：三連休で込むのはわかってたけど、これじゃ、家に何時に着けるかわからないなあ。

B：そうね。のろのろでもいいから、少しでも進むといいんだけど。

【48】のんびり

用例

1. 温泉に入ってのんびりする。
2. 休みの日は、のんびりと過ごしたい。
3. のんびりしていると、間に合わないよ。
4. のんびりした船の旅が大好きです。
5. 母はのんびり屋で、いつも父を待たせている。

文例と意味

1. 週末に、家族で温泉旅行に行った。山の中の温泉は静かで、客もあまりいなかったし、久しぶりに本当にのんびりすることができた。

<意味>

家にいて何もしないでリラックスしたり、どこか景色のいいところや旅先などでゆっくり時間を過ごすことを、のんびりすると言います。

2. 私は団体旅行は好きではありません。時間が決められていて、みんなとても忙しくいろいろな所に行かなければならないからです。旅行に行ったら、いろいろな町のはしからはしまで、1日かけてのんびりと見て回るのが楽しいと思います。

<意味>

旅行に行ったときに、時間がたくさんあるので、あまり急がないでゆっくり見て回るとを、**のんびり**と見て回ると言います。

3. 駅のホームに着いたとき、特急電車の出発時間まで30分以上あったので、ホームにあるコーヒーショップに入ることにした。コーヒーを飲みながら**のんびり**していたら、出発のアナウンスが聞こえ、ベルが鳴り始めたのであわてて電車に飛び乗った。

<意味>

電車に乗る前に、コーヒーを飲みながら**のんびり**していたというのは、まだ出発まで時間がたくさんあると思って安心して、ゆっくりコーヒーを飲んでいたということです。**のんびり**しているときは、思ったより時間が早くたつので、気がついたときにはもう時間がほとんどない、ということがよくあります。

4. 今はまだ長い休みもとれないし、海外旅行はいつも飛行機で行っているが、歳をとったら1ヶ月ぐらい**のんびり**した船の旅をしたいと思っている。

<意味>

のんびりした船の旅というのは、例えば外国に旅行するとき、飛行機と違って船で行けばとても時間がかかるけれども、急ぐ必要がないので、船の上でゆっくりと楽しむことができるような旅のことです。船だけでなく、あまり速くないと思う乗り物、例えば普通列車などに乗って行くときや時間がたくさんあって一つの場所に長い時間いてゆっくり見て回るといようなときも、**のんびり**した旅をすると言います。

5. 中村さんは、**のんびり屋**なので、いつも約束の時間に遅れてくるし、食事をするときも一人で最後まで食べている。

<意味>

時間がないのにゆっくりしていて遅れてしまったり、ほかの人より何でもやるのが遅い人を、**のんびり屋**と言います。ある人が**のんびり屋**だというときは、少しマイナスイメージが入ります。

会話例

1) [会社で] A : 男性社員 B : 課長

A : 課長、今度の連休はどこかに行かれますか。

B : いや、子供が小さいときはよく家族で出かけたけどね。最近はまだ出かけても疲れちゃうし、とにかく家で**のんびり**していたいね。

A : そうですか。連休は、どこも人でいっぱいですからね。

2) [大学の教室で] A : 女子学生 B : 男子学生

A : あれ、もう授業が始まるっていうのに、山田くんがまだ来てないよ。どうしたんだろう。

B : あいつ、ほんとに**のんびり**したやつだからなあ。今ごろやっと寮を出たころじゃないか？

A : えーっ！山田くんが来ないと、グループ発表が始められないじゃない。困るなあ。

【49】ばたばた

用例

1. 風で旗が**ばたばた**揺れる。
2. 鳥が**ばたばた**と飛び立つ。
3. 廊下を**ばたばた**走る音がする。
4. 赤ちゃんが手足を**ばたばた**させる。
5. 暑さで人が**ばたばた**倒れる。
6. 朝はみんな**ばたばた**と出かけていく。
7. 忙しくて**ばたばた**している。

文例と意味

1. オリンピック会場に並んだ各国の旗が、強い風で**ばたばた**揺れている。

<意味>

旗が**ばたばた**揺れるというのは、強い風が吹いて、旗が**ばたばた**と音を立てて激しく揺れることです。風の強い日には、外に干してあるシーツなどの洗濯物や、店の前にかけて

あるのれんなども**ばたばた**と揺れます。

2. 庭の木の枝に、大きくてきれいな色の鳥が止まった。よく見ようと近づいたら、**ばたばた**と羽を広げて飛び立ってしまった。

<意味>

木の枝などに止まっていた鳥が飛び立つときは、羽を大きくひろげてとても速く動きます。そのとき、鳥の羽は**ばたばた**という音を出します。また鳥が羽を速く動かすようすも、羽を**ばたばた**させると言います。

3. 昼休みになるといつも、子どもたちが廊下を**ばたばた**走る音が聞こえる。うるさいし危ないので、廊下は静かに歩くようにと注意している。

<意味>

子どもたちが廊下を**ばたばた**走るとするのは、大勢の子どもが元気よく廊下を走って、その足音が**ばたばた**とうるさく聞こえることです。廊下を**ばたばた**走ると、ころんだりぶつかったりして危ないので、先生たちは「**ばたばた**走らないで静かに歩きなさい」と注意します。

4. お風呂からあがった元気な赤ちゃんが、ふとんの上で手足を**ばたばた**させている。

<意味>

生まれて半年ぐらいの元気な赤ちゃんを、お風呂に入れた後ふとんに寝かせると、お風呂に入ったことでとても気持ちがよくなるのか、ふとんの上で手足を元気よく動かします。そのようすを、赤ちゃんが手足を**ばたばた**させると言います。このとき、赤ちゃんの手足がふとんに当たって**ばたばた**という音が聞こえることもあります。

5. 夏休みのとても暑い日に、グラウンドでサッカーの練習をしていた小学生たちが、何人か**ばたばた**と倒れてしまった。

<意味>

人が**ばたばた**と倒れるというのは、暑さや疲れ、病気などのために、次々と倒れてしまうことです。人が急に倒れるとき、ばたんという大きな音がしますが、**ばたばた**倒れるというときは、倒れるようすやその音よりも、何人かの人が次々に倒れるというイメージが

あります。また、この次々にというイメージから、スポーツの試合などで続けて負けるときに「**ばたばた**負ける」と言ったり、店などが商売がうまくいかないで次々につぶれてしまうときも、「**ばたばた**つぶれる」と言ったりします。

6. 朝は、夫も子どもたちもみんな時間がないので、**ばたばた**と出かけていきます。

<意味>

朝は、起きてから出かけるまでに忙しく、ゆっくりいろいろなことをする時間がありません。それで、家族が出かける前は、みなが急いでいろいろなことをしたり、家の中を**ばたばた**と走ったりします。そのとき、家族が**ばたばた**と出かけていくと言います。

7. きょう新しい家に引っ越しした。部屋の中に荷物が入ったダンボールの箱がたくさんあり、朝からいっしょうけんめい片付けているが、夜になってもまだ**ばたばた**している。

<意味>

引っ越ししてから何日かは、荷物の入ったダンボールが部屋の中にたくさんあり、それを開けて荷物を出したり、いろいろなものを片付けたりしなければならないので、**ばたばた**します。引っ越しだけでなく、旅行に行く前や、仕事など何かしなければならないことがたくさんあってとても忙しいと思うときも、**ばたばた**していると言います。

会話例

1) [大学生がクラスメートに電話している] A：女子大学生 B：男子大学生

A：どうしたの。昨日と今日、大学、来なかったでしょう。

B：週末に引っ越ししたんだ。それで、まだかなり**ばたばた**してるんだよ。

A：そう、引っ越ししたんだ。部屋の片付け、大変でしょう？

B：うん、全然片付かないよ…。でも、明日は大学に行くから。ノート、貸してね。よろしく。

A：えーっ？ またあ？

2) [病院で、見舞いに来た家族と話している] A：入院している子ども B：Aの母親

A：さっきから、**ばたばた**と廊下を走る音が聞こえるけど、何かあったのかなあ。

B：さあねえ、だれかが急に具合が悪くなったときは、看護婦さんが急いでお医者さんを

呼びに行ったりするから、それで、**ばたばた**走ってるんじゃない？

A：そうか。ほんと、看護婦さんって大変だよな。

3) [映画館を出たところで、映画を見終わった夫婦が話している] A：妻 B：夫

A：わたし、やっぱり戦争の映画は苦手だわ。

B：そう、どうして？

A：だって、映画のシーンだってわかってても、人が撃たれて**ばたばた**倒れていくの見たら、なんか気分悪くなっちゃって。

B：うん、本当の戦争は、もっと怖いだろうけどな。でも、これはアカデミー賞もとってるし、やっぱりいい映画だと思うよ。

【50】はっきり

用例

1. めがねをかけると**はっきり**見える。
2. 大きな声で**はっきり**話してください。
3. 寝不足で頭が**はっきり**しない。
4. **はっきり**しない天気が続く。
5. **はっきり**した予定が立てられない。

文例と意味

1. 中学生のとき、急に目が悪くなって黒板の字がよく見えなくなった。それで近眼用のめがねを作ってかけたら、今まで見えなかった黒板の小さな字も**はっきり**見えるようになった。

<意味>

近くのものが見えても遠くのものが見えないという人は、近視用のめがねをかければ遠くのものも**はっきり**見えるようになります。その反対に、近くのもの**はっきり**見えないのは遠視または老眼で、その場合は遠視用のめがねをかければ新聞の小さな字なども**はっきり**見えるわけです。

2. 大勢の人の前でスピーチをするときは、大きな声ではっきり話してください。そうしないと、一番後ろの人によく聞こえませんが。

<意味>

すぐ近くにいる人や数人の人に向かって話すときは、小さな声でも聞こえますが、人がたくさんいる大きな部屋で話すときは、口をちゃんと開けながら大きな声で一つひとつの言葉をはっきり話さないと、後ろのほうの人には、何を言っているのかよく聞こえません。

3. 昨日の夜ずっとテレビの深夜番組を見ていて、気が付いたら寝たのが午前3時だった。それで朝7時に起きたら、寝不足で頭が重く全然はっきりしなかった。

<意味>

夜寝るのが遅くて、3時間とか4時間しか寝なかったとき、たいていの方は次の日の朝眠くて頭がぼんやりしてしまい、何かをよく考えることができません。そんなとき、寝不足で頭がはっきりしないと云います。

4. このごろずっと、朝からくもっていて、時々雨が降ったりやんだり、はっきりしない天気が続いている。それで毎日出かけるときにはかさを持って行くようにしている。

<意味>

空がくもっていて、時々雨が降るけれどずっと降るわけではない、もちろん太陽が出て晴れるということもない、というような時、はっきりしない天気だと言います。天気ははっきりしない時は、出かける時かさを覚えていったほうがいいかどうか迷います。日本では梅雨の始めごろは、ずっとはっきりしない天気が続きますが、梅雨の終わりごろには、雨が強く降ることが多いです。

5. 来年の夏に家族で海外旅行に行こうと考えているが、会社の休みがいつとれるかわからないので、まだはっきりした予定を立てることができない。

<意味>

家族で海外旅行に行くために1週間ぐらい休みたいと思っても、サラリーマンの場合はなかなか休みがとれないことが多いです。また、急に仕事の予定が変わって忙しくなり、休もうと思っていた日に休めなくなることもあります。それで、どこの国に行くのか、い

つ出発するのか、何時の飛行機に乗るのか、どこのホテルに何日泊まるのかなど、はっきりした予定を立てることが難しいのです。

会話例

1) [交番で] A: 警察官 B: 道を歩いていてかばんをとられた人

A: 犯人はどんな顔でしたか。

B: それで、突然のことだったので…はっきり覚えていないんです。

A: 背はどのくらいでしたか。めがねをかけていたとか、髪の毛の長さとか覚えていることはありますか。

B: えーと……。背は170センチくらいだったかなあ。髪は短かったと思います。あ、でもどうかなあ……。すみません。はっきり思い出せません。

2) [休日の鎌倉で] A: 若い男性 B: Aの彼女

A: 休日の鎌倉はほんと人が多いね……。あれ、どうしたの？疲れた？

B: うーん、やっぱり今日は出かけないで、家にいればよかったかな。昨日からちょっと頭が痛くて……。

A: なんだ。それなら昨日そうはっきり言えばよかったのに。

B: ごめんなさい。でも、たけしさんに行こうって言われて、いやだとは言えなかったんだ。

3) [モデルの選考会で] A, B, C: 選考委員

A: 3番の子、どうですか。

B: モデルらしい、はっきりした顔立ちで、私はいいと思いますけど。

C: 確かに……。背も相当高いですし、スタイルもなかなかですね。

B: ええ、ぱっと人の目を引きつけますよね。

【51】 ぱったり

用例

1. 20年前の友人と**ばったり**会った。
2. ゴールに入ったとたん**ばったり**と倒れた。
3. 客が**ばったり**来なくなった。

文例と意味

1. 昨日、東京駅のホームを歩いていたら、高校時代の友人に**ばったり**会った。20年ぶりだったので、お互いとてもびっくりした。

<意味>

駅のホームで友人と**ばったり**会ったというのは、お互いにそこで会うとは全然思っていないくて、本当に偶然に会うということです。

2. マラソン選手は、2時間半ぐらい走り続けるために本当に体力を全部使います。それで、ゴールに入ったとたん、もう歩くことも立っていることもできなくて**ばったり**倒れることがあります。

<意味>

ばったり倒れるというのは、立っていた人が静かにすわるように倒れるのではなく、立ったままの姿勢で急に前に倒れるようすです。

3. 狂牛病（BSE）の問題が起きて、焼き肉レストランには**ばったり**とお客が来なくなつた。

<意味>

お客が**ばったり**と来なくなるというのは、例えばそれまで毎日100人ぐらいお客が来ていたレストランが、あるときから急にお客が減って、1日5人ぐらいしか来なくなるということです。また、昼のランチタイムだけお客が来て、その後2時ぐらいからお客が全然来ないというときも、お客が**ばったり**来なくなると言います。

会話例

1) [夕食時の家で] A：母 B：娘

A：今日さ、駅前のスーパーに買い物に行ったら、ゆきちゃんのお母さんに**ばったり**会ったのよ。

B：へえ。ゆきちゃんて、今、何してるの？

A：会社辞めて、専業主婦してるって。もう二歳の子供がいるらしいよ。

B：そうなんだ。あのゆきちゃんがねえ。

2) [レストランで] A：アルバイトの店員 B：店長

A：今何時ですか。

B：もうすぐ2時。

A：そうか。だから、お客さんが**ぱったり**来なくなったわけですね。

B：ああ、うちはお昼どきと夕方に客がどっと来るからね。今のうち、少し休憩とってもいいよ。

A：はい、じゃそうさせていただきます。

【52】はっと

用例

1. 悪い夢を見ては^っと目がさめた。
2. 急ブレーキの音がしては^っとした。
3. 車内アナウンスには^っとして飛び降りた。

文例と意味

1. 暗い道を一人で歩いていて、後ろからだれかに追いかけるというこわい夢を見た。走ろうとしても足が全然前に出なくて、ころびそうになったところで、**はっと**目がさめた。

<意味>

だれかに追いかけているなどのこわい夢を見ているとき、もうだめだ、と思ったところで突然目がさめることがあります。そんなとき、**はっと**して目がさめたと言います。

2. 家の外で、突然「キキキーッ」という急ブレーキの音と「ドーン」と何かがぶつかる音がしたので、**はっと**して外に飛び出した。

<意味>

家の中にいるときに、外で車の急ブレーキの音と何かがぶつかるような大きな音を聞いたら、事故が起きたのではないかと思ってすぐ外に出てみます。そんなとき、**はっと**して外に飛び出したと言います。

3. とても疲れていたのに、電車の席に座ってうとうとと寝ていたが、車内アナウンスで降りる駅の名前を言っていたので**はっと**して電車を飛び降りた。

<意味>

電車の中で寝てしまって、降りる駅に着いたのに気がつかないと乗り過ぎてしましますが、たいていの場合、降りる駅の名前がアナウンスされると、**はっと**気がつくことが多いです。そんなとき、**はっと**してあわてて電車を降りることになるので、ちょっと恥ずかしいです。

会話例

1) [タクシーの中で] A : 客 B : タクシーの運転手

A : 雨の日は道もこんで大変ですね。

B : いやあ、こむのはしょうがないんですけど、それより雨の日の夜は道が暗くて見えにくいから怖いんですよ。道のはしに急に人が見えたりして、**はっと**することが多くて…。

A : たしかに、急に飛び出されたら、すぐには止まれませんよね。

2) [美容院で] A : 店長 B : 新人の美容師

A : お客様の髪をカラーリングする前に、色の間違いに僕が**はっと**気付いたからよかったですけど…。

B : 本当にすみませんでした。

A : これからは、カラーリング剤と担当美容師のメモをちゃんと見ること。いいね。

B : はい。これからちゃんと気をつけます。

【53】 ぱっと

用例

1. ぱっ^っと見て決めた。
2. うわさがぱっ^っと広まる。
3. ボーナスをぱっ^っと使ってしまった。
4. 売り上げがぱっ^っとしない。
5. ぱっ^っとした服を着る。

文例と意味

1. 海外旅行用のスーツケースを買いにデパートへ行ったら、売り場に一つだけとてもきれいな色のスーツケースがあったので、ぱっ^っと見てすぐにそれに決めてしまった。

<意味>

スーツケースやかばんを買うとき、ふつうは大きさや形などいろいろあるので、いくつか見て比べてから買うことが多いです。でも、一つのをぱっ^っと見てそれがとても好きだと思ったら、ほかのものはほとんど見ないですぐにそれに決めて買ってしまうこともあります。そんなとき、ぱっ^っと見て決めたと言います。

2. 森さんと、同じ課で働いている林久美子さんが来年結婚するらしいといううわさがぱっ^っと広まった。

<意味>

社内の誰かが同じ会社の人と結婚するかもしれないといううわさは、とても早く広まります。朝、誰かがその話をしたら、たぶんその日の夕方までには、社内の人ほとんどはみんな知っているということになります。そんなとき、うわさがぱっ^っと広まったと言います。

3. 大学を卒業して4月に就職して、6月に初めてのボーナスをもらった。金額は少なかったけれど、うれしくて全部ぱっ^っと使ってしまった。

<意味>

ボーナスを初めてもらったときはとてもうれしいです。初めてのボーナスを貯金するという人もいますが、欲しかったものをいろいろ買ったり、友達と食事に行ったりして、ぱっ^っと全部使ってしまう人もいます。ボーナスをもらった日とか、その週末までに使ってし

まったようなとき、**ぱつ**と使ってしまったと言います。

4. 今月の店の売り上げがどうも**ぱつ**としない。来月からもう少し商品の置き方を考えたほうがいいだろうか。

<意味>

店を経営していると、やはり一番気になるのが店の売り上げ、つまり毎月どのくらい商品が売れているかということです。先月やその前に比べて、商品が売れなくなっている、つまり売り上げが**ぱつ**としないときは、商品の置き方を変えるとか値段を少し下げるとか何か方法を考えないといけません。

5. 明日は、中学校のときの同窓会がある。10年ぶりにみんなに会うから、ちょっと**ぱつ**とした服を着ていこうと思う。

<意味>

同窓会というのは、同じ学校で勉強した人たちが卒業した後に集まる会です。みんな5年とか10年ぶりに会うことになるので、ふだんとは違う**ぱつ**とした服、つまりほかの人が見て、あ、すてきな服を着てるなと思われるような服を着ていきたいと思うわけです。

会話例

1) [バーゲン会場で] A, B : 女性の友人同士

A : 何かいいの、あった?

B : 全然。どれもすごく安いけど、なんか**ぱつ**としないんだよね。

A : バーゲンなんて、どうせ売れ残った服ばかりだからね。しかたないよ。

2) [男性が多い会社で] A, B : 30代の男性社員

A : 今度、新しく経理に入った女の子、かわいいよね。

B : うん。それに、職場に女の子がいるっていいよな。それだけで、雰囲気**ぱつ**と明るくなるし。

A : そうそう。今まで男だけで、ほんと暗かったもんな。

3) [コンサートのリハーサルで] A : アイドル B : スタッフ

A：衣装を着替えるタイミングをもう一度確認したいんですが…

B：3曲目が終わったところでステージを暗くしますから、その間にぱっと服を脱いで、うしろにいるダンサーに渡してください。

A：わかりました。3曲目の終わりですね。

【54】はらはら

用例

1. 木の葉がはらはらと散る。
2. 涙がはらはらと落ちた。
3. 道で遊んでいる子供を見るとはらはらする。
4. サーカスのつなわたりは、はらはらどきどきの連続だった。

文例と意味

1. 公園の木の葉の色が変わりはらはらと散っていくのを見ると、ちょっとさびしくなる。

<意味>

秋になると、木の葉が赤や黄色に紅葉して自然に少しずつ落ちていきます。また、桜の花も咲いて何日かすると、はらはらと散ってしまいます。そのときの葉や花が落ちるようすを、はらはらと散ると言います。

2. 悲しい小説を読んでいたら、涙がはらはらと落ちて本がぬれてしまった。

<意味>

涙がはらはらと落ちるといのは、声を出して泣いているというのではなく、一人で本を読んでいたたり悲しい映画を見たりしたときに、目から涙があふれてきて静かにほおを流れていくようすです。

3. 家の前の道は1日中車がよく通るのだが、時々子供たちが道でボール遊びをしているので、見ていてはらはらしてしまう。

<意味>

子供たちが車の通る道で遊んでいるのを見ると、いつ車が来るだろうか、車が来たらあぶないなあとも心配になります。そういうときの気持ちを**はらはら**すると言います。

4. サーカスの綱わたりは、男の人が何度もバランスをくずしたので、**はらはら**どきどきの連続だった。

<意味>

サーカスの綱わたりを見ていると、わたっている間にバランスをくずして落ちそうになることがあるので、見ている観客はいつか落ちるのではないかと、見ているのがこわいという気持ちがずっと続きます。そんな時、見ていて**はらはら**どきどきの連続だと言います。

会話例

1) [学芸会で] A: 母 B: 父

A: あの子、いつも同じところでせりふを間違えてたけど、今日はちゃんと言えるかしら。

B: うん、ちょっと心配だな…。おっ、いよいよあの子のクラスの番だぞ。

A: あー、**はらはら**して見てられないわ。

2) [公園で桜を見ながら] A: おじいちゃん B: おばあちゃん

A: 桜ももう終わりだな。

B: 桜の花びらが**はらはら**と散るのは本当に風流ですね。今日は来てよかったですね。

A: せっかくだから、木の下で記念に写真でも撮るとするか。

【55】ばらばら

用例

1. 大粒の雨が**ばらばら**と降ってきた。

2. 人が**ばらばら**と飛び出してきた。

3. 家族の食事の時間が**ばらばら**だ。

4. ジグソーパズルを**ばらばら**にする。

5. **ばらばら**死体が発見された。

文例と意味

1. 空が急に暗くなってきたと思ったら、ビルを出たところで、突然大粒の雨が**ばらばら**と降ってきた。

<意味>

雨が**ばらばら**と降ってくるというのは、雨の粒が大きくて、地面や屋根の上に落ちるときに**ばらばら**と何かをたたくような音がすることです。雨が**ばらばら**降る、とも言いますが、それは雨の降り始めのときに、小さな雨の粒が少しだけ落ちてくる感じを表します。

2. 給食を食べ終わった子供たちは、昼休みに校庭で遊ぼうと、チャイムが鳴ると同時に校庭に**ばらばら**と飛び出してきた。

<意味>

子供たちが校庭に**ばらばら**と飛び出してくる、というのは、数人から十数人の子供たちが、次々と建物から出てくるようすです。

3. うちの家族は、朝、学校や会社へ行く時間がみんな違うので、朝食の時間が**ばらばら**だ。でも夕食は、いつも帰りが遅い父以外、なるべくみんなでそろって食べるようにしている。

<意味>

家族の朝食の時間が**ばらばら**だ、というのは、朝出かける時間がみな違うので、朝起きる時間、そして朝ごはんを食べる時間もそれぞれ違ってしまうということです。例えば、父親は6時半に、中学生の次男が7時、大学に行っている長男は8時、そしてみんなが出かけた後、母親が8時半ごろ、というように、**ばらばら**の時間に食べるということです。

4. 一度完成させたジグソーパズルを**ばらばら**にして、もう一度始めからやってみる。

<意味>

ジグソーパズルを**ばらばら**にするというのは、一度できあがったものを全部くずして、一つひとつ**ばらばら**のピースにしてしまうことです。ジグソーパズルは、できあがったら額に入れて絵と同じように壁にかけることもできますが、何回も作っては**ばらばら**にこわし、また作るというようにして遊ぶこともよくあります。

5. ハイキング客が、林の中で**ばらばら**死体を発見した。警察で調べたところ、1か月前から行方不明になっていた男性のものだということがわかった。

<意味>

ばらばら死体というのは、殺された人の体が、刃物などによって頭、胴体、手足などに切り離されている死体のことです。殺人犯は、死体が見つからないように、殺した人の体を**ばらばら**にして、山の中に捨てたりすることがあります。

会話例

1) [図書館で] A: 図書館の人 B: アルバイトの学生

A: じゃ、ここに置いてある本を元の書棚に戻すことから始めてください。

B: えーと、ラベルの記号と番号を見て戻せばいいんですね。

A: そうです。あ、でも、本の種類も大きさも**ばらばら**だから、まず記号別に整理してから書棚に運んでいったほうがいいですよ。

B: あ、はい、わかりました。

2) [大学の写真クラブの集まりで] A: 部長 B, C, D: 部員

A: 冬休みの合宿、どこにしようか。みんなの意見を聞いて決めたいんだけど。

B: 私は、沖縄に行ってみたいです。海がきれいそうだし。

C: いや、沖縄より北海道だよ。真っ白い雪景色をとらなきゃ。

D: ぼくはあまり遠いところに行きたくないな。交通費、かかるし。伊豆あたりはどうだろう。

A: なんだ、みんな希望が**ばらばら**じゃないか。それじゃ、決めにくいなあ。

3) [保育園で。子供がパズルで遊んでいる] A: 保育士 B: 4歳の子供

A: あれー、ひろしくん、パズルもうすぐできそうだったのに、どうして**ばらばら**にしちゃったの?

B: だって、先生、うまくいかないんだもん。

A: そうなんだ。じゃ、もう1回最初からやってみる?

B: うん。ねえ、先生も一緒にやって。

A : わかった。よし、やろう。

【56】ぴかぴか

用例

1. くつを**ぴかぴか**にみがく。
2. ダイヤモンドの指輪が**ぴかぴか**と光る。
3. 4月から**ぴかぴか**の1年生だ。

文例と意味

1. 明日は大学時代の友人の結婚式に招待されているので、黒い革ぐつを**ぴかぴか**にみがくことにした。

<意味>

革ぐつを**ぴかぴか**にみがくというのは、靴にブラシをかけ、靴専用のクリームをつけてから、乾いた布で何度も拭いて本当にきれいにすることです。きれいにみがかれた靴は、**ぴかぴか**と新品の靴のように光ります。

2. 友達が婚約したといって、婚約指輪を見せてくれた。大きなダイヤモンドが**ぴかぴか**光ってとてもきれいだった。

<意味>

ダイヤモンドは、宝石の中でも一番値段が高く、とてもきれいに光ります。そのダイヤモンドが、強くきれいに光るようすを**ぴかぴか**光るといいます。**ぴかぴか**光るものは、ダイヤモンドのような宝石のほかに、金属やガラスなどがあります。

3. 6歳の息子は来月小学校に入学して、**ぴかぴか**の1年生になる。おじいちゃんに買ったもらったランドセルを毎日うれしそうにしょっている。

<意味>

ぴかぴかの1年生というのは、小学校に入学したばかりで、新しいランドセルをしょって、毎日うれしそうに学校に通っている子供のことで、ランドセルが新しく革が**ぴか**

ぴか光っていることと、学校に通えることがうれしくてしかたない子供の姿が光って見えることから、**ぴかぴか**の1年生という表現をするのです。

会話例

1) [理科室で] A：先生 B：生徒

A：アルミホイルの器に塩と水を入れて、その中に銀のスプーンを入れると・・・。

B：わー、**ぴかぴか**になった。あんなに真っ黒だったのに。

A：すごいだろう？ 簡単だし、お母さんに教えてあげたら、きっと喜ぶよ。

2) [中古車店で] A：店員 B：客

A：こちらの車はいかがですか。

B：これ、本当に中古ですか。かなりきれいですね。

A：前の持ち主が、買ってすぐに海外に転勤されたんです。このお値段で、**ぴかぴか**の新車とほとんど同じですから、かなりお得だと思いますよ。

【57】びっくり

用例

1. 急に大きな音がして**びっくり**した。
2. あの人がどろぼうだったとは、**びっくり**だ。
3. おじいさんから、**びっくり箱**をもらった。

文例と意味

1. 日本に初めて来たとき、朝の電車がすごくこんでいたので、**びっくり**しました。

<意味>

今まで見たことがないものを初めて見たとか、経験したことがないことにであったりしてとてもおどろいたとき、**びっくり**したと言います。

2. 試験の前にあまり勉強しなかった。でも今日、試験を返してもらったら90点もとれて

いたのでびっくりだ。

<意味>

試験で90点をとってびっくりだというのは、試験の前にあまり勉強していなかったのに、もっと悪い点をとると思っていたからです。つまり、考えていたことと違うことが起こったとき、びっくりだと言います。

3. 小さな子供に、びっくり箱を開けさせないほうがいい。子供は本当にびっくりしてこわがり、泣き出すかもしれない。

<意味>

びっくり箱というのは、ちょっと見るとふつうの箱のように見えるけれど、開けると突然、何かが飛び出してきて、開けた人が本当にびっくりするように作られたものです。

会話例

1) [会社で] A : B : 女子社員

A : ねえねえ、あの話、聞いた？

B : え、何の？

A : みちこさんが、木村さんと結婚するって話よ。

B : あー、そうそう。私もきのう聞いて、びっくりしちゃった。

2) [電車の中で] A, B : 男子大学生

A : 今日も朝から暑いよなあ。

B : このごろ毎日、35度ぐらいあるらしいぜ。

A : ほんと、びっくりだよ。もう学校、行きたくなくなるよなあ。

【58】ぴったり

用例

1. くつのサイズがぴったり合った。

2. 子供が母親にぴったりとくっついている。

3. 体にぴったりした服を着る。
4. 9時ぴったりに学校に来る。
5. この仕事は私にぴったりだ。
6. これはプレゼントにぴったりの商品です。

文例と意味

1. デパートの洋服売り場で、色とデザインがとてもすてきな服を見つけた。着てみたらサイズもぴったり合ったので、少し高かったけれど、思い切って買ってしまった。

<意味>

洋服やくつのサイズがぴったり合うというのは、大きすぎず、小さすぎず、サイズが本當にちょうどいいという意味です。洋服は少し大きくてもだいじょうぶですが、くつの場合には特に、サイズがぴったり合っていると、歩きやすくて足も疲れません。

2. 小学校の入学式の日、母親に連れられて教室に入った男の子は、とても緊張したようすで、母親にぴったりくっついて離れようとしなかった。

<意味>

小さな子供は、人が大勢いるところなどに初めて行くと、不安になったり緊張しりします。そんなとき、子供は母親から離れたくないので、母親の手やスカートをしっかりつかんでぴったりとくっついています。

3. 舞台の上のダンサーたちは、みな体にぴったりした服を着ておどっていた。それで、手や足の動きがきれいに見えて、とてもかっこよかった。

<意味>

体にぴったりした服というのは、体の形に合わせて作ってある服です。だから、ぴったりした服を着ていると、服を着ていても体の形や動きがよくわかります。

4. 山田さんは、みんなと会うとき、いつも約束の時間に遅れてくる。でも、今日は、先生もいらっしゃる予定だと言ったら、約束の時間ぴったりに来た。

<意味>

約束の時間ぴったりに来る、というのは、例えば5時に会うと約束したとき、5時ごろ、

つまり5時の少し前、4時55分とか、5時ちょっとすぎではなく、ちょうど5時に来るといことです。

5. 私の友達は、旅行好きでいろいろな外国に行っているし、英語のほかにいくつかの外国語もできる。彼女は、大学を卒業したら旅行会社に就職したいと言っているが、それは彼女に**ぴったりの**仕事だと思う。

<意味>

ある人に**ぴったりの**仕事というのは、その人が好きなことや得意なことができる仕事で、また、その人が持っている何か特別な知識や技術が、その仕事に必要なだったり、役に立ったりすることです。

6. 友達が結婚するので、プレゼントを買いにデパートに行った。何をプレゼントしたらいいかわからなかったので店員に相談したら、結婚のお祝いに**ぴったりの**商品をいくつかアドバイスしてくれた。

<意味>

だれかに何かをプレゼントするとき、何をあげたらいいか、どんなものが喜ばれるかいろいろ悩みます。そんなとき店員に、どんな相手に何のプレゼントをするか話して相談すると、相手が喜ぶようなとてもいいプレゼントの例、つまりそのプレゼントに**ぴったりの**ものを教えてくれます。

会話例

1) [デパートのくつ売り場で] A:客 B:店員

A:あのう、これ、ちょっとゆるいんですけど、もうワンサイズ、小さいのありませんか。

B:はい、これですね。今、お調べしてまいりますので、少々お待ちください。・・・

こちらが一つ小さいサイズになります。

A:ああ、いいですね。これなら**ぴったり**です。じゃ、これ、ください。

B:かしこまりました。

2) [結婚式で] A, B:大学時代の友人同士

A:ねえ、みちこさんと彼、本当にすてきなカップルだよね。

B：うん、あの二人、大学1年のときからほんとに仲がよかったもんなあ。性格も趣味も考え方もほんとに合ってるみたいだよ、お互いに。

A：いいわね。あんなふうに、**ぴったりの**相手と結婚できるなんて・・・。

【59】ふと

用例

1. ふと後ろを見ると、先生が立っていた。
2. ふとしたことから知り合った。
3. 忘れていた用事をふと思い出した。

文例と意味

1. 学校のろうかで、友達とクラスの先生のうわさ話をしていて、ふと後ろを見ると、その先生が立っていたので、本当にびっくりした。

<意味>

ふと後ろを見たというのは、誰かに声をかけられたり、肩をたたかれたりしたというような理由があって後ろを見たのではなく、何となく急に後ろを見たということです。誰かのうわさをしていて、ふと後ろを見ると、その人がいるということはよくあることです。

2. 大学時代にふとしたことから知り合った大木さんとは、卒業してからもずっといい友達で、1年に1、2回一緒に旅行にも行っている。

<意味>

誰かと知り合いになるというとき、同じクラスだったとか、友達に紹介されて知り合ったというような場合と、例えば大学の食堂でたまたまとなり座ったとか、駅で乗り換えの電車について聞いて教えてもらった、というようなふとしたきっかけで知り合う場合があります。そして、ふとしたことで知り合った人と、その後ずっといい友達でいるということもあります。

3. 今日は、昼休みに郵便局へ行って、外国にいる家族に荷物を送ろうと思っていた。で

も、午前中とても忙しかったのでそのことをすっかり忘れてしまった。夜帰るときになつてふと思い出したが、もう郵便局はしまっていたので荷物は出せなかった。

<意味>

とても忙しいときは、大切な用事をうっかり忘れてしまうこともあります。でも、何か全然違うほかのことをしているときに、ふとその用事を思い出してあわてるということもよくあります。この場合の「ふと」は、「ふっと」の形で使うこともあります。

会話例

1) [占いのコーナーで] A: 占い師 B: 客

A: 今日は何を見てさし上げましょうか。

B: あの、恋愛について見てほしいんですが……。今は仕事も楽しいし、すぐに恋人がほしいわけではないんですが、ふと、将来結婚できるかなあって不安になることがあって。

A: わかりました。では、手を拝見しましょう。

2) [テレビのトーク番組で] A: 司会 B: ゲストの俳優

A: 最近ご結婚なさったそうですね。奥様との出会いをお聞きしてもよろしいですか。

B: まあ、ふとしたことがきっかけなんです。

A: ふとしたこととおっしゃいますと?

B: 引越ししようと思って、マンションを探しに不動産屋に行ったら、そこで彼女が働いていたんです。

A: そうだったんですか。

【60】ふらふら

用例

1. 寝不足でふらふらする。
2. 酔っ払いがふらふら歩いている。
3. ビデオで撮った画面がふらふら揺れる。

4. 悪い友達にふらふらとついていく。
5. ふらふらと遊び歩いている。
6. お腹がすいてもうふらふらだ。

文例と意味

1. 昨日、韓国のドラマを何本かまとめてビデオショップで借りてきた。夜になって全部見たら、寝たのが朝5時になってしまった。今日は寝不足でふらふらしながら、学校へ行った。

<意味>

ふらふらするというのは、体の調子が悪いときなどに、まっすぐ立っていることが難しく感じられるようすです。例えば、前の日に2時間とか3時間しか寝ていないと、朝起きたときふらふらします。寝不足以外にも、乗り物酔いで気分が悪いとき、病気で長く寝ていて起き上がったとき、お酒を飲んで酔っ払ったとき、お腹がとてすいたときなどにもふらふらします。

2. 夜11時をすぎると、駅のホームには、たいてい何人か酔っ払った人がいる。ときどき酔っ払って、ホームのはしのほうをふらふら歩いているので、とてもあぶないと思う。

<意味>

お酒をたくさん飲むと、足元がふらふらして、まっすぐ歩けなくなることがあります。夜遅く駅のホームなどで、右のほうへふらふら、左のほうへふらふら歩いている人は、お酒を飲みすぎて酔っ払っていることが多いです。

3. ヨーロッパを旅行したとき、ビデオカメラで美しい街の景色や教会をたくさん撮ってきた。帰ってきてさっそくテレビに映してみたら、ビデオの画面がふらふら揺れていてとても見にくかった。

<意味>

ビデオカメラで撮った画面がふらふら揺れるというのは、何かを写すとき、カメラを持っている手が動いてしまうために、写した画面も左右、上下に揺れるように少しずつ動いてしまうということです。ふらふら揺れる画面はとても見にくいし、長く見ているとなんだか気分が悪くなるような感じがすることもあります。

4. 息子が、学校をさぼってゲームセンターで遊んでいた、と学校の先生から連絡があった。帰ってきた息子に聞くと、悪い友達に誘われて、ついふらふらとついていってしまったのだそうだ。

<意味>

悪い友達に誘われてふらふらとついていったというのは、自分ではそれが悪いことかもしれないとわかっているけど、友達に強く言われて断れなかったとか、やっぱり自分も友達と同じように遊びたいという気持ちがあって、よく考えないでついていったということです。このほかに、迷っているときやどうしたらいいかわからず決められないときも、気持ちがふらふらすると言います。

5. 大学生の息子は、夏休みになってから毎日ふらふらと遊び歩いている。アルバイトもしていないし、家の手伝いもしない。もちろん勉強などしているわけもない。本当に困ったものだ。

<意味>

ふらふらと遊び歩くというのは、特にどこか決まったところへ行くのではなく、毎日いろいろな所へ行っては、友達と会ってしゃべったり、映画を見たり、ちょっと買い物をしたりというように、自分の好き勝手に遊んで時間をすごしているということです。

6. 会社の昼休みに食堂へ行こうと思ったら、急な仕事を頼まれて昼ごはんを食べに行く時間がなかった。その日は、朝ごはんも食べていなかったのだから、夕方5時ごろになったら、お腹が本当にすいてきて、もうふらふらだった。

<意味>

お腹がすいてもうふらふらだ、というのは、朝から夜まで何も食べていないというようなとき、体の力が全部なくなってしまったような感じで、立っていてもふらふらと倒れてしまいそうになることです。

会話例

1) [バスの中で] A, B : 女子大学生

A : どうしたの? なんか、元気ないみたいだけど。

B：わたし、今朝から何にも食べてないんだ。もうふらふらだよ。

A：えーっ！朝からって、もう6時だよ。大丈夫？

2) [家族に、旅行で撮ったビデオを見せている] A：大学生 B：Aの兄

A：えっと、ここが有名なスペイン広場。人がいっぱいで大変だったよ。

B：ふーん。でも、お前、なんか画面がふらふらしてるぞ。歩きながら撮ったんじゃないか？

A：あ、そうかもしれない。

B：だめだなあ。撮ってるときは気づかないかもしれないけど、こんなふらふらする画面じゃ見にくいだろ。ちゃんとカメラを固定して撮らなきゃ。

3) [予備校の相談室で] A：教師 B：受験生

A：田中くん、このごろ成績が落ちてきたみたいだけど、どうしたの？

B：先生、ぼく、T大学を受験するのやめようかと思って…。今の成績じゃ絶対無理だろうし、でも、ほかの大学で行きたいところもないし…。

A：そんなふらふら迷ってちゃだめじゃない？ T大学行きたいって決めたんだから、あきらめないでがんばりなさい。

B：はい。

4) [遊園地で、ジェットコースターから降りてきたところ] A, B：女子中学生

A：あー、こわかった。もう途中でだめかと思った。

B：わたし、なんか気分が悪い…。

A：えー？あ、ほんとに。顔が真っ青だよ。大丈夫？

B：いや、だめかも。なんかふらふらして、まっすぐ歩けない。

A：ちょっと、そこのベンチにすわろう。

【61】ぶらぶら

用例

1. 電気のひもが**ぶらぶら**揺れる。
2. 小さな子供が足を**ぶらぶら**させている。
3. 街を**ぶらぶら**と歩く。
4. 息子は仕事もしないで**ぶらぶら**している。

文例と意味

1. 地震がきて、天井から下がっている電気のひもが**ぶらぶら**揺れた。

<意味>

地震がきて部屋が揺れると、天井から下がっているもの、例えばシャンデリアや電気のひもなどが前後または左右に**ぶらぶら**と揺れます。

2. ホールの座席に座った小さな子供たちは、足を**ぶらぶら**させながら、人形劇が始まるのを待っていた。

<意味>

小さな子供が劇場などの椅子に座ると、足は椅子の下の床に着きません。それで足を前後に**ぶらぶら**と動かします。

3. 友人とパリを旅行した。夕方ホテルに着いて、食事の時間まで1時間ほどあったので、パリで一番にぎやかなシャンゼリゼ通りを**ぶらぶら**と歩いた。

<意味>

町や通りを**ぶらぶら**と歩くというのは、旅行などで自由な時間があるとき、ウィンドウ・ショッピングをしたり、お土産物の店にちょっと入ったりしながら通りを歩いていくことです。**ぶらぶら**歩くのは、特に何か買いたいものや目的がないときが多いです。

4. 今年大学を卒業した息子は、仕事が見つからないので、家で**ぶらぶら**している。親としては、早く就職先を見つけて働き始めてほしい。

<意味>

仕事もしないで**ぶらぶら**しているというのは、高校や大学を卒業しても就職しないで、家で特に何もしていないことです。成人した息子や娘が仕事をしないで家にいると、両親は心配ですし、早くほかの人と同じように仕事を始めてほしいと思います。

会話例

1) [外国の街のホテルに着いたところ] A, B : 友人同士 (女性)

A : さて、これからどうする? 今5時だから、まだ夕食には早いよねえ。

B : そうね。とにかく外に出て街をぶらぶら歩いてみない? 私、ウィンドウ・ショッピング、大好きなんだ。それでもし素敵なレストランとかあったら、入ってもいいし。

A : そうだね、そうしよう。まだ外も明るいしね。

2) [電車の中で] A : 母親 B : 3歳ぐらいの子供

A : ちゃんと座ってなさい。

B : なにー?

A : そうやって足をぶらぶらさせると、となりの人にぶつかって迷惑ですよ。

B : だって、足、下につかないんだもん。

A : しかたないでしょ。じっとしてなさい。

3) [家の玄関で] A : 女子高校生 B : 父親

A : ただいま。

B : お帰り。今、何時だと思ってるんだ。遅くなるときは連絡しなきゃダメじゃないか。

A : あ、今日、ちょっとバイトのあと、公園で友達としゃべってたんだ。

B : なんだ。高校生が、夜ぶらぶらしてるなんてよくないぞ。もっと早く帰ってこいよ。

A : はいはい。

【62】ぶるぶる

用例

1. こわくて足がぶるぶるする。
2. 寒くてぶるぶるふるえた。
3. 犬がぶるぶると体をふるわせた。

文例と意味

1. 高い塔の一番上から下を見たら、人や車が本当に小さく見えたので、こわくて手足が**ふるふる**してきた。

<意味>

高いところから下をのぞいて見ると、落ちることはないと思っても、やっぱり怖いものです。そんなとき、体がこまかくふるえてしまうことを手足が**ふるふる**すると言います。

2. 雪が降っている日に、バス停で長い時間バスを待っていたら、すごく寒くなってきて**ふるふる**ふるえてしまった。

<意味>

とても寒い日に、外で長い時間立っていたら、体が冷えて本当に寒くなり、じっとしていられなくて体が自然にふるえてしまいます。そんなとき、寒くて体が**ふるふる**ふるえると言います。

3. 夏に家族で海に行ったとき、犬も海岸に連れて行った。犬は泳いだあと海からあがってきて、体を何度も**ふるふる**っとふるわせた。

<意味>

たいていの犬は上手に泳ぐことができますが、泳いだあと、自分でぬれた体を拭くことができないので、体についた水をふりはらうために、ぬれた体を何度も**ふるふる**っとふるわせます。

会話例

1) [家から 119 番に電話している] A : 母親 B : 119 番のオペレーター

B : はい、こちら 119 番です。どうされましたか。

A : 助けてください。息子が、息子の様子がおかしいんです。

B : お母さん、落ち着いて。まず、息子さんの様子を教えてください。意識はありますか。

A : ないんです。急に倒れて、**ふるふる**ふるえてるんです。早く来てください。お願いします！

2) [恋人の両親に会いに行く前] A : 若い男性 B : A の恋人

A：は一、緊張する。お父さんに、「お前とうちの娘は結婚させない」なんて言われたら、
どうしよう。

B：大丈夫、大丈夫。昨日電話で話した時は、あなたに会うのが楽しみだって言ってたし。

A：本当かなあ…。だめだ、緊張して手足が**ぶるぶる**するよ。

【63】ペこペこ

用例

1. お腹がすいてペこペこだ。
2. 電話をかけながら、ペこペこ頭を下げる。
3. 社長の前ではペこペこする。
4. アルミの皿がペこペこする。

文例と意味

1. 今日は朝ねぼうして何も食わずに家を出たし、昼休みも忙しくて食べる時間がなかった。だから、もうお腹がペこペこだ。

<意味>

朝ごはんも昼ごはんも食べないで3時ごろになってしまったら、お腹がとてもすいて、何でもいから早く何か食べたいという気持ちになります。そんなとき、お腹がペこペこだと言います。

2. 駅の前で電話をかけながら、ペこペこ頭を下げている人がいた。近くを通っている人が、それを見てくすくす笑っていた。

<意味>

ペこペこ頭を下げるというのは、あいさつするときのように一度だけ頭を下げるのではなく、何度も頭を下げることです。電話で話しているとき、相手が目の前にいないのに、まるで相手が目の前にいておじぎしているように、何度もペこペこ頭を下げる人がいます。

3. 課長はいつも社員にはとてもいばっているが、社長の前ではペこペこしている。

<意味>

課長が社長の前でぺこぺこするというのは、いつも社員の前ではいばっていても、社長に対しては、何度もぺこぺこ頭を下げて、社長にいい態度を見せようとする様子です。

4. 川の近くのキャンプ場で作ったカレーライスを、アルミの皿によそった。食べる時、アルミの皿を手を持ったら、皿がぺこぺこしてカレーがこぼれそうになった。

<意味>

アルミの皿がぺこぺこするというのは、皿がとてもうすいアルミでできているため、少し重いものを入れると、その重みで皿の形がくずれて中身がこぼれそうになることです。

会話例

1) [高校の教室で] A : 男子生徒 B : 同じクラスの女子生徒

A : あー、おなかすいた。もうぺこぺこだよ。

B : えーっ？まだ10時なのに？

A : うん、今日朝ごはん食べる時間なくてさ、何も食べないで来ちゃったから。

B : それじゃ、おなかすくよね。なんか、飲んだら？

2) [昼休み。会社の食堂で] A, B : 女子社員

A : 課長ってさ、私たちにはすごくいばってるけど、部長が来ると急にぺこぺこし始めるよね。

B : そうそう。部長、こわいもんね。でも、その部長も奥さんの前ではぺこぺこしてたりして……。

A : ふふふ、そうかもね。

【64】ぺらぺら

用例

1. 外国語がぺらぺらだ。
2. ぺらぺらよくしゃべる。

3. ページをぺらぺらとめくる。
4. ぺらぺらの紙に書く。

文例と意味

1. 林さんは、子供のときに10年間イギリスに住んでいたので、英語がぺらぺらです。

<意味>

例えば英語がとても上手に、アメリカ人やイギリス人と同じようにながりの速さで、自由に話せるとき、英語がぺらぺらだと言います。中国語がぺらぺらの人（ぺらぺらな人）、日本語がぺらぺらになりたい、のようにも使います。

2. 女子高校生たちが3人、電車に乗ってきた。彼女たちは乗ってから降りるまで30分ぐらい、ずっとぺらぺらおしゃべりし続けていた。よくあんなに話すことがあるなあ、とおどろいてしまった。

<意味>

長い時間、途中で止まらずにずっと話し続けるようすを、ぺらぺら話すと言います。ぺらぺら話していることは、あまり大切ではないことが多いです。また、秘密など、ほかの人に言ってはいけないことをつい話してしまったときなどは、「秘密をぺらぺらしゃべってしまった」と言います。

3. 子供のころよく、家に置いてあった大きな百科辞典を見るのが好きだった。あるとき、ページをぺらぺらとめくっていたら、中から古い写真が出てきた。

<意味>

本などのページをぺらぺらめくるというときは、どこか特別のページを開いて読むとか、第1ページ目からゆっくり読んでいくとかいうものではありません。本のどこか好きなどを何ページか続けてぺらぺらめくって見ていくときは、本の内容はあまりちゃんと読んでいないことが多いです。

4. 外国に手紙を送るときは、びんせんや封筒が厚い紙だと重くて料金も高くなるので、ぺらぺらのびんせんや封筒を使う人が多い。

<意味？>

手紙を書くときのびんせん、そしてそれを入れる封筒がぺらぺらだというのは、びんせんや封筒の材料である紙がとてもうすくて軽いことを言います。紙のほかに、シャツやスカートなど、洋服やその生地がとてもうすいときもぺらぺらだと言いますし、肉が本当にうすく切ってあって、手に持つと向こうが見えそうならいうすいときも、ぺらぺらの肉は味がしない、と言ったりします。

会話例

1) [高校の教室で] A：男子生徒 B：女子生徒

A：みちこさん、K大学の英語科に合格したらしいよ。

B：そう、すごいね。彼女、中学から高校1年まで留学してたからね。英語もぺらぺらだし、それに頭もいいのよ。

A：そうそう。いいよね。

2) [家でテレビを見ながら] A：妻 B：夫

A：あのタレント、最近よくテレビに出てるんじゃない？

B：そうだね。でも、よくあんなに一人でぺらぺらしゃべり続けられるよな。

A：ほんと。あれじゃ、ほかの人が何も言えなくなっちゃうわね。

3) [大学のサークルで] A：男子大学生 B：女子大学生

A：この間、はじめてパソコンで名刺作ったんだ。

B：どれ、見せて。わあ、これ、紙がぺらぺらじゃない。

A：やっぱり？ だめかなあ。

B：そうね。名刺に使う紙はもう少し厚いほうがいいよ。ぺらぺらだと、人間まで軽いつて思われちゃうかもよ。

【65】ぼうっと

用例

1. 頭がぼうっとしてきた。

2. ぼうっとテレビを見ていた。
3. 遠くの島がぼうっとかすんで見える。
4. 火をつけたらぼうっ¹と燃えた。
5. 船がぼうっ¹と汽笛を鳴らした。

文例と意味

1. 風邪を引いたので、薬局で薬を買ってきて飲んだら、頭がぼうっとして眠くなってきた。

<意味>

風邪をひくと、頭や腰、手足が痛くなったり、鼻水やせきが出たりします。風邪薬にはそういう痛みや鼻水などを止めたりする働きがありますが、飲んだあと眠くなって頭がはっきりしない感じになることもよくあります。つまり、何かを考えようとしても頭が働かなくてぼうっとしてしまうので、風邪薬を飲んだときは、運転やあぶない仕事はしてはいけないと言われるのです。

2. 夜 12 時まで残業して家に帰った。そのままソファに寝ころがって、ぼうっと深夜のテレビ番組を見ているうちに寝てしまった。

<意味>

とても疲れているとき、テレビをつけていても、実際はその内容をちゃんと見ていなくて、ただぼうっとテレビの画面をながめていることがあります。ぼうっと見ているだけなので、次の日にその番組の内容を聞かれても全然覚えていないということになります。

3. 雨の日に海岸に行ったら、遠くに島のようなものがぼうっと見えた。

<意味>

雨が降っているときは、陸の上でもいろいろなものがよく見えませんが、特に海の上の船や遠くの島などはぼうっとかすんでしまい、はっきり見えません。だから、島が見えると思っても、それが本当に島なのかどうかははっきりわからないこともあります。

4. バーベキューをするために火をおこそうと思い、始めに古い新聞紙をまとめてマッチで火をつけたらぼうっと燃えたのでびっくりした。

<意味>

バーベキューをするとき、たき木にはすぐに火がつかないので、まず新聞紙のような燃えやすいものに火をつけてそれから木が燃えるようにします。新聞紙はとても燃えやすいので、マッチで火をつけると、すぐに**ぼうっ**と燃えます。

5. 大きな船が、**ぼうっ**と汽笛を鳴らして港を出て行った。

<意味>

船が港を出るとき、ぼうっという大きな音が聞こえますが、それが汽笛の音です。汽笛は港を出るときだけでなく、近くにほかの船が近付いたとき、ぶつからないように注意してもらうために**ぼうっ**と鳴らすこともあります。

会話例

1) [アイドル歌手とのサイン会を終えて] A, B: アイドル歌手のファン

A: 本物はやっぱりかっこよかったね。

B: 私、何か話そうと思ったけど、目の前に来たらつい**ぼうっ**と見ちゃって何も言えなかった。

A: その気持ち、わかるよ。

2) [都庁の展望フロアで] A: 観光客 (男性) B: 観光客 (女性)

A: 富士山、どこだろう。

B: 本当はこっこのほうに見えるらしいんだけど。今日は天気が悪いからね。

A: あれ、あそこに**ぼうっ**と見えるの、あれが富士山じゃないか?

B: ああ、そうかもね。天気が良ければもっとはっきり見えるんだろうけど、残念ね。

3) [オフィスで] A: 上司 B: 部下

A: おはよう。どうした? 何か、朝から顔色が悪いぞ。

B: おはようございます。実は、ゆうべ徹夜でサッカー見てしまって…。

A: それで、**ぼうっ**としているのか……。サッカー見たい気持ちもわかるが、それで仕事ができないようじゃ困るぞ。

B: はい、すみません。

【66】ほっと

用例

1. 試験に合格してほっとした。
2. 手術が無事に終わってほっと安心した。
3. 頂上に着いてほっと一息つく。

文例と意味

1. 中学3年の息子が、近くの県立高校の入学試験を受けた。合格発表の日、もし落ちていたらどうしようととても心配だったが、合格していてほっとした。

<意味>

ほっとするというのは、とても安心するということです。子供が高校や大学を受験するとき、本人はもちろんですが、親も試験の結果が本当に心配です。特に高校受験は、大学受験と違って浪人する（次の年にまた受験し直すためにもう1年勉強する）ことができないので、どこかに合格しないと大変です。ですから、高校の入学試験に合格したときは、本当にほっとします。

2. 80歳になる父が大きな手術をしたが、無事に終わったのでほっと安心した。

<意味>

若い人でも手術を受けることは大変なことです。特にお年寄りが大きな手術を受けることになったら、家族はとても心配になります。ですから手術が無事に終わったときは、ほっと安心します。

3. 初めて3000メートル級の高い山に登った。最後は息も苦しくなって大変だったが、頂上に着いてほっと一息ついたときは、とても気持ちが良かった。

<もっとくわしく>

初めて高い山に登るときは、上のほうに登っていくと息もだんだん苦しくなってきたととてもつらいです。それで、頂上に着いてほっと一息つくというのは、やっと登ったという

安心感とうれしさから、大きく息をはいてリラックスするようすを言います。

会話例

1) [町内会の大そうじの日] A : 町会長 B : C : 参加者

A : 皆さん、今日のご苦労さまです。この辺で少し休みましょう。あちらに冷たいジュースが用意してありますので、どうぞ召し上がってください。

B : ふー。ここは風も通るし、涼しくてほっとしますね。

C : 本当ですね。のどもかわいたし、せっかくですから、ジュースを頂きましょうか。

B : そうですね。

2) [ドライブを終え、レンタカー会社に車を返しに来たところ] A : 若い女性 B : A
の友人の若い男性

A : 無事に車を返すことができて、ほっとしたね。

B : うん、ぼくもしばらく運転してなかったから、ちょっと心配だったけど、事故にもあわなかったし、ほんと良かった。

A : そうね。今回のドライブ、すごく楽しかったから、次はもうちょっと遠くまでドライブしたいな。

【67】ぼんやり

用例

1. ぼんやりと外を見る。
2. 授業中にぼんやりしている。
3. 彼はぼんやりした人だ。
4. 遠くの山がぼんやりと見える。
5. 昔のことをぼんやりと覚えている。

文例と意味

1. 長距離列車に乗って、何もすることがなく、話し相手もないので、ぼんやりと外を

見ていた。でも、いつまでも同じような景色が続いたので、だんだん眠くなってきた。

<意味>

列車に乗っているとき、**ぼんやり**と外を見らるといのは、特に見たい景色やめずらしいものがあるわけではないが、ほかに特にすることもないので、何も考えないで外を見ていることです。**ぼんやり**見ているときは、何か見ているようで、実は何も見ていないということが多いです。

2. 高校生のとき、授業中に**ぼんやり**していて、よく先生に怒られた。

<意味>

授業中に**ぼんやり**しているというときは、先生の話も聞いていないし、教科書やノートも見えていません。つまり、授業をちゃんと受けずにほかの事を考えていたり、または何も考えていないというような場合です。授業中に**ぼんやり**している生徒がいたら、先生はちゃんと話を聞くように、注意します。

3. 田中くんは本当に**ぼんやり**した人だ。電話で大切な伝言を聞いても、メモをとらないからすぐ忘れてしまうし、買い物頼むと、頼んだものと違うものを買ってきたりする。だからまわりの人は本当に困っている。

<意味>

ぼんやりした人というのは、たぶん注意力が足りないために、ほかの人に言われたことをすぐ忘れてたり、頼まれたことと違うことをやってしまったりする人です。そういう人が同じ職場にいと、上司やまわりの社員はととても困ります。

4. 山の中は霧が出ていたので、バスの窓から遠くの山が**ぼんやり**と見えた。

<意味>

山が**ぼんやり**と見えるというのは、霧がかかっているときや細かい雨が降っているときなど、そこに山があるということはわかるけれど、山の形がはっきりと見えないということです。

5. 小学校1年生のときに通っていた小学校の校舎や、担任の先生、クラスの友達のことを、**ぼんやり**と覚えている。

<意味>

子供のときの学校、先生や友達のことを**ぼんやり**と覚えているというのは、夢の中で見たことのように、校舎がどんなだったか、先生や友達とどんなことをしたか、など細かいことははっきり覚えていないけれど、全体の印象として何となく覚えているということです。

会話例

1) [高校の授業で] A:先生 B:女子生徒

A:山口さん、さっきからずっと、何、**ぼんやり**してるんですか?

B:あ、あの、ちょっと考え事してました。

A:だめでしょう、ちゃんと聞いてないと。ここ、大事なところですからね。

B:はい。すみません。

2) [旅館の部屋で] A:お客 B:旅館の人

A:あの遠くに**ぼんやり**と見えるのが、八ヶ岳ですか。

B:ええ、今日はお天気が悪くてあまり見えませんが、晴れた日には、はっきりと見えるんですよ。とてもきれいですよ。

A:そうですか。明日、晴れるといいんですけどね。

3) [中学校の同窓会で] A:女子大生 B:中学で同じクラスだった男子大学生

A:ねえ、中学校のとき、となりのクラスにいた高木さん、覚えている?

B:えっ? 高木さん? どんな子だったっけ?

A:テニス部に入ってた、髪が長くてさ、うちの近所に住んでた子だよ。

B:ああ、**ぼんやり**としか覚えてないなあ。彼女がどうかしたの?

A:彼女ね、この間、駅でばったり会ったんだけど、結婚してもう子供がいるんだって。

B:へえー、そうなんだ。

【68】めちゃくちゃ

用例

1. B君の作文はめちやくちゃだ。
2. 地震で家がめちやくちゃにこわれた。
3. あの店はめちやくちゃな値段をつけている。
4. T大学に合格してめちやくちゃうれしい。

文例と意味

1. B君の書いた作文は、何が言いたいのか何度読んでもさっぱりわからない。漢字やひらがな、それに原稿用紙の書き方も間違っているし、本当にめちやくちゃだ。

<意味>

誰かが書いた作文がめちやくちゃだというときは、まず書いてある内容が全然わからないとか、漢字やひらがなもたくさん間違っているとか、原稿用紙の使い方の決まりも守っていないなど、とにかくひどい作文だということです。

2. 大地震が来て、村にある古い木造の家は、ほとんどがめちやくちゃにこわれてしまった。

<意味>

家がめちやくちゃにこわれた、というのは家の元の形がまったくわからないほどひどくこわれたということです。例えば2階建ての家だったら、2階の部分は全部下に落ちてしまい、屋根や柱もすべてばらばらになっているような状態です。そんなときは、中にあった大きな家具なども、こわれて元の形がわからなくなっていることが多いです。

3. 駅の近くに輸入品を売る新しい店ができた。早速行ってみたが、どの品にもめちやくちゃな値段をつけているので驚いた。

<意味>

めちやくちゃな値段というのは、ほかの店で売っている同じような品と、ものすごく違う値段です。例えば、ほかの店で2,000円で売っているようなTシャツを10,000円で売っていたら、めちやくちゃな値段をつけているということになります。めちやくちゃな値段というときは、非常に安いという場合もありますが、たいていは信じられないほど高いというときに言います。

4. 去年大学受験に失敗して、1年間予備校に通い必死に勉強した結果、今年が一番行きかかったT大学に合格したので、めっちゃくちゃうれしかった。

<意味>

めっちゃくちゃうれしいというのは、言葉ではうまく言い表せないほどうれしい、思わず飛び上がりたくなるほどうれしいということです。例えば、1年間苦しい思いで受験勉強をして、無事希望の大学に合格したというようなときは、めっちゃくちゃうれしいと言います。

会話例

1) [駐車場で] A: 女子大学生 B: 男子大学生

A: ね、あの赤い車、見て。めっちゃくちゃかっこよくない?

B: ほんとだ、あれ、たしかイタリアの車だね。

A: いいなあ、わたし、一度でいいからあんな車に乗ってみたい。

B: ふーん。それなら、ああいう車乗ってるようなお金持ちの彼氏、見つければ?

2) [コンビニで] A, B: アルバイトの店員 (若い男性)

A: おい、店長がさ、今晚中に全員で、新しい商品の入れ替え全部やれだつて。

B: えーっ? 何、それ。そんなめっちゃくちゃなこと言われても、できるわけないよな。

A: ほんと、今まで3日ぐらいかけてやってたんだぜ。

B: おれ、明日試験だし、今日は早く帰らせてもらおうと思ってたのに・・・。

【69】 ゆっくり

用例

1. もっとゆっくり話してください。
2. 川の水がゆっくり流れている。
3. ゆっくりしたペースで走る。
4. どうぞゆっくりしてってください。

5. 後ろの座席は3人がゆっくり座れる。

文例と意味

1. 日本語がまだあまり上手ではないので、先生がゆっくり話せばわかりますが、速く話すとよくわかりません。

<意味>

外国語を習い始めたばかりの時は、相手が一つひとつの言葉をゆっくり話せば何とか分かりますが、少し速く話すと全然聞き取れません。でも、外国語もだんだん上手になってくれば、少し速く話しても聞き取れるようになります。

2. 山の上のほうでは速く流れていた川も、海に近いほうではとてもゆっくり流れる。

<意味>

山の上のほうでは、川の幅が細く流れもとても速いですが、山をどんどん下って海に近づくと、川の幅もずっと広くなり、流れもとてもゆっくりになります。

3. 今日行われる市民マラソンは、だれでも参加できるし何かのレースではないので、みんなゆっくりしたペースで走っている。

<意味>

オリンピックなどで行われるマラソンは、レースなので、みんなができるだけ速く走ろうとしますが、市民マラソンは、最後まで走ることが目的で競争ではないので、みんな自分の好きなペースでゆっくり走ることが多いです。

4. 会社の上司の家を訪問したとき、夕方になったので帰ろうとしたら、奥さんに「どうぞもっとゆっくりしてってください」と言われた。

<意味>

会社の部下や友達が休みの日などに家に遊びに来て、夕方になったのもうそろそろ帰りますと言ったら、たいていの場合、まだ帰らないでもう少しいてくださいという意味で、「ゆっくりしてってください」と言います。

5. 子供が大きくなったので、少し大きいワゴンタイプの車に買い換えた。今までの車に

比べて、後ろの座席は大人でも3人ゆっくり座れるぐらい広くてとても良かった。

<意味>

普通の乗用車は、前に2人、後ろに3人座れることになっていますが、小さめの乗用車の場合、後ろの席に大人が3人座るとちょっと狭いことがあります。でも、ワゴンタイプの大きい車なら、後ろの席に大人が3人乗っても、となりの人と肩や腕がぶつかることもなく、ゆっくり座ることができるので狭く感じません。同じ意味で、ゆったり座れるという言い方もあります。

会話例

1) [家の居間で] A : 客 (男性) B : 家の主人 C : Bの妻

A : あれ、もうこんな時間だ。そろそろ失礼しなくては…。

B : いやあ、まだ早いからもっとゆっくりして行ってくださいよ。

C : そうですよ。せっかく来てくださったんですから、夕食でも召し上がって行ってください。

A : ありがとうございます。でも、遅くなってしまうから、今日はこれで。

C : そうですか。せっかく来ていただいたのに何のおかまいもできなくて、すみませんでしたねえ…。

A : いえ、とんでもない。こちらこそ突然おじゃまして失礼しました。

2) [自動車学校で] A : 教官 (男性) B : 生徒 (若い女性)

A : じゃ、今日はS字カーブに入りますよ。その先を左に曲がって。

B : はい。

A : あ、だめだめ。もっとスピード落として、ゆっくりいかないと。縁石にタイヤがぶつかっちゃいますよ。

B : はい、すみません。

3) [旅行会社のカウンターで] A : 旅行会社の社員 B : 客 (30代女性)

A : こちらのプランですと、ホテルもワンランク上ですし、海が見えるお部屋をご用意させていただきますが。

B：そう、でも値段が2万円も高くなるんですね。それもちょっと困るかなあ。やっぱりもう少しゆっくり考えてから決めます。

A：そうですか。沖縄は今、どのコースも人気がございますから、なるべくお早めにご連絡いただいたほうがよろしいかと…。

B：はい、わかりました。

【70】わくわく

用例

1. 初めて海外旅行に行くのでわくわくする。
2. 入学の日をわくわくしながら待っている。
3. わくわくどきどきの映画を見る。

文例と意味

1. 来月、初めての海外旅行に行く。パスポートをとったり、スーツケースを買ったりしているうちにうれしくてわくわくしてきた。

<意味>

初めて海外旅行に行くときわくわくするというのは、旅行の前にいろいろな準備をしながら旅行のことを考えて、本当に楽しい気分になることです。旅行のことを考えてわくわくしているときは、ほかのこと、例えば仕事や勉強のことはあまり考えられません。いつも旅行のことばかり考えてとても楽しい気持ちになります。

2. 子どもが4月から小学校に入学する。新しいランドセルを買ってもらった子どもは、早く学校に行きたいなあ、入学式の日をわくわくしながら待っている。

<意味>

6歳になった子どもが小学校に入学する前、だいたい2月から3月ごろは、みんな早く学校に行きたいと、期待で胸がいっぱいになります。そんなとき、子どもはわくわくしながら入学式の日を待っていると言います。

3. 先週『ハリー・ポッター』の映画を見に行った。原作を読んで面白いと思っていたけれど、映画は最初から最後までわくわくドキドキで、本当に楽しかった。

<意味>

わくわくドキドキの映画というのは、『ハリー・ポッター』のように、見ているほうも楽しくなるシーンと、少し怖いところやこの先どうなるか心配だという場面の両方があって、とても楽しく面白い映画です。

会話例

1) [会社の昼休み] A: 女子社員 B: Aの同僚 (女性)

A: みちこはお正月休み、どうするの?

B: わたし? 実は・・・ハワイに行くんだ、友達と二人で。

A: えーっ? いいなあ。何日ぐらい行くの?

B: 5日間。でも、わたし、海外は初めてなんだ。もう、今から楽しみで楽しみで、考えるだけでわくわくしちゃう。

A: そうだよな。旅行って、行く前にいろいろ考えるのも楽しいんだよね。

2) [サッカーの試合が始まる前] A: 男子高校生 B: Aの友人 (男性)

A: いやあ、なんかわくわくするなあ。今日の試合にうちの高校が勝てば、全国大会に出られるんだろう?

B: そうだよ。ほんと、1年間ずっとこの日を待っていたって感じだよな。

A: でも、大丈夫かなあ。これで負けたらほんとショックだよ。